

演劇会議



私にとって戦争責任とは一敗戦50周年を迎えー ことばやしひろし
 特集——女性が劇団活動を続けるため——

86

1994年11月

¥700



どうやったら観客をふやせるか、どうしたら
 いきいきした劇団にできるか—— 試行錯誤の
 京浜から発信する仲間たちへのメッセージ。

京浜協同劇団

城谷 護 著

わくわく制作、いきいき劇団

B5判、60頁、500円（送料別）

アートマネージャーのいない劇団は
 観客を無視している劇団といってもい
 い。彼が京浜の経営制作に責任を持ち
 始めてからはすさまじいものがある。

制作の仕事を貧乏くじ扱いさせてい
 る例は多い。本書は全リ演運動に本質
 的な問題を提起しているといえよう。

全リ演議長 ことばやしひろし

全リ演議長 仲 武司

申込先 〒211 川崎市幸区東古市場9-21 電話 044-544-3737 城谷

「ういず」を購読しませんか

PAN（芸術文化振興連絡会議）の情報紙「ういず」の
 購読をお薦めします。各地の注目すべき文化活動や文化行
 政についての情報ははじめ国や企業の文化支援、国際的な
 情報、文化問題についての主張など実に多彩な情報が盛り
 込まれています。全リ演もこのPANに加盟しています。
 制作担当者はもとより、劇団のリーダーのかたにはとくに
 購読をお薦めします。

ういず

A4サイズ、10頁前後、年6回（隔月）刊
 郵送料込みで1部3,000円（2部だと4,000円）

申込先 〒104 東京都中央区銀座1-7 小柳ビル 芸団協内
 PAN（パン）TEL03-3567-8748 FAX03-3567-8714

申し込むときは、全リ演加盟劇団または全リ演関係と書いてください。

■ も く じ

●グラビア(舞台).....	1
●私にとって戦争責任とは一敗戦50周年を迎え— しばやしひろし...	9
●特集・女性が劇団活動が続けるため.....	15
関西ブロック女性座談会—女はやっぱり度胸や—/働きながら子育てしながらの演劇生活35年 室野定子(京浜協同劇団)/あつという間の12年 吉野幸子(仙台小劇場)	
●東・西総会報告 東会議(郡司 勇) 西会議(田中 実).....	27
●東・ブロックゼミ/西・演劇講座.....	34
●息・生き生き やまもとのりこ.....	43
●地域の動き—福岡市の状況— 猿渡公一.....	44
●劇評.....	46
演劇サークル「トラム」『犬の瞳』 金本利雄	
劇団こじか座『ブンナよ木からおいてこい』 三舩 勝	
劇団どろ『ガリレイの生涯』 栗原 省	
●桃さんの演劇みて歩き「第40回鉄演劇祭」雑感.....	53
●中グラビア—顔—(中野 健・早川昭二・園山土筆).....	57
●地域を築く骨太さ(第16回北海道演劇祭=風とレンガの演劇祭 in えべつ) 中野 健.....	63
●劇団銅鑼の海外公演に寄せて.....	68
「アンナさんのこと」 大笹吉雄	
「リトアニアの二つの劇」 岩波 剛	
●<ロシア演劇レポート 1>—やはりリチャーホフ『桜の園』から—付、日本とロシア演劇 I— 桜井郁子.....	73
●北から・南から—劇団通信.....	77
●舞台装置の嘶 佐藤張二.....	90
●稽古場建設(京浜協同劇団、関西芸術座).....	93
●戯曲『俺たちの甲子園』 石原哲也.....	96
○全日本リアリズム演劇会議 住所録.....	111
○事務局だより.....	115
○シンマイ編集長の弁 早川昭二.....	116
東西合同作家会議の予告.....14	海外公演だより.....72
さよなら柘植さん 栗木英章.....67	読者のページ.....89

公演

劇団やませ 『海村』
作・梶谷伸夫 演出・栗谷川洋



◇劇団だいこん座 『恋歌がきこえる』
作・小池倫代 演出・高橋 寛



◇劇団どろ 『ガリレイの生涯』
作・ペルトルト・ブレヒト 演出・合田幸平



舞台



◇劇団静芸 『きらめく星座』 作・井上ひさし 演出・伊藤幸夫

◇劇団はぐるま 『オズの魔法つかい』 作・ボーム 脚色・浅野公蔵 演出・なみ悟朗



◇演劇サークルトラム 『犬の瞳』 作・柴田多美子 演出・戸嶋博光

◇仙台小劇場 『ピーターパン』 原作・ジェームスバリー 脚色・こばやしひろし 演出・石垣政裕





◇劇団支木 『恋歌がきこえる』 作・小池倫代 演出・堅倉憲

◇劇団名芸 『大どろぼうホットエンプロッツ』 脚本・栗木英章 演出・柘植 洋



◇劇団きづがわ 『公園物語』 作・芳地隆介 演出・播岡尊文

◇劇団湖 『冬の提灯』 作・渋谷健一 演出・加藤つよし





◇劇団演集 『広い黄色い土地』 作・木谷茂夫 演出・狩野恭光、浦はじめ

◇青年劇場 『女・おんな・オンナ』作・立原りゅう 演出・堀口 始



◇劇団弘演 『おこんじょうり』 原作・さねとうあきら 脚色・ふじたあさや
演出・宮崎英世

◇東京芸術座 『あわて幕やぶけ芝居—東京空襲3・10』 作・大橋喜一 演出・杉本孝司



私にとって戦争責任とは

——敗戦50周年を迎え——

全リ演・東会議議長

こばやし ひろし

(1)
今年一九九四年八月十五日第四九回目の終戦記念日を迎えた。その日を過ぎると、敗戦五〇年目に入るわけである。この敗戦を終戦とこだわって続けることに戦争責任をあいまいにし続ける日本の姿勢が見事に表れているのである。その五〇年目に入るや、村山総理は明らかにそれを意識してアジア四ヶ国を訪問した。しかし、なお戦争責任を明確にする決断はなく、官僚の

筋書き通り、あいまいにし続けて帰ってきたのである。それどころかマレーシアのマハティール首相に「五〇年前に起きたことを謝り続けることは理解できない」といわれ、絶句したのは驚いた。あいまいさを押し通す負い目で一杯だったので、虚をつかれ返答できなかったのだと思う。滑稽ですらある。直ちに現地の新聞はマハティール首相に反論を加えているが、ここに国の為政者と民衆との間に大きな隔たりを感じずにはおれない。

すなわち現地の政府がいかに日本との経済協力を誼い上げようが、侵略によって受けた民衆の心の傷は口先だけで謝っても消えないのである。それを日本人は分らないし、知ろうともしない。また個々の教師は別として、国としてそれを教えてこなかったし、教えようとしなかった。すなわち、アジアとくに日本と中国、日本と朝鮮の民衆は歴史の悲劇を全く共有していないのである。これからアジアの時代に向かうというのにこれほど日本にとって悲劇はない。

とくに今年一九九四年は中国、朝鮮の民衆にとって忘れられない年なのである。日清戦争一〇〇周年、日露戦争九〇周年、第一次世界大戦八〇周年に当たる。日清戦争はともかく日露戦争はロシアと戦ったと思っている人が多いと思うが、とんでもないことである。日露戦争は朝鮮をめぐる日本のロシアの戦争で、これで朝鮮は完全に日本



◇劇団大阪 『日本の面影』 作・山田太一 演出・熊本 一

◇演劇集団石るつ『都電通りの日の出屋食堂』 原作・みふみ ふみじ 脚本・演出・境野修次
演出協力・矢野 喬



の植民地になったのである。まさに朝鮮人にとっては忘れることのできない戦争なのである。

また第一次世界大戦も中国のドイツ権益の継承だけでなく、二ヶ条の要求によって日本は中国の全面的な支配を求めたのである。北京大学の学生を中心に五・四運動として爆発したのは当然の帰結だった。これによって中国の民衆は目覚め、民族として抵抗を明確に示しはじめた。アジアの民衆はこの一九九四年がどういう年なのか十分知っている。知らないのは日本人だけである。

昨年私は大連市日本演劇研究会のシンポジウムに出た。ホテルについて中国の友人と話しているや、「こばやし先生来年は甲午戦争一〇〇周年ですよ」といわれ、それこそ虚をつかれた。一八九四年の日清戦争を中国では甲午戦争という。私は歴史の教師をしていたから知識としては知っていたが、それが来年というのは全く頭になかったのである。殴った方は忘れるが殴られた者の心の傷は癒えないのである。

翌日の大連市長のレセプションで私が最初に挨拶することになった。日本の総領事より先に挨拶したのだが、これが中国の面白いところである。私は早速「来年は甲午戦争一〇〇周年を迎えます。その一〇〇周年を前にして大連の地を踏むことに非常に緊張を覚えます。私たちはこの過去の歴史を大切にしなければなりません」と挨拶するや、

名前ではない。尊称である)

私は「木口小平は死んでもラッパをはなさなかった」という話は知っているが(これは六〇才以上の人はみんな教科書で習った日清戦争の英雄?)鄧大人なんて知るはずがない。戦争は相手がいる。相手がいる以上相手にも英雄がいるのは当然である。

それだけではない。日清戦争の敗北は中華思想に包まれていた中国人にとっていかにショックだったかは日本人には想像もつかないことである。その中国人の日本への留学が日露戦争で日本が勝利を収めるや多くなる。近代化について日本から学ぶためである。留学生たちは天津の港大沽から船で黄海をわたって下関海峡を通り神戸に上陸、東京へ行く。黄海をわたる時、黄海海戦の敗北の屈辱を若き青年が感じないはずがない。憂国の情を吐露した当時の留学生の詩が多く残されている。その詩を多くの中国人たちが知っているのである。

また下関条約を押しつけられた下関海峡を通るとき、福州の仇満生はその屈辱耐え難く、悲憤と憂愁がつのりのつり、ついに投身自殺をしている。その仇満生の名前を知らない知識人はいないのである。いや、そういうことも私は大連に来てはじめて知ったのである。中国の友人に聞いて始めて教えられたのである。殴った方は忘れてしまっても殴られた者の怨念は消し難く深いことがこれを見てもわか

市長は私のところへ来て「日本人のあなたからこういう挨拶を受けるとは思っていませんでした。感銘を受けました」といって握手されたのである。

大連のある遼東半島は日清戦争によって日本の領土に編入させられた土地である。最初の中国侵略の地なのである。それすら実は中国の友人に言われるまで私の念頭になかったのである。率直なところ恥ずかしいかぎりといっている。歴史の教師でありながら。

また謝れ謝れといわれて謝罪するのではなく、率直に自分の気持ちを伝えるだけでこれほど中国人に感銘を与えらるということにも私は驚きだった。

そのレセプションに瀋陽話劇院の前院長で中国を代表する俳優李默然が出ていた。その李默然が会場を出るやサイン攻めなのである。若いテレビ俳優ならいざ知らず、不思議に思った。ところが理由を聞いて驚いた。すでに一昨年「甲午戦争」という映画が作られ中国で評判を呼んだというのだ。すなわち中国ではテレビや映画で甲午戦争一〇〇周年のキャンペーンが張られているわけである。

その映画の黄海海戦の場面では中国の軍艦致遠が日本の旗艦吉野に火だるまで突込み、艦長は軍艦と運命を共にするのであるが、李默然はその艦長八鄧大人の役で出ているのである。またその八鄧大人Vという英雄を中国で知らない人はいないのである。鄧小平のことではない。(大人は

る。一〇〇年前の日清戦争がそうである。いわんや五〇年前の一五年戦争を忘れようというのが無理である。

歴史は消えない。とくに中国人は世界でもっとも歴史を大切にす民族である。周恩来が「中国人が過去を水に流そうというのは分かるが、加害者である日本人がそういうのは絶対に許されない。日本人にとってそれは大切な大切な教訓だからである」といっているが当然である。

北京人民芸術劇院の英若誠は中国を代表する知識人で俳優としても有名である。天安門事件までは文化部長(日本の文部次官)でもあった。私も親しくさせて頂いているし日本人との交流も多い。その英若誠、日本人には言わないが中国人に漏らす本音では、日本の近代文化は認めないという。彼に言わせれば一〇〇年前までは日本は共にアジアの文化圏であり、脱亜入欧によって得た明治以後の近代文化は中国侵略の成果だというのである。返す言葉かない。彼のお父さんは北京大学の先生で祖父さんは学長だったという典型的な知識人の家庭である。戦争中日本軍にこっそり学生を西安や重慶に送るのに命がけだった親を、若き英若誠は目で見て、体で感じているのである。その日本に対する不信が簡単に薄らぐものではない。これが中国の知識人の一般的な日本観と考えるといいと思う。

すなわち日本人と中国人との意識の落差は実に大きいのである。政府が何といおうと日清戦争以来くり返しくり返

し侵略した日本の姿は民衆の中に焼きついている。それを私たちは忘れてはいけない。

(2)

こうして私たちはアジアの時代を迎える。二一世紀は否応なくアジアの時代である。それを考えると私は恐ろしくなる。ツケは必ず払わなくてはならない。どう払うつもりなのか。

中国を始めとする東アジアの活性力は恐ろしい力を発揮している。いまでこそ日本の経済協力が必要としているが、それを必要としなくなるのはもう目の前に来ている。そのときアジアの民衆の日本への不信に私たちはどう答えることができるのか。

私は戦争中は愛国少年であった。当時は聖戦としか、日本が絶対正しいとしか教えてもらえなかったから一五才の少年としては仕方がない事だと思ふ。それが今でもその当時のままの人がいる、とくに大臣などに多いから始末に困る国である。

ところが幸か不幸か、私の兄は戦争に批判的であった。シンガポールが陥落し、昭南島となって私たちは提灯行列をして帰ってきた。その日、私に向かって兄は吐き出すように云った。「今度の戦争が勝てると思うか」

これには驚いた。私にとっては衝撃以外なものでもな

かった。私は「勝ってるやないか」と叫ばずにはいられなかった。しばらく黙っていた兄はおもむろに云った。「これからの戦争は鉄の消耗戦や。日本の鉄の生産額が七百万トンで、アメリカの鉄の生産額は六千万トンや。どうして勝てる」

グーの音も出なかった私は「大和魂があるわい」と云ったのを覚えている。その兄はその後思いつめたように東條首相、重光外務大臣、大西航空生産局長（最後には特攻隊を組織した人で敗戦とともに自殺している）に「戦争は直ちに止めてほしい」と手紙を出した。ところが大西航空生産局長から返事がきた。その文面の一部は今でも覚えている。

「憲兵警察を差し向けるは容易なれど、前途ある青年を傷つけるのは余の本意でない。猛反省を促して返事を待つ」

兄はこれで敗戦の惨めな日本を見たくないと云って死ぬ気になり、海軍航空隊を受けた。受かって不合格となり、最後は一兵卒となって中国で死んだ。これは私にとって衝撃であった。八月一日を過ぎて兄の偉大さがじわじわと愛国少年の私にわかってきた。ほとんどの日本人が聖戦と信じていた時に信じられないことだったのである。その兄を殺したのは私である。聖戦を信じた私である。兄のことを云えばキリがない。それから私の戦争責任は始まった。

私は子供の頃の遊び友達に朝鮮名でヘンビナという名前

の友達がいた。親もヘンビナと呼ぶから私もヘンビナと呼んでいた。小学校へ入るとき先生から名前を聞かれた。「何と言う名前ですか」ヘンビナは黙って下をむいていた。手をつないでいる私に「どういう名前ですか」と聞かれた。

私は「ヘンビナです」と答えた。みんなは笑った。「ヘンビナ？ 名前が」先生は聞き返した。みんなますます笑った。ヘンビナは泣き出した。翌日『秋本実』と名前を変えて屈けた。先生は「実君ですよ、これから実君と呼ぶんですよ」といわれたが、私は実君なんて呼べなかった。相変わらずヘンビナと呼んでいた。

考えてもらいたい。名前をいわれて泣かなくてはおれないということはどういうことなのだろう。ヘンビナが今朝鮮なり、韓国へ帰っていて名前を聞かれて泣くか。堂々と「ヘンビナ」と答えているにちがいない。これは子供心に私にとっては強い衝撃だった。

(3)

台湾に黄春明という作家がいる。黄春明の『さよなら再見』は英仏独日の四ヶ国語に翻訳されているが、日本の売春ツァーを題材にしたものである。その黄春明は私に言った。

「売春というのは許されるべきものでないかもしれないが、やったとしてもこっそりやるものでしょう。それを団

体で売春するのは世界広しといえど日本人ぐらいしかいません。それもどこへ行くか。韓国、台湾、タイ、フィリピンです。ニューヨークやパリに売春ツァーにいったというのを聞かない。これは日本人の民族的傲慢さという以外にない。アジア人を見下しているからです。

アメリカからフランスから東京へ売春ツァーが来たら日本人はアメリカ人を尊敬するか、馬鹿にするでしょう。日本人はそれに気付いていないのです。台湾人は日本人のことを犬という。犬はこっそりでなく街頭でつがうからです。それに日本人は気付いていない」

私は返す言葉がなかった。大東亜共栄圏の延長上に日本人は相変わらず居座っているのである。これでどうして尊敬される民族になれるでしょうか。

一九八七年南京虐殺五〇周年に南京を訪れた。中国では盧溝橋事件とともにそのキャンペーンが張られていた。日本に帰ったら日本政府はもちろんマスコミも全く無視であった。ところが一九八九年九月一日ポーランド侵略五〇周年には西ドイツのコール首相は四〇周年のとき「歴史から教訓を引き出せないものは現代に対しても盲目である」といった、あのワイゼッカー大統領とともに「ポーランド国民に詫げる」という声明を発表したのである。私は日本とドイツの差をしみじみ味わった。

私は早速南京虐殺を背景にした「長江よ私たちの日々を

忘れないでくれ」というシナリオを書いた。この映画化は日中合作映画であり、資金的にもメドは付いていないが、中国側は熱心であり、いつかは実現すると私は信じている。二一世紀は国際化の時代である。国際化とは文化交流が基礎である。経済的にどのように強くなっても尊敬されるわけではない。文化的に尊敬され信頼されてはじめて友好交流が生まれるのである。それは戦争責任を明確にすることが出発点なのである。ワイゼッカー大統領の言葉は世界を走った。そしてドイツ民族はこれによって尊敬を集めた。言葉がこれほど偉大な力を発揮するということは考えられないことである。経済ではない。戦争責任を明確にし、日本国民がそれを心で態度で示すことである。

私はそういう意味で朝鮮人を自分に突き付け『乾いた湿地』を書いた。続いて中国への侵略戦争を戦死した兵隊の目から『カンナの咲き乱れるはて』、従軍慰安婦の怒りを通じて『黄土にとけゆく赤い赤い陽』を上演した。これからの戦争責任は辛いが大事な私の仕事である。脱亜入欧でなくアジア人に回帰するために。



▼東・西合同作家会議の予告

現在、書き手を中心とした集まりである作家会議は、東と西別々で活動をしています。
「いつか交流したいね」という声は、その都度出ていましたが、やっと念願かなって、次のように合同の作家会議を計画しています。

◎ とき 来年2月4(土) 5(日)
会場 岐阜・中津川 民宿「桔梗屋」

内容については、今後事務局を担当している東の栗木、西の楠本氏らで詰めていきますが、初日を作品討論と交流、二日目は馬籠散策などどうだろうかと考えています。(但しその頃の大雪が気がかりですが……)ともあれ、皆さんの要望を聞きつつ、実りあるものにしていきたいので、多くの方々の参加とご意見をお願いします。

△連絡先▽

東/栗木英章 052182113691
西/楠本幸男 073417317589

特集・女性が劇団活動をするため

関西プロダクション女性座談会

女はやっぱり度胸や!

出席者

久能 淑子	劇団未来	演劇歴33年	子供1人
三沢 和子	劇団コロロ	演劇歴31年	子供2人
別院 丁子	劇団いこら	演劇歴29年	子供2人
河野 元子	劇団芸術座	演劇歴25年	子供1人
山内 佳子	劇団大阪	演劇歴17年	子供2人
池田 広美	劇団きづがわ	演劇歴10年	独身
秦野 智子	劇団息吹	演劇歴3年	独身
山下友希子	劇団息吹	演劇歴1年	独身

司会 栗原 省(いこら)
記録とまとめ 赤松 比洋子(きづがわ)

栗原 演劇会議の発行体制が萩坂さんから引きついで集

団的にやることになり、その第一回の編集会議で「女性の問題」を特集することになりました。今日お集りいただいたみなさんはもう何十年もやっておられる人から、一定の期間やってきてカベにぶつかり、今後どうするかという所にいる人や、始めたばかりでどう続けてゆこうかという人達です。日頃思っていることをぶつけ合って読者のみなさんに共感するところがあれば……と思います。

一、芝居を始めたキッカケ

栗原 みなさん何がキッカケだったんですか? ズーと週のぼって潜在意識も含めてどこから生れてきたんですかね。

久能 学芸会がスタートでしたね。その頃は学芸会という大家族ぐるみでお弁当持ってきてみんな楽しんでたものでしたから、小さい頃から芝居はやりたかったんです。大きくなって看護学校に入ったらすぐに芝居を始めました。その頃は組合活動も活発でサークルもいっぱいあって、それで演劇部に入ったんです。

山内 小学校の時「大きなかぶ」という歌芝居があって何故かソロをもらったんです。それは気持ちよかったなあ



山内

思ってますけど……小、中、高校はコース部にいたんです。大学アカンかったし就職(学校の事務)したから仕事だけやったら面白くないし、何かやりたいと思っていたので誘われて大阪に入ったんです。

山下

桑野 うちのそこへもね、六〇才の人がねーべん舞台に出してもらえんか言うてきたのよ、小学校の学芸会に出してもらえんかった、地主の子や裕富な子しか出してもらえんかった、その怨念でどうしてもやりたい(みんな、あるあると共感の声)若い人のキッカケは何なの?

桑野 やっぱ小学校の学芸会がスタートです。小・中学と演劇部で高校は女子ばかりだったので、宝塚みたいでイヤだと思い入らなかつた。就職してから誘われて息吹に入ったんですけど。



久能

別院 私もラジオにしがみついていたし、ちょっと年代が後なので「赤銅鈴之助」に夢中でした。それから母に連れられて白塗りのドサ回り芝居やろうと思ったんですよ。



別院

に行ったことがあるんです。きれいで今もはっきり憶えています。それと両親が浪曲が好きでラジオでいつも聞いていたので……それで高校演劇に入ったんですけど……新劇に憧れて芝居に入ったのに原

点が浪曲と村芝居だったのかなあ(笑い)。

栗原 うちのそこへもね、六〇才の人がねーべん舞台に出してもらえんか言うてきたのよ、小学校の学芸会に出してもらえんかった、地主の子や裕富な子しか出してもらえんかった、その怨念でどうしてもやりたい(みんな、あるあると共感の声)若い人のキッカケは何なの?

桑野 やっぱ小学校の学芸会がスタートです。小・中学と演劇部で高校は女子ばかりだったので、宝塚みたいでイヤだと思い入らなかつた。就職してから誘われて息吹に入ったんですけど。

山下 もともと芝居に興味はあったんですけど、学校の時、芝居やってる子はオタクっぽい子ばかりでイヤだなと思ってたのでやらなかつたんです。卒業してから友達が息吹の教室に入るの引っぱられていっしに入りました。

池田 中学で演劇クラブに入っていて顧問が演劇集団わだちの先生だったので観に行っていました。その頃きづがわ



河野

の稽古場が出来たので家が近所だったので見学に行って、そのまゝ入ってしまったんです。先生をみていたので働きながら芝居をすることが自分の中で落ちていました。

三沢



池田

河野 子供の時から本を読むのが好きでそれも声を出して読むのが好きだったんです。高校で演劇部だったんですけどみんな将来何になりたいって話し合ってる時、私は芝居やりたいと軽く言ったつもりが聞いた人が関芸の研究所があるよと紹介してくれはっ

てそれが入った……。

二、続ける中でぶつかったことや喜び

栗原 みなさん様々なキッカケや動機で始められたんですけど、意識的にやりはじめたと言うか自分の人生をここに賭けたいと思ったのはいつ頃か、また続ける中で困難や自分と集団との関わりや成長など聞かせて下さい。

三沢 私、今でも迷っていますよ。

栗原 えーそういうもんですか、もう人生の黄昏みたいな人なのにな(笑い)

三沢 そうですよ、今だに母親が「あんたいつになったらやめるの」って言いますよ。十八才でコロの前身アングルですけど、入って回りの人が演劇論とかなんかワァーとやり合ってるの見て私なんて場違いなんやろ、何て不勉強で何も知らなかつたんやろ思ってます。それから二三位までやったら職業替えることも出来るやろ三〇才でもやり直しきくで四〇才になつても今日び四〇位どこでも行けるでと思ってるうちに、あつと言う間に五〇才すぎてもうたんです。これで正しかったんやろかと今も思うてます。

久能 私はキッカケが、組合だったので「私賢くなりそう」と思えたんです。戦争の話や捕虜の問題、結核患者のこと等ほとんど話され「私ここから離れたら賢くなれない」と思っていました。でも安保の後の職場状況が厳しくなつて続けられなくなつた時、地域演劇として「未来」が華々しくやっていたので誘われて入りました。すでに職業を持っていてこれも目の離せない職業だったためのめり込んだのですが、私がいつも「そうそう、そうなんよ、それ誰かに言わな」と思っていたことがいつも芝居の中にあつたんです。

栗原 「未来」は座付作家の和田さんの作品をずーとやっていましたからね、やめようと思ったことはないですか。

久能 あります、子どもを持ってから集団と個人の問題がわからなくなりバランスがとれなくなっている時はやめようと思うたんです。

山内 私は逆にね一人目の子供を生んでからですね、本当に芝居がしたくて、稽古場に行きたくて、産休明けて少し落ちついてきてやっと稽古場に行ける日、地下鉄のホームも階段も稽古場までの道も駆け続けたのを今も鮮明に思い返します。それまではやらなアカンことが多くて走って行くことはなかったんですけれどね。

栗原 職場でもなく家庭でもなく自分の居場所があるということかな、池田さんなんかしまったと思うてますか？

池田 今は全然思いません。そりや恋愛もしたいし、デートがあると稽古行くのイヤだなと思ったことはありますけど……舞台の上で生きるということがなかなかかわからないで夢中ですぎた十年でした。ただ舞台で喋っているだけだったのが昨年の「列車が空から降ってきた」の美代をやって、自分の心を通して役が喋り出すということが解りかけて楽しくなりはじめた所です。でも今年の「公園物語」の色模様やって、また解らなくなりましたけど……。

河野 私は親が反対だったのでも逆にプロとしてやってゆこうという意志が固まったのかも知れません。子供の頃はおとなしい子で何か言われると、ビービー泣いている子だったのが親の反対を押し切ったので、短大行きながらバイト

三、生活者としての女、表現者としての女優

栗原 生活者と表現者ということでは子供の問題や家庭の問題で必ずぶつかるところと思うけど別院さんなんかどう？

別院 私、生活者としては弱いんです。親と同居しているし、甘えている面があるんですけど……私子どもが生まれた時、劇団も生れた時だったんです。前の劇団ですけど……子どもを寝かしつけて早く稽古場へ行きたくて、八時半頃やっとな寝てくれてすぐにバスに乗って九時頃着くんです。もう終りかけてるけど、夫婦共創立メンバーだったのでもうなことが許されただけです……。

久能 私は子どもを置いてけないで連れ歩いたんです。それがいけなかったのかも知れませんが。劇団では役に付いたら子どもを預けてしまっている人もいました。そういう人はファイトがある人、やる気のある人と思われていました。私は子どもも持っている生活者として存在したかったし、働きながら芝居をしている家の子ということを認めてほしかったので、親も居ませんでした……。

三沢 うちは夫婦で役に付くと連れて行かざるを得ない時もありましたけど、基本的には子ども連れてゆくのはキライなんです。自分が集中出来ないし気が散るから……三〇才前後の時馬力あったなあと思うんです。子供2人別々の保育所に入れてたんですけど、丁度保育料値上げ反対斗争

しながら研究所に通うというバタバタ人生が始まったんです。自立した生活をはじめたことが職業としての芝居を選んだと思います。関芸に入った頃の演出家のダメ出しが厳しくてボロンチョンに言われるんですよ、もう立ち上れないほどでした。苦しかったけど楽しかった。

秦野 私も高校で演劇やっていて舞台立った時気持ち良かったし、プロになりたい気持ちもあって小劇場なんかも通いました。でも保母の仕事が好きで辞めたくないので息吹に入ったんですけど、息吹の芝居がやりたかった芝居ではないんですけど（笑い）。

山下 私もプロになりたいと思ってます。十九才やし出来るだけ早く東京に行こうと思っています……。

栗原 やっぱ東京に行きたいの、大阪じゃダメ？

山下 ダメじゃないんですけど状況が整っている方がいいので……劇場もいっぱいあるし、情報も多いしその面で東京の方がいいかなーと思うけど……。

栗原 結婚はどうするのしないの？

山下 まだ結婚なんて考えられないし好きな人もいないし、本当に好きな人が出来たらするかも知れない。

栗原 その時は女優やめるの？

山下 いややめたくない（笑い）。

やってました。学校公演が毎日あって舞台終ったら、すぐに別々の保育所迎えに行き、それから毎日保護者会に出てたんです。ようやくたっと思えますけど芝居に対する考え方も変わりましたし、世の中との関わりも変わりました。生活者としては苦しかったけど表現者としては障害にはなっていないですね。

栗原 日本という社会は女にはハンディキャップがありますね、しかし女優は女しかやれないからねえ、女優として表現者として一番苦労していることはどんなことかな。

山内 今子どもが小学生二人なんです。小さい時はかかえて稽古場に行っていたけど、今は置いてゆくんです。「お母さんまたけいこ行くの」「うん行かなアカンねん」と言うだけやけど、これからは子ども達も批判するだろうし……親も子どもも成長する中で解決出来ることもあると思いますけど……劇団の中で同じ立場の人達と「ママの会」をつくって一年に一回どこかの家に泊ったりして、亭主の悪口から劇団の悪口や子どものことでも思いきり喋って発散してるんです。それで三年に一回でええから、私たちの芝居をやりたいてねと励まし合ってます。

河野 子どもに対しては、これは「当然のこと」と言い切らないといけないと思うんです。「これはお仕事ノ」と言い切ることにしてるんです、そうでないと子どもが曲る、「ごめんね……」と言ってはいけないと思う。そう言う

子どもも「わたしはごめんなことされてるんやわ」と思ってしまうでしょう。

池田 今までは受身的に十年間やらせてもらってた、若い女性が少いので毎回役には付いていたし……でも今からは自分から関わってゆきたいし、自分も劇団も変わってきてと思う。うち稽古暗いんです(笑)。社会問題や労働者とは……とか現実との接点で芝居つくるから暗くなるのかなーそこを明るく出来る劇団にしたい。家庭も持ちたいし、そこで力をつけて劇団に送り出してもらいたいんです。

(ここでみんな声を上げる「誰も送り出してくれへんよ」「そんなこと絶対ないよ」「甘いよ」笑い)

久能 如何に振り切るかやと思うわ、親戚とか近所づき合いとかあって、それを如何に整理するかーでも芝居は人間に観てもらうためのもんやから、人間の生活せんとあかん、家庭はその最小の単位だから持つ必要はあると思う。

三沢 うちは親と同居したので亭主は家計を支えるために芝居やめて働いてるんです。だからと言うて送り出してくるわけやない、やめてほしいとは思ってないが、洗濯もしてほしい、掃除も、ごはんも作ってほしい、帰ってきたらニコリ笑ってお帰らない、と言うてほしいー二四時間を三六時間に使わな追つかへん超人的なものを求めますね。男というのは自立しませんね、いつまでたっても妻に母を求めるので、ほんとに自立しませんね、年がいけば

でいきまーす、なんてやってしまふんです(笑)

栗原 芝居づくりに対する考え方、芸の質が変わってきてるんですね、どちらが正しいとは言えないけど……。みなさんにこれからの夢を一言づつ聞かせて下さい。

四、劇団と共に、あるいは女優としての夢

山下 目ざしているのはミュージカルです。声楽と踊りをはじめようと思ってるんです。早くオーディションでも受けて舞台に立ちたい、今、息吹の研究生でいて楽しいんですけど、将来の夢を考えると早く始めたいですね。

別院 一人芝居「星」を一年間持って回ってたんですけど、従軍慰安婦の話なのでかなり正常と異常の部分や、また色気が要求されてるんですけど、これがなかなか出なくて今の私の夢は色気と艶ですかね。

三沢 色気はほしいわねえ(切実な声にみんな同感)

河野 劇団では企画があつて黙ってたらかなな役が付かない、四五年付かないこともあるんです。世の中、男が動かしてるので本も男性が多いし、マスコミも男優がほとんどなんです。女はボーとしてたら、何年も役につけない、何のための女優か、役者かと思う、だから自分達で企画して作品つくらなあかんと思うんです。学校でも親子劇場でも、もっと売れるいい作品をつくって、やっぱり芝居で食べてゆきたいんです。個人の夢としては小さい頃から

いくほどそうですよ。

栗原 はい(爆笑)ほんとにそうです。

河野 結婚する時はいっしょに芝居しようなというたはずやのに……一つの家族と言うても個人として自立してないで最小単位が成り立たないんです。男性はすごく封建的なものですよ、新劇やってる人は進歩的やと思ってたけど全然ちがう、家に帰れば亭主関白ですね、足を引っばる、そのことでよくケンカもしましたけど、今は女優をやり続けることで乗り切ってるんです。

栗原 やっぱりずーとやってる人はバイタリティーあるというか度胸あるというかすごいなあ、秦野さんはどう?

秦野 どうと言われても……テンション上げて稽古場に入ろうと思ってるんですけど、稽古場地下なのでどんどんテンション下って行く(爆笑)、空気重たくてなんか違うノと思うんです。若い人に頑張ってもらえなーと言うてくれはるんやけど、上の人がみんなバワフルなので(爆笑)出る幕がないんです。

三沢 それ教えてほしいわ、うちもそうやジジ、ババの方が元気で若い子に覇気がないんや、こっちが知りたいわ

久能 私達の若い時は身体を動かし声を出し、すごくやってきましたけど今は高令化してきて、あなたはその手で行きますか、私はこの手でいきますみたいなことになってますが、若い人達が基本もやらないで同じように私はこの手

好きだった朗読の場をつくってゆきたいですね。

山内 池田さんは毎回役に付く言うてはったけど、私の夢は年に一回舞台に立ちたいなあ、それと栗原さんに女優さんで言われてテレビの面があるけど女優さんで通じるようになりたい、プロデュース公演でも打てる力つきたい。

久能 まだいいやと思ってるうちに残りが少なくなってるんですね、それ考えると「これ」というものをまだやり上げてないなと思う、私手弁当でもいい、舞台の端に出てる人でもいい死ぬまでやりたい、一生やっていきたいです。

池田 仕事持って芝居を続けるの難しいけど、それが当り前のことになりたいんです。そして結婚もして続けたいんです。自分がそれをやり切れなかったら口惜しいし……あたり前のこととしてやり切りたいんです。

秦野 今、息吹やめれないのはやっぱりおっちゃんやおばちゃんが好きやから、それと稽古場あつてあそこで公演が出来るのも魅力ですね、いつか自分らだけで芝居を一本やりたい、こんなことを思ってるんやいうことを解ってほしいんです。

三沢 戦争の問題に引っかかっている年代の責任としてそれをやりたいんです、「原爆に夫を奪われて」という一人芝居をやってきましたが来年は戦後五十年なので森南海子さんの「千人針」を今書いてもろてますねん、やっぱり一人芝居ですけど……若い人からは、また戦争かと言われる

るけど「しつこくやったるわい」と思えますねん。

栗原 お話し聞いていると男はのほほんとしとてどうしようもないけど、女はやっぱり地道で度胸あるなあと思います、みなさんの今後の活躍に期待して、今日は終らせていただきます。どうも有難うございました。

働きながら

子育てしながらの

演劇生活三十五年

室野定子（京浜協同劇団）

私の運命の糸

劇団には創立メンバーがまだ六人もいる、否、六人しか居なくなつた。その中に私がいるたアお釈迦様でもご存じあるめエって位の出来事なのだ。

高卒で就職して三年目の一九五六年、組合から誘われて松川事件現地調査に物見遊山の気分に参加、松川守る会に入るハメとなり、次第に「会社従業員」から「組合員」へと意識が変化する。組合の文化祭に芝居をやるうと云い出し教えてくれる人を探していたらこれが建設座（黒沢さんの劇団）の人だった。

このあたりから私の運命の糸は今日へ向かつて手繰られ始めた。一九五九年、劇団創立の為の合同公演に建設座から参加し、一九六〇年、日米軍事同盟、通称「六十年安保」反対斗争に若き血をたぎらせる。

四十九年前、足掛け二年の集団疎開から、栄養失調寸前の小さな身体にシラミをたからせて焼野が原の東京へ帰つて来た。十才だった。あの日の驚き、疎開中の惨めさ、その後の食料・衣料不足などおぞましい記憶は今も消えることは無い。敗戦後五年目には早くも警察予備隊が作られ、その翌年「五十年安保」が調印され、更にその二年後予備隊は自衛隊へと不気味な成長を遂げ、今や、銃を持って海外へ堂々と出かけて行く。こうした世の流れが、おぞましい記憶を持ち続ける私をこゝに踏みとどませる。

劇団人前結婚第一号の私共も伝説的存在となり今では夫婦六組十二名、団内結婚して夫のみ活動している者が四名居り構成比率は高くこの現象は面白い。私の場合、結婚したから続けられた口である。

“出産はタブー”のなかで

結婚して半年も経つと子供がほしくなる。しかし出産は退団を意味し、創立期の劇団は一人の戦力も欠かすことが出来ない状態をみな認めていたから、口にすることも出来ぬいわばタブーであった。やがて思いは募りこの問題を

解決しないことには一步も前へ進めなくなつた。ついに既成事実として四面楚歌から脱出することにした。病院からの帰路嬉し涙があふれてバスにも乗れず歩き通したのを覚えていた。劇団は、なし崩しにやめるつもりでいた。すでに公演体制に入っていたのでこれが最後と張り切ったせいか本番直前に流産の徴候があらわれ、毎日注射を打ってから小屋入りする、仲間が楽屋のPタイルに毛布を敷いてくれた。一九六三年十一月「北方の記録第一部」を打ち上げ、翌年五月長男出産。個人の家に預けて職場復帰、時間になると張ってくる乳も当時は保存などということは考えられず捨てたが、この切なさには体験者しかわからない。

その乳も治まる頃とうとう劇団から帰って来いと説得が始まった。「前回の第二部をやるから同じ役で出てもらわなくては困る」「子供を生んでも続けられることを先輩として示すべきだ」「困難には全面的に協力する」など、何しろご亭主と一緒にのびのびと暮らすのが、ついに根負けして産後四ヶ月目で稽古に入ったが何しろ切腹の後だから初めは声も出ない。かくして一九六四年十一月、又、舞台に立っていた。

乳児園へ入るまで稽古日は個人のお宅へ昼夜預けっ放しで寝ている子を背負って帰ってくる。可愛そうだからと一週間泊めて下さった方がいたが久々に迎えに行ったら顔をすっかり忘れられ情ないことであった。この時期、保育の

謝礼で私の給料の半分は消えていったがお金には代えられぬありがたさである。あの方々の協力がなかったら頓座していたろう。稽古場は三ヶ所をその日代わり、うっかり間違えると遅刻するし、子供もだんだん重くなるので免許を取ることにする。会社と劇団の間を縫っての教習所通いとなりギリギリすべりこみで取得。これで自宅・保育園・夜間保育園・稽古場の四拠点巡りも大分楽になった。ミニバンの横腹に「京浜協同劇団」と名を入れた。

振り返って、この頃が一番苦勞の多い日々だった。夜中に乾かぬおむつのアイロンかけ、様々な伝染病にかかる、予防接種を受ける等々一日として心安まる日は無く、劇団をやめていたらどんなに良かったかと考えていた。夫の協力和職場間の理解で辛うじて保っていた。その後次男が生まれたが、八才年長のこの子がやがて弟の面倒を見るハメとする。二人共、劇団の細田夫妻にはずい分お世話になった。

稽古場の中に保育室

一九七十年待望の第一次稽古場建つ。その後団員夫婦にも次々と子供が生まれていたので保育室つきにした。集団保育もやったが後続がなくやがて保育室は衣裳部屋になった。今建築中の稽古場に保育室は無い、淋しいことである。十数年前に書いた子育て記の駄文の中にこんなくだりが

ある。『劇団子供クリスマス会に子供代表として長男が挨拶に立った。親の仕事を誇りに思っています。僕達是不自由ですが、健康に氣をつけて下さい』と。テレビ隠しの野次をとばしながら涙をぬぐっていたのは私だけではなかったようだ。』

劇団には、劇団員の子は劇団の子という哲学がある。こうした中で成人した二世達（と云うと嫌がるが）は今も何かにつけて集い、バンドを組んだら劇団の舞台に立ったりする。

「今日出来て明日出来ぬはずはない」と思い続けて来た才月であり、それを支えてくれたのは、人が好くて大真面目でかなり手厳しい仲間達だった。

子供も独立し、四十年の会社員生活にもビリオドを打ち、昨年からあこがれの専業主婦となったが長年の習慣でなじめない。亭主顔は期待がはずれて……困ったものです。友人からは老後やる事があっていいねと言われ、時代が変わると妙な付加価値がつくものだと感心している。

最後に受け売り一つ。NHK・TV「人間大学」における木下順二氏の話である。「時代の行列という言葉がある、自分が生きている時代にただゾロゾロとくっついて歩く人々には思想も哲学も生まれません」そして又、ワインゼッカー演説に触れて「過去に目を閉ざす者は現在にも目を閉ざす」に加えて私は「未来へも目を閉ざす」とつけ加

えたい」と。今年八月十五日放映された。その日昼間のテレビの中では若者対象にマイクが向けられていた「今日は何の日か知ってますか」や、あって彼は答えた「アッ！戦争の日？」。

今、子育てをめぐり抜けた母ちゃん団員はイキイキしている。（一九九四年九月二十七日）

あつと、う間の十二年

吉野幸子（劇団仙台小劇場）

いざ書こうと思っても、特にこれといったことなどなく（もちろん、夫と共にやってきたからこそ続いたのですから感謝しています）、「私は絶対芝居を続けていきたい」という決意もなく、今に到っているというのが正直な気持ちです。これを機会に、私は結婚して十二年になるのですが、子育て・仕事・劇団といつも迷いながら、がむしやりに走って来た道をゆっくり振り返りかえてみようかなとそんな気持ちで書き始めました。

結婚するまでは、一日二十四時間が全部私の時間でしたから芝居のことだけ考えていられたし、寝る時間も惜んで劇団活動に励んできました。

そして結婚後、仕事・劇団・家事にと特に家事に慣れて

いない私にとっては、毎日がバニクでした。その上、子育てが加わってからは無我夢中で、毎日が本当にあつという間でした。三度三度の食事作りにおわれ、山のような洗濯物に囲まれ、顔も手も真っ黒に日焼けして……「子育ては体力！」と実感した時期でした。もちろん、そんな中では、劇団にはほとんどいけませんでした。それでも公演日に近づくとやっぱり行きたくなるのです。（せめて菜屋番でも手伝えれば）とか（人手がたりないから、私でも役に立つかもしれない）と言いきかせ、のこのこと会場に出向くのでした。そんな時、娘達は私の実家に預けて出かけたのですが、朝はやく、まだ眠っている子供をタオルケットでくるみ、車に乗せて実家につれていき、夜遅く、もう子供達はすっかりおばあちゃんちの布団で眠っているのですが、それをまた車に乗せて帰るのでした。今思うとまるで荷物の扱いでした。そんな様子をみていた母からは、「こんなことをしてまで行かなくちゃいけないの」「結婚したらやめるんじゃないかなかったの」「常夫（夫の名前）さんはまだしもおまえまで」「子供達がかわいそうでしょう」と何度言われたことか。私自身もまた、まだ小さい娘たちをこんなはしてまで続けることなのかと本当に悩みました。私達は劇団員同志の結婚でした。結婚後、夫はもちろん

劇団活動を続けていたのですが、ちょうど上の娘が生まれた頃から転勤もあって仕事が非常に忙しくなり、二人とも劇団から足が遠のくという時期がありました。「こんなじゃないけない！」という焦りから、どんなことをしても公演日だけはという思いが強かったからかもしれません。娘達を寝かしつけてから、よく二人で話し合ったものです。しかし、いくら話してもよい考えも浮ばず、「今の私達にはこれしかできないのだから、焦らず細く長くやっていこう」その時の私には出口のみにえない長いトンネルの中にいるように感じた。初めての子育てで先がみえず、ずーと、このままの状態が続くように思われました。子どもはすこしずつ大きくなるのだから決してそんなはずはないのですが、その時はそんなふうにしかなかった。上の娘（菜穂子）が四才、下の娘（麻里子）が二才ぐらいの時でした。劇団稽古場で、「貴族の階段」を上演したときのことです。娘達が生まれてから初めての役者でしたし、なによりもまだ子どもが小さかったのですいぶん悩んだのですが、結局引き受けることになったのでした。（この時が石垣氏の強い押しとねばり強さに屈した最初だったかもしれない）いつもは夫にみてもらうはずの娘たちもその日は忙しくて無理だったのでしょう——一緒でした。麻里子をおんぶし、菜穂子の手をひいて連れていったのです。たぶん、公演真近だ



東会議総会 1994年8月20日(土)～21日(日)
静岡県「いなさ自然休養村」「つみくさ」



西会議総会 1994年8月26日(土)～27日(日)
京都八瀬・養福寺会館

東西 総会報告

東会議 郡司 勇(東京芸術座)
西会議 田中 実(劇団息吹)

ったのでしよう。衣裳もつけ、灯りも本番並みでした。ご存じのように「貴族の階段」という作品は2・26事件を題材にした芝居です。舞台も暗く、何ともいえない緊張感の中で恐しくなったんでしよう。始めるとすぐ麻里子が泣き出してしまいました。劇団員がいくらなだめても泣きやまず、稽古を途中で止めるわけにもいかず、結局おんぶして稽古したのです。やっと泣きやんだと思ったら……兵隊が私に銃をつきつける場面でした。「ギャーギャー」大声で泣き出し、泣き声と銃声と転換の音楽と……もうメチャメチャでした。それから麻里子は劇団というところ「こわいところ」。私が劇団に行くと言ってもついて来ませんでした。すっかりきらいになってしまったようでした。

でも、ある時、思ったのです。

「菜穂子も麻里子もこの親の子どもとして生まれたんだからしかたがないのよ!」そうなんです。仕事が終わり夜な夜な歩き劇団などに夢中になっている親がいて、その親に子どもができた。それだけのこと! いろいろあっていいじゃない!」

そう割り切つてからは非常に楽になりました。親の気持ちに通じるのでしょうか。娘たちも楽しんで劇団に行くよ

うになりました。こういうふうに割り切ることができるようになった時が私のトンネルの出口だったのかもしれない。

娘たちのおかげで人の輪が広がり、自分達の住んでいる地域で移動公演を成功させることができ、そして昨年、親と子の劇場「銀のシギ」では親子四人の共演とひとつずつ夢がかなっていききました。こうやっていろいろ思い出してみると、本当にいろいろな事があり、よく続いたなあと感じます。あつという間の十二年でした。

仕事をしながら、そして家庭をもちながら劇団活動を続けていくのは本当に大変なエネルギーを必要とします。でも、ここ十年をふりかえってみて、女性が、特に家庭にはいった女性が文化的な活動をするのにはここ十年で確かに変わったと思います。「私も好きなことをして生きたい」という思いは、女性であっても母親であってもそれは障害にはならなくなったように思います。

仙台小劇場「夏休み親と子の劇場」が始まった年に結婚し、私の家族も「夏休み親と子の劇場」とともに成長してきました。

そして今、私は劇団の仲間(制作部はすべて女性)とともに、

「来年の夏休み親と子の劇場は 四ステージ満席に!」を合い言葉に燃えているのです。乞、ご期待!

東会議総会報告

八月二〇日、二一日の二日間、静岡県の「いなさ自然休養村」「つみくさ」で開催。二二集団二六名と萩坂桃彦氏と西会議から福岡現代劇場の猿渡公一氏が参加。

二〇日午後六時から中野健氏（支木）、中谷源（青年劇場）の議長のもとで、①地域の文化行政の状況及びそれとの関わりについて②各集団の実情と問題点③ブロック活動について、を柱に討論がかわされた。

冒頭に新加盟劇団の関東ブロック所属、劇団阿修羅（欠席）と三浦半島劇団「海」が紹介された。次に猿渡公一氏の紹介と挨拶があった。

本議題に入り、こばやしひろし議長から基調報告があり、六三年の東会議結成から三〇周年を越しているが、その三〇年をふり返って成果と問題点を明らかにする必要があるのだが、まだできていない。現在の世界の状況はアジアの時代、アジアの高度成長期の時代。今日、人間を回復し、生きる喜びを呼び起こす文化の創造が求められている。各地の自治体も地域文化の時代と言いつつ出している。そして各自治体がいらないイベントを企画するようになってきている。そうした中で、地域劇団がどういう視点と方針を持つのかが大事だ。また観客論を重視し、観客と共に文化を創造する視点も大切だ。

こばやし氏）。

京浜協同劇団からは、新人対策が必要。二〇代が二、三人、へたをすると年金者集団になってしまう。劇団を活性化するには、現在建築中である稽古場をどう位置づけるか、それはどういう地域作りをしていくのかということでもある。地域からの要求を待っていたのでは出てこないもので、我々の方が方針を出すことが大事だ。観客動員の最高は八千名、通常四千を確保している。観客とのつながりを維持するためには、葬式の祭壇づくりから太鼓打ち等非演劇的な作業までやっている。

はぐるまから、昨年は劇団創立四〇周年で、「ブッタ」と「オズの魔法使い」を公演し、トータルで一万四千名動員した。動員力が高くなると制作の地位が高まる。スタッフの力が高まり、自信が持てる状況になれば、全体が盛り上がる。

私は、外に開いた劇団を作りたいと、早川さん。そして各地域で定年後の世代や子育ての終わった婦人層に演劇要求、芝居をやりたいという機運が高まってきている。状況はあるので、劇団愛国主義、劇団一國主義をどう打破するかが課題。

出演者がお客に観てもらいたくないという状況では、幕を開けてはいけなし、演出者が一人楽しんでいてもダメ。演出家は、役者を楽しくさせなければ……。と萩坂さん。

次に事務局の城谷氏より、①「演劇会議」編集長に早川昭二氏（銅鑼）、編集委員に萩坂桃彦、石垣政裕（仙台小劇場）、境野修次（石るつ）の緒氏を推薦提案、また議長団の一人に中野健氏、事務局長に城谷護氏（京浜協同）が提案され満場一致で採択された。②活動方針の提案―東西合同作家会議を九五年一月に開催予定。九五年東会議セミナーは、山形にて開催。九六年の全日本演劇フェスティバルは兵庫県で開催。二、三年に一度位で、海外研修も企画したい。

各集団の抱えている問題点や困難な面を率直に出し合うとの提起があり討議に入った。

劇団員が増えない（弘演）、客演者で公演を成りたせている、東洋信託文化財団の助成ではずみがついた（石るつ）、オーディションをやれば集まる（未来半島）、岡部耕大作品でオーディションをしたら、主婦層を中心に六〇人集まった（すがお）、観客を倍々ゲームで増やしていきたい（火の鳥）、劇団員に中学校教師がいて、中学生がくるが中心部分が増えない（三浦半島劇団「海」）、「はぐるま」の活動を典型として学んできた。そのアートのマネージャとしての加納さんの話を聞きたい。に対して長年の経験から稽古を見て「これなら行ける」「これならやりたい」と判断は的確。つまり、制作が創造にアタックする。そして彼女の偉いところは日常的に本探しをしていることだ（と、

埼玉では実働十五名。年に五、六人新しい人が稽古場に一回は来るが翌日から来なくなる。憲法劇で八〇名位集まるが、埼玉に入っていない。埼玉演劇連盟には二〇数劇団が加盟している。が、埼玉は他の地域劇団から疎外されているのでは、色めがねで見られているのでは……。

「赤い劇団」というが、芸術には右も左もない、ダメな芝居をしていては若い人から疎外される（萩坂さん）、支木の場合は、「赤い」と言われていた時は良く聞いていたが、言われなくなつてから制作面でうまくいっていない。組織動員は全くない。現在、政党や労組などへはオルグに行かない。

甲府市内には、二〇位の劇団がある。五劇団加盟の山梨演劇協会があり、文化振興協会主催で敗戦五〇年に因んだ作品を合同公演で行う。観客はやはり、組織動員はなく個人的つながりがほとんど。

火の鳥の泉地さんから、現在の活動を次の世代へ伝えて行く役割があるのでは……とマトメの発言で討議終了、明日へ。懇親会の前に、こばやし議長による劇団名芸・故柘植洋氏への献杯の発声で、全員唱和しました。

二日目は、退席するにあたり、西会議の猿渡氏の発言でスタート。福岡市における演劇状況の話し（この号の別頁でくわしく掲載―参照）。

自治体助成、ブロック活動、「演劇会議」について、会

計報告と予算案提案・他の議題で討議に入った。

まず、自治体助成との関係では、早川さんの方から、スウェーデンの地域劇団は地方都市からの助成で成り立っているそうだ。その例から我々の将来の夢が開けないか。その面では、地域劇団の中核部分が専門化すべき、その周辺に業余劇団が活動する……それが我々の将来像ではないか。その意味で「はぐるま」は専門化すべきだ。それを受けてこばやしさんは、創立十年目にまず、作家・演出家が自立し専門化、十四年目に「総合舞台」を設立、現在三四名の専門スタッフ。その後、制作部門が専門化。

今、「演劇的総合大学」を造れと自治体へ要求している。市民大学等の講師は多くは中央の有名な。川崎市発行の雑誌の執筆も如月小春、岡本太郎等有名人。と中沢さん。

三重県での国民文化祭は今年十月に開催。国民文化祭は演劇・音楽・生活文化の部門で行われるが、三重では一人芝居の方に千五百万、演劇祭には二日間で二千万の予算、その半分が間接経費で無くなってしまふ。文化庁からの助成では演劇フェスティバルに一七〇万、NADAへ六百万（劇団すがお・加藤）。

東京地域演劇祭は東京芸術劇場完成を契機に始まる。市部の方では、多摩演劇祭、立川演劇祭、最近、墨田、江戸川でも始めた。

自治体を利用しながら、創作力をどう高めていくか、受

西会議総会報告

劇団の代表者が集まって、劇団が「いる」の「いない」の、「存続する」の「消滅する」の、と論議したという変わった総会であったわけです。それでは、劇団を「解散して……」などと決議するのもおかしいし、出来るわけのものでもない。もともと最初から結論がでない会議を仕組んでいたわけです。

猿渡議長のような閉会挨拶で終わったように「今、あらためて劇団とは」と言うテーマで総会が持たれました。

◇開会挨拶 仲議長

「ケジメのつかない時代」「何が正しくて、何が間違っているのかよくわからない時代」と言うつぶやきが聞こえてくる中で西日本リアリズム演劇会議が誕生したのですが、今日までの三十年間、我々をとりまく状況は随分様変わりして来ました。

一時期我々が「地域に根ざす」といつてきたが、今や日本国政府の方から「地域の文化」と言うようになってきた。これに対し我々の方が、どういう文化、どういう演劇、どういう劇団をということになると明解になっていない。いろいろがある。経験を交流しながら、「今、あらためて劇団とは」言い換えれば「観客とは」と置き換えられると思うが、

け身ではダメ。創造力、創作力を高めていかないと、自治体は我々の頭越しに企画を立てて来る。とこばやしさん。城谷さんは、各地を回ってみると、自治体への要求が希薄だ。具体的要求をつきつけないと、出るものも出ない。今や、全リ演発信のスローガンが、文化行政に反映される状況になっている。「町づくり公社」から、稽古場建設資金六千万融資（三五年返済）を勝ち取り、前例を作った。文化庁は我々の実態を知らないの、全リ演活動の実態を知らせることが必要、「演劇会議」を読ませることも必要だ、とすがおの加藤さん。

ブロック活動の報告では、中部、山静、奥羽、関東からあった。ボイストレーニング、制作部会など、活発に行われた。奥羽の中野さんからは、演鑑との関係で、やませの「海村」が八戸市民劇場の例会になり、ハステージ。青森演鑑では、四〇周年企画で、支木と「雪の会」がノミネートされている、と報告された。

北海道演劇祭の報告は劇団さつぼろの林中さんから報告。「演劇会議」については、若い人にも読まれる物、海外演劇状況、萩坂さんの「演劇観て歩き」的なページ、劇団になぜ集まってこないのかなど出された。また敗戦五〇周年に向けて、戦争をテーマにしたもの、など。そして、議案と役員改選を満場一致で採択。こばやし議長の組織と創造を強め、我々が文化のヘゲモニーをどう握るかが鍵のマトメで終了。

今の状況をどうとらえるか、現状認識を確認し合う場にした。

◇こばやし議長挨拶

一九九四年という年は、日清戦争百周年、日露戦争九〇周年、第一次世界大戦八〇周年にあたり、終戦五〇周年を来年に迎えるという記念すべき年であります。

今日、これほどアジアが経済的にも、他の面でも影響力が大きくなるのは支配階級も考えなかったように思います。二十一世紀は、確実にアジアの時代になると言えると思います。私たちは、今あらためて、我々の立場で戦争責任を明らかにしてきたかと言うことを考える時期ではないか。

今、日本では、一五〇〇館をこえる会館が出来ています。しかし、文化会館に劇団のない劇場はセメントの塊です。会館は、二〇〇億か三〇〇億かければ二年か三年でできます。ソフトは、お金をかけても二年や三年では出来ません。

二十一世紀には、地元の劇団に目を向けなければならぬ時代が必ずやってきます。そのために私たちは、今から何をしなければならぬか、真剣に考えねばならない。地域で我々をぬきに劇団を作れないという状況を作りださねばなりません。

仲、こばやし両氏は、我々文化活動者、芸術創造者（集

団)にとって好ましい状況、有望な情勢になりつつあると挨拶されているが、そのことを実感できる集団はどれだけあるのか、自治体の要求に対応し、リードできる集団は、どれだけあるだろうか。

劇団報告一 演劇サークルトラム

長い間小集団で、地元のボランティアサークルを巻き込んで公演するとか、老人クラブの人たちと地域の民話劇を作るとかしてきた。三年前に三十周年公演で、オーディションをして四名のサークル員が増えてから公演ごとに増えつつけている。これには、劇団演劇街の創立が刺激になつてうまく作用している。

劇団報告二 劇団あしぶえ

劇団は、劇場を伴わなければ劇団ではないという考えで、八年前から五十人劇場をつくり、三本の作品をロングラン上演してきた。

今年六月第二回アメリカ国際地域演劇祭に「セロ弾きのゴーシュ」を持って参加。「ゴーシュ」は初演から四年半の間に五十五ステージを重ねてきた経験と実績が実を結び、総合第一位に選ばれるとともに、演出賞、舞台美術賞を受賞した。五十人劇場を作った時からの目標であった百人劇場の建設が、八雲村で一九九六年完成の予定ではじまった。

ここを拠点に観客を全国から、世界から迎えたい。五十人劇場でやりたいことも出来なかったことを思いきりやっていきたい。

劇団報告三 劇団どろ

「ガリレオ」は、出演者五十名以上、上演時間四時間を超える作品である。それを団員十名たらずの劇団が、観客の思考、劇団の展望、財政など演目を決める場合当然考慮すべき条件を全く度外視したところから出発した。

それは、主体的条件に左右されるレバの選定が、生き生きとした劇団活動から遠のく方向にあるという危機感からであった。「ガリレオ」の公演は、劇団を生き生きさせ、一人ひとりが初心に戻り、わくわくした楽しさを取り戻す試みである。

今回他集団や、多くの協力者を巻き込んだ取り組みにならざるをえないが、もしこの公演が成功すれば神戸の演劇状況に大きな影響を与える画期的な出来事になるに違いない。

劇団報告四 関西芸術座

関芸の場合、公演収入だけでなくマスコミ収入が大きい比重を占めている(四〇%〜三五%)が、最近マスコミ収入が減少している。

学校公演も週五日制導入と生徒数の激減で公演料が低くなってきている。親子劇場も一作品で多いときは八十ヶ所ぐらい巡演したが、最近、十ヶ所、二十ヶ所も移動で

きれば上々という状態。労演関係は、関西発信の作品ということで少し回復してきている面もあるにはあるが、総じて団の財政は、苦しくなっている。今公演収入で生活できる団員は三分の一、後の団員はなんらかのアルバイトをしている。今までアルバイトは、許可制であった。今や劇団の仕事があってもアルバイトで出られませんかということがまかり通るようになった。役者のプロデュース公演で制作部任せでなく自分たちがやろうという気になればやれる可能性をみせた。又稽古場サヨナラ公演では、自主企画として三本やろうとしているし、他集団への出演も多くなつたり、創造的にも芝居をやりたいという思いが出てきている。

◇ 劇団どろが「ガリレオ」を選定した理由は、一番やりたかった芝居であり、プレヒト作品を上演してきた実績があり、プレヒト作品をやることで自分が変わってきた体験をしている。集団も自分も変わりたい気持ちが強かった。劇団員それぞれに理由があるんだろうが、八時半にならな

いと稽古が始まらない、そのうえボロボロ辞めていく。当初は稽古が楽しみであった時もあったのになぜなくなったのか。今の集団を一度解体したい。

演劇集団和歌山の楠本氏は、確固たる創造理念がないといつもいい集団ですが、一緒に続けてきた仲間がいるということは大きな力だ、稽古場があったから、復帰してくる仲間もいる。劇団は必要だと思ふ。

栗原氏は、プロデュース公演でやりたい芝居をやつてきて、いろんな発見があったし、面白かった。しかし、集団の理念、集団での共通感覚、仲間としての連繋プレイ、観客への責任を持つことなど考えると今、劇団が欲しいと思つている。

◇ レバトリの選定では、いつの総会でも出てくる二つの方式①創造委員会あるいは運営委員会で決定する。②全員会議で合意する。それぞれの集団が長年やってきた方式は、なかなか変わりそうにない。

◇ 世代間格差で印象的だったのは、京芸の若者の団内サークル(と藤沢氏は表現した)D・D・Tの報告である。

「ポップコーン・ネービー」は劇団では出来ないという条件で、外部演出で、稽古場を借りて取り組んだ。お客さんの反応は、「京芸の芝居」と言われたがそのことに不満はない。創造意欲を触発することになり、大いにやって良いとする劇団、修業の場として今後も続けたいというD・D・T。

東・ブロックゼミ／西・演劇講座

奥羽ブロックゼミ、

(一九九四―七三〇―三二)



ひさしぶりのブロックゼミだ。交流して、吸収して、ひとり一人の顔が輝いていた。出会いから数分後、まるで旧知の間柄のように話しこんでいる。演劇のこと、仕事のこと、レバのこと。

この数年間、ゼミをやらすボツたことを恥じる。来年は、東会議のゼミもあるが、むつ市の恐山のふもとでの再会を約して、ゼミの旗をたたんだ。(中野記)

山静ブロックゼミナールの報告

ひさしぶりの山静独自のブロックゼミは昨年加盟の劇団火の鳥の若々しい人達も加わり、更に若々しいシルバー組のやまなみ梅津、静芸伊藤から十九才の若者と巾のひろい年令層で、目標をこえた三一人(やまなみ(8)、火の鳥(10)、静芸(6)、からっかぜ(6)、講師(1))で、静岡の秘境・坂本温泉民宿「羽田山荘」貸切で九月三、四日行われた。

民宿貸切ゼミは、はじめからアットホームな雰囲気、講師の城谷護(全リ演事務局長・京浜協同劇団)さんの「夢を語ろう」ではじまった。普及を創造の最も大切な部分と位置づけ、いつのまにか壁をつくっている私達が夢をもち熱い心で壁をのり越えようという話はゼミを貫く大きなよりどころとなる感動的な話で参加者の胸に落ちた。次いで劇団紹介の発表「民話朗読・語り・大型紙芝居・太鼓」



1994年9月3日、4日 静岡市口坂本温泉羽根田山荘
写真は城谷護氏の「夢を語ろう」

と続き、大交流会は徹夜組も出て盛りあがる。二日目は「夢を語ろう」「俳優の基礎」の二つの分科会も明るく、「場所よし、貸切よし、人よし、講師よし、準備よし、ゼミよし」と明るく再会を約束し「観客倍加するゾ」と語りあい、笑顔で山を降りることが出来た。大成功!!



1994年 8月23日(土)～24日(日) 埼玉県加須市「むさし村」

関東ブロックでは今年の演劇ゼミナールは全リ演未加盟集団を誘い、全リ演の輪を拡げようと目標を立てて七月二三日(土)～二四日(日)に埼玉県加須市の「むさしの村」の宿泊施設を貸切って開きました。新加盟劇団の劇団阿修羅、劇団三浦半島「海」の二集団が新しい風をブロックの中に注ぎこみ、又未加盟集団として参加した劇団は、劇団久喜座(埼玉県久喜市) 空中ブランコ(埼玉県上福岡市) 館林(群馬県館林市) 劇団蒼生樹(神奈川県川崎市) の四集団と個人一名が二日間のゼミナールに参加しました。最近深夜まで開放してくれる施設がなく今回はかなり新しい方法を取り入れました。まず八月末に行なわれていたゼミを、秋公演や稽古の都合もあり一ヶ月早く七月末に行なったこと、施設の使用時間が、午後九時迄となったため、開始を三時三〇分にした(週休二日制のためかほとんどが参加) 交流会も立食パーティ形式にした。会場の方々の御好意によりかなり立派なものとなりました。

二三日(土) 特別講演(萩坂桃彦氏) は萩さんの戦前から演劇とのかかわりや個人の生いたち等々、とても普段聞けないおもしろい話、苦勞された話を聞いたのは、ゼミ参加者だけの大収穫でした。交流会は九時終了ということで、内容を濃くしました。終了後は各部屋で交流は続行、翌日の分科会教室に全員参加したのは驚いた。二日酔いで参加しない人が一人もいなかったのは奇跡です、



このようにゼミは進行していきました。参加者の声、他の劇団の話聞いた、全リ演に入ろうかなと思ってる。こんなに内容が充実してるのなら、今度はもっと沢山の人間に参加してもらいたい。ゼミの内容がとてよかったです。次回ももっとと沢山の集団に声をかけてみます。やまもと先生(ヴォイストレーニング教室)のわかりやすい教え方で体と心が伴って、はじめて発声という、この言葉に感激しました。殺陣、とにかく楽しい、口じゃあ言えない、参加した者しかわからないね、殺陣の芝居がしたい。太鼓教室に参加しました。たった三時間でこんなに出来るとは信じられない、先生方(京浜協同劇団、内田氏、若菜氏)のおかげです、とにかくびっくりした(打てるようになった自分に感激) 太鼓楽しいよ!! 多勢の人が集まるので禁煙をしてもらいたい。全リ演はマンネリになってないか!! このように色々な声を残し、94年演劇ゼミナールは終了しました。尚、総参加者数は一〇八名。

(森本拓治郎)

新鮮・発見・感動！

八月二十七日・八日と京都の養福寺会館で、全リ演西会議の演劇講座が開かれました。今回の講座には、演技の分野では、日本大学芸術学部教授の高山図南雄氏を、舞台装置の分野から、東京演劇アンサンブルの岡島茂夫氏を迎えて、新鮮で、発見がいっぱいの講座が繰り広げられました。

即興から演劇へ 高山図南雄

芝居は上機嫌でやりましょう。劇はplay、遊びです。遊びといえば、子供は遊びの天才です。でも、年を取るにしたがって遊べなくなります。ピカソは「子供は起きているときは芸術家だが、大人は酒を飲んでいるときは芸術家だ」といいました。プロの俳優でも遊ぶ心がないと演技はできません。遊びとは、人と人のコミュニケーションなんです。だから、演劇は障害児の子供、重度の精神薄弱児の教育にもとても役に立っています。私は、演劇教育の原点は障害児教育運動の中にあると思っています。演技しようとするものにとって、子供の心を取り戻すことが一番基本的なことなのです。そして、俳優と演出者が一緒になって



探していくことが大切です。スタニスラフスキーも最初は独裁的な演出家だったんです。それがゆきづまって新しいシステムを作っていきました。現代日本では、役者に灰皿を投げつけたり、強権的な演出家が多いですが、それではいい演技ができていきません。

このあと、エチュードの実技が行われましたが、演技の内容については、あとの参加者の感想を参考にしてください。

舞台美術は劇団の理念でありメソッドだ

岡島茂夫

演劇の中で当然舞台美術の役割というものがあるのだろ



うけど、演劇の場合、領域がダブっているのだろうと思う。国際という言葉がある。それは国と国との間、際（きわ）、つまり国境というか、それぞれが独立したナショナルとナショナルの間が国際であり、その重なっている部分をそういうのではないか。演劇も、そして演劇のおもしろいところも、自立した主体と主体が重なりあうところでできるところだ。その際（きわ）の面白さ、その魔性の世界に首を突っ込んでしまった私たちは、そこから抜けることができそうにもない。

さて、舞台美術で一番大きな問題はプロセミアムアーチの問題である。それを問題にするのは、見る人と創る人との関係をどうするかということなのだが、一番いい状態は、言うまでもなく交流することであり、交流のない舞台は生氣を失うことになるだろう。昔は幕があつて、幕の内が役者の領域、外が観客の領域と定まっていた。それが最近幕のない舞台も多くなっている。何をどうすればいいのだろうか。

フリーナステージ派とプロセミアムステージ派に分けるとすれば、私はフリーナ派である。プロセミアムステージの発達の中で、舞台は絵として収まり、完成度は高くなつたが、生氣が失われてきた。必要なのは生き生きとすることなのだ。そこでプロセミアムを拒否し、プロセミアムから飛び出そうとするとき、まず始めに考えられるのは張り

だし舞台である。それは、観客との距離を近づける、つめていくことだ。それにしても、五百人劇場と千人の劇場では当然演劇の質も別でなければならぬ。巡演などといった行為は危険な行為だと思う。やはり、劇団は、本来自分たちの劇場をもって、自分たちの演劇の質を追求していく以外ないのだ。芝居は土地に合ったものだ。ペルリーナアサンブルやヨーロッパの劇団が劇場でもあるように、その場で、劇団は方法論、理念を追求し続ける。そこに劇団の存在意味があるのだ。舞台美術は、そのことと対応している。オペラや商業演劇の場合、役者は前へ前へとでてる。そこには演技論もへたつたくれない。繰り返すが、理念、方法論を継続的に追求する劇場を持った劇団の意味がそこにあるのだ。

ヨーロッパではフリーナステージが出発点だった。シェイクスピアのグロブ座もそうだ。ルネッサンスの頃からプロセミアムステージが多く作られた。それは遠近法の世界である。私はヨーロッパで、ある王様がワグナーのために建てた劇場の王様の席に案内された。その王様の席から見ると舞台が遠近法であるだけでなく劇場全体がその王様の視点でパースペクティブであり、絵としてイリュージョン舞台は完成しているのだ。遠近法が単なる技術でなく権力者の思想だとそのとき私は思い知らされた。私はプロセミアムステージを拒否した。私は演技が具体的であり、

行為でもって成立するような演劇を求めている。ポジションは俳優が決定するが、それが稽古のプロセスであり、私がよく使う開帳場は俳優のポジションが明確に見える場である。そして、ポジションが次々に変わっていくその変わり方が、芝居の一番面白いところだと考える。これは、私の問題であり、プロセミアムステージが多い現在の日本で、フリーナステージがすべてだといっているのではない。プロセミアムステージでも多くの解決しなければならぬ課題を抱えている。

（文責 猿渡公一）

参加者の感想

バブビードリガー

小笠原由美子（劇団コロロ）

ジバリッシュ……この言葉の意味を知っていますか？ジバリッシュとは日本語で「でたらめ言葉」といい、日本以外の諸外国の演劇教育ではよく使われているそうです。テレビなんかでタモリが中国人風とかフランス人風とかでたらしめ言葉で真似しますが、あれのことです。

「即興から演劇へ」の講座には高校生からおじさままで、さまざまな年代の方々四十名程で、私には知らない顔や、劇団の人達との出会いに最初から興奮気味でした。講義は全員で大きな輪になって座ることから始まりました。偶数と奇数のものが二人ずつペアになり一人ずつ自分の一番興

味のあることについて相手に話し、それを皆の前で他己紹介するのです。初めてあったばかりの人（私の場合は劇団大阪の木田君という二十四才の男性でした。）に自分のことを話すのは大変緊張しました。次にその相手にジバリッシュで好きな食べ物を伝えることをしました。もちろんでたらめに「バビブー」とか、「ドドリガ」とかいつてるから意味は分かりません。でも相手の表情や身振りなど集中してみていると次第に交流ができるようになり、私たちは初めて会って十分程で日本語なしでも会話できるようになっていました。それを感じたのでしょう。先生は私たちに「君達ジバリッシュでエチュードしてごらん。」とおっしゃいました。「道ですれちがうときにメンチを切られた文句をつける」というエチュードでした。もちろん日本語は一切しゃべりません。でもやってみると相手は何を言っているのかちゃんと理解できるのです。不思議な体験でした。言葉を奪われた演者に残された方法は真実しかなくなるのです。いくら上手に身振りで伝えても、心から相手に対して聞かれないと相手はそれを受け取れないし、相手に集中していいないと一人相撲になってしまふのです。相手に伝わりやすいものを観客にどうして伝えられるでしょう。一番簡単なようで、一番大切なことに気づくことができます。すごく勉強になった講義でした。

二日目の最後の講義では五人一組になりジバリッシュで

即興劇を作りました。台本もなく、日本語も存在していない芝居の何とおもしろかったことか！これからの芝居づくりに、ぜひ活用させたいと思っています。上手な役者よりハートのある役者。心のキャッチボールができる役者めざしてがんばりたいと思います。

遊び心を大切にしたい

林 美詠子（演劇サークルトラム）

私は七月初めに演劇サークルトラムに入ったばかり……：お芝居は見ただけだった私が、九月公演「おちこぼれの神様」のなべちゃん役をもらい、十一月の演劇街との合同公演、「後ろ姿のしぐれいくか」の若い娘役をもらい、どうしてよいか分からず救いを求めている二日間でした。そんな訳ですからもちろん演技の講座を受講しました。ジバリッシュでは最初声が出ず、相手にうまく伝えられないで苦しみました。道での言い合いや、占い師を設定して実際に動いたり、好きな人、嫌いな人を目の前に思い浮かべてみると意外に声も出て、楽しくできるようになりました。そして、最後はグループでの即興劇。これが、どのグループもすごくおもしろくて、笑いすぎておなかがいたくなってしまうしました。この二日間で私の得た結論は「やっぱりお芝居は楽しい！」という事でした。声の出し方を教えてくださったおじさん、京芸の茶色い髪のおにいさん、劇団

「かすがい」の皆様、本当にお世話になりました。（酒ぐせ悪くてゴメンナサイ……！）とても楽しかったです。

初心に返って

杉本 進（劇団大阪）

高山先生の講義は二日間で六時間。それは、これだけで終わってしまったのは何の効果もないでしょうね。でも一人の心に残した、基礎訓練の必要性、新たにやろうと思う気を起こさせるには十分です。センスのいい役者さんなら必ずそう感じたと思います。私たちの劇団ではそんな役者の錬磨が何もなくなされておられません。他の劇団でも恐らく五十歩百歩でしょう。悲劇喜劇の九月号「仲代劇堂」（文・隆巴）の文章によると、俳優さん達が月一回エチュードを演じてあって批評しあっているそうです。エチュードは若い人はもちろんのこと、ベテランの人達こそ劇団で太いにやってみるべきだと思います。その必要性を感じさせてくれた素晴らしい講座でした。

お知らせ

劇団銅鑼、初の海外（リトアニア）公演『センボ・スギハアラ』の「帰国・報告ニュース」が発行された。興味をお持ちの方は、80円切手同封で、制作部へ。

〒一七五 東京都板橋区成増五―一―二 米丸ビル

「劇団銅鑼」制作部宛

「息・生き生き」やまもとのりこ

今年の夏、全リ演劇東ブロックと奥羽ブロックのゼミに招かれ、ヴォイストレーニングの講師を担当しました。私は発声訓練は特殊技術ではなく、日常無意識にやっていること、を意識的に習慣づけて、舞台上に生かせるはずだと考えます。当日の内容を要約すると――

①フッフッフの呼吸：手のひらに息を強く、短く当てます。自然と無声音になり、下腹部からわき腹に内側から押しひろげるような圧力を感じるでしょう。この圧力こそ「腹から声を出す」力の源になるのです。

誤解されやすいのは、黙っている時は、横隔膜の弛緩により息が出ると腹部がへこむ感覚があること。しかし声（含無声音）を出す時は、息の大きさ、長さを保つため横隔膜

に緊張が残り、声を支えていますから、腹部をへこます意識は逆効果です。又、一般的に腹を動かそうとすると腹筋上部を使うことが多く（発声時使われる腹筋はへそより下部）、筋肉の連係でどこに緊張が伝わって声帯を痛める要因になりがちです。腹を押さずに、強い息をすばいに長く出そうとすれば、吸息のタイミングや、舞台に足の裏をつけて踏みしめる立ち方を探ることになり、俳優の存在感にもつながるはずで

す。

②ホッホッの発声：アゴのつけねに指を当て、ふくろうの声の様に声を響かせます。手のひらに当る息は、声になると響きに転化しますので、のどや首の周辺をよりリラックスさせないと、響きを押さえた恐い声やのど声になってしまいます。その響きを確認しながら、一音つつ丁寧に文を読めば、息の強さが響きの大きさにつながり、一語、一

やまもとのりこ ヴォイス ワークショップ

どんな役柄でも喉を痛めない声
観客に確実に伝わることは
複雑に変化する呼吸の自然さを

思いをとざす
不自然な緊張を解き
体をひろく育てましょ

【出張レッスン】

●ご希望の日時と場所

Vol.1. 呼吸と声のしくみ
以降グループの問題と回数に
あわせてカリキュラムで。
徹底するには時間が必要です。

●人数は15人前後まで
それ以上でもできますが、
個人の状態にこだわられなく
なっています。

●2時間 ￥10000～
（応・相談）
東京近郊以外、交通費別

（問い合わせ）

☎044-511-8984
川崎市幸区下平間230-1415 〒211

行が明確になって、セリフが流れることも少なくなるでしょう。(発音の明確さは別の訓練が必要)

③声の解放：タオルを床に叩きつけながら、セリフを言ってみます。気持ちが高もると声がうわづったり、のどがつまる感じになるのは、体のエネルギーが上体(のど・肩周辺)に集中する場合がほとんどです。そのエネルギーを相手にぶつけて発散させれば、迫力を感じさせる声が出ます。一人よがりでない、対話の訓練としても、まず相手にストレートにことばをぶつけ、受けとめる感覚を育てるべきではないでしょうか。

地域 の 動き

福岡市の状況

九月半ばニューヨークに行ったので、話題のミュージカル「オペラ座の怪人」を見に行った。八時開演。七時半のマジエステックシアターの前は人、人の大雑踏である。いや驚きました。スペクタクルに次ぐスペクタクル、劇場全体がマジックショーの舞台である。さすがブロードウェイ、商業演劇が見事に成立している。一人の観光客として芝居をみたのは初めての経験だった。

殺。第二部パネルディスカッション、出演は衛紀生、川村毅、米屋尚子、そして地元から私、猿渡公一である。福岡市という自治体が、こんな市民講座を開設するというのも前代未聞であるが、実は理由がある。福岡市は、博多区の市街地開発事業のなかで、市立の大劇場を計画しているのである。それは、ミュージカル、歌舞伎といった演劇の商業ベースの一五〇〇人劇場である。市の演劇専用ホール建設委員会の座長は、コマ・スタジアム社長の伊藤邦輔氏である。前記のパネルディスカッションに参加した全員が、この劇場は新しい第三次産業を福岡市に興すということで、文化なり文化行政とは全く関係ないということこの問題はすましてしまった。

さて、前にも報告したが、福岡市立音楽・演劇練習場(パピオホール)が完成して三年になるが、大、中、小十五室がフル回転の盛況である。この施設を利用した演劇集団は一〇〇団体にも及んでいる。なかには、一回の公演だけで終った集団もあるが、若者劇団(劇団と言えさかどうかは疑問だが)が数多く生まれ、いくつかの集団が確実に力をつけているのも事実である。五年程前までは、福岡市の演劇公演は、春秋のシーズンを中心に月に数回にすぎなかったが、最近では、毎日どこかで芝居をやっているといっても言いすぎではない状況である。地元の劇団の公演が増えただけでなく、東京、大阪、その他の地域の劇団の

大変簡単にまとめてみました。それぞれを体でとらえるためには、まず緊張した部分をほぐし、無駄な力に気づき排除していく注意深さと、習慣づける時間が重要で。私は全リ演に加盟している劇団の「生活感」を大切に考えていますが、訓練の時間が少ないからこそ、呼吸・声・ことばに関して日常生活をどう意識的にすごすか、が、人を動かす表現に結びつくと思います。同時に、体の方法を固定しないで、いつも型を壊し、生き生きと息づく体を求めていくことが、演劇人に一番必要なことだろうと感じる昨今です。

帰福して新聞を見ると劇団四季が福岡にミュージカル劇場を開発するという記事が飛び込んできた。福岡市の市街地開発事業のなかで「アジアに向けた海外活動の拠点」として収容人員一三〇人の劇場を作るのだそうだ。資金は四季側が五〇%以上、その他を地元企業の出資でという計画だ。浅利代表は「劇団は俳優が二百人おり、四一五班に分けて全国公演をしているが、うち一班は常に福岡にいるようにする。東京の劇団が地方に進出するのでなく、九州の四季になりたい」と語っている。

今年の三月十九日には、福岡市主催の市民講座「芝居を楽しめる街」が開催された。第一部対談、島田雅彦と川村

福岡公演も急速に増えている。観客組織の市民劇場は、中高年婦人層を中心に会員数は六千に達した。福岡市の中心ド真ん中といっている天神に情報ビル「イムズ」が建設され、イムズホールが毎年主催する若者芝居も五年目になった。この表面の華やかさは何だろうか。そして地域文化の真の発展とはどういふことなのだろうか。

最近、文化づいた地方自治体は、情報発信基地としての都市という言葉をよく使う。福岡市も、福岡県出身の「つかこうへい」の蒲田行進曲完結編のプロデュース公演に参加し、練習場として市立の音楽演劇練習場を提供、資金面でも民間企業と共同でバックアップする事を決定した。十一月一か月間の長期公演をイムズホールで実施し、地元の役者をオーディションで採用、福岡市だけの公演と話題を提供した。男女二名募集のオーディションに二五〇名が応募したが結果は不採用、福岡市のみ公演という看板も降ろされてしまった。このような試みが地方からの情報発信かどうかは疑問だが、自治体がプロデュース公演に踏み出したことは評価してよいだろう。

このような状況のなかで、二十年三十年と地域の人たちに支えられて活動してきた地域劇団が、どのように存在するか、観客である市民と共に地域の文化の核として成立し得るかどうか、いまこそ問われている時代なのかもしれない。

(福岡現代劇場 猿渡公一)

劇評

一九九四年(平成六年) 七・二 於山口県教育会館ホール
演劇サークル「トラム」

「犬の瞳」公演を見る

金本利雄

もう大分前のことである。私は一枚の絵の前に立って聞いたことがある。

「この作品は、何をねらって描いたのかね。何を訴えようとしているのかね。つまりテーマは何かね。」

「○○さん。このごろはね。そういったテーマとかモチーフとかいうことは、あまり云われなくなっただけです。只、そこにあるものを見てくれればそれでいいんですよ。」画家の卵はそう云って私の疑問を一蹴した。とりつく島もないというのが、その時の実感である。

この「犬の瞳」という脚本を読んだときの感じも同じである。全く、とりつく島もない脚本だと思った。

しかし、実際の舞台の展開は必ずしもそうではなかった。夜空に煌めく無数の星、遙かな宇宙空間を思わせる地平線の彼方。その中で姉弟とも恋人ともとれる男女が登場す

る。ラウルとラウラというSFまがいの名の二人である。

何でもこの二人は大へんな罪を犯しているらしい。それは遠い過去から引きつって来た人類の原罪のような、又は一族相克のような……しかし、それが何の罪なのかはよくわからない……。そして、ラウラという姉は妙な布を頭から被って宇宙をさまよい歩くことになっている。そんな運命を背負った気味の悪い老婆——それが、この女の正体である。

そうかと思うと、片面ではユウジとタクヤという少年二人とユウジの父と母という至極日本的家庭があつて、そこにビッケという飼犬がいて、ユウジは何故か「コドク」ということにとりつかれている。

母、「あゝコドクねえ……(少し考えこんでから)私、難しいことはよく分りませんけど、例えば昼間、明るい茶の間に一人でいて白い襖を見ていると……何だか世界に一人ぼっちでとり残されたようで悪い気持ちになるんです。……ふふバカみたいね」

こゝでは比較的リアルな孤独感がユウジの母の口から述べられている。しかし作者はその奥にあるもっと根元的なものを云おうとしているのであろう。広い宇宙の中の孤独、そして地球環境や人間存在への不安感から来る孤独というのがこの劇のねらいであらう。

「神様、どうか、さみしい地球が少しでもさみしくあり

ませんように。」

ユウジとタクヤはマッチを擦って光の中で祈る。

「さみしいけど」

「さみしくないよ」

満天の星に向って一同が叫ぶ。そして幕。

舞台装置(藤原重孝)は、かつての表現主義演劇を思わせる多角的装置で、自在に場面設定を変えられるのが特長。転換もスムーズに行われていた。但し小舞台のせい、舞台の奥行きが充分表現出来なかったきらいはある。演技も、奥行を利用してのシーンが欲しかったが、この狭さでは無理であらう。

照明(矢野舞台美術・柴田彦憲)は幻想的で感傷的なこの劇にふさわしく透明感のある鮮麗さ。又、音楽(松永英樹)もよく調和していた。

ユウジの父(品川三男)は出演者中一番の経験豊富・達者な演技で舞台を牽引し安心感を与えていた。母(竹内智子)は清純で単細胞的女性として好感の持てる演技。総じてこの夫婦は一昔前の夫婦のように描かれて、それがこの芝居に奥行きと親近感を持たせる要素ではあるが、もっと違った、つまりハイカラな夫婦だったらどうかとも思った。

ユウジ(小野村亜希)とタクヤ(田中美穂子)は好演。

ユウジは、とても女の演技とは思えない素地のまゝのような演技。タクヤは二十五才というこの人の年令を超越した

少年的悪ガキ演技で魅了した。(どちらも女性の演技者)

犬のビッケ(小倉宝子)は素直な表現。ラウル(西山良一)は謎めいた表現が生きていた。二人とも若さと可能性に期待したい。

姉のラウラ(三分一裕子)六つかしい役だがやり甲斐のある役でもある。老婆と陰りのある若い女の両面を巧みにこなしていた。ユウジの父親役と共にこの劇の進行をよく支えていた。

冒頭に書いた如く、一見とらまえてころのない、そして何のテーマもないかの如く見えるこの脚本が、舞台上上がったとき、一つの美しい空間を形作ることが出来たのは、脚本と一体感となつてやって来た演出者(戸嶋 博光)の力が大きいにあったというべきであらう。

劇団こじか座——地域の灯に——

人間への真摯な眼

— ブンナよ 木からおりてこい —

三 舂 勝

八月三十日、こじか座の公演「ブンナよ、木からおりてこい」を観た。

公演パンフによると、創立以来三七年の活動の積み重ねの上で、三四回目の定期公演とのこと。

十年前、こじか座に關つていた(ホンの少々だったが)私には、ここ数年の成果をみせてもらおう!という想いがあつた。水上作品の、それも「ブンナ」を演ると、こじか座の姿勢・心意気に期待する側面もあった。

会場には、小中学生・その父母と思われる人たちが目立っていた。パンフを見て、その理由がわかった。ブンナをはじめとして、大部分の役が中学生たちにふられていたのだ。深みのあるこの大作を、この見たたちがどう演じるのか、一抹の不安が横切った。脇を経験豊かな人々が固めているとはいえ・・・。まよ、観ての結果ヨノと、席に着いた。一幕が終つて、彼等のめりこんでいる自分を発見。二幕になつて、後方の席で騒がしい子供たちを注意しにまでいった。

幕がおりて、私の心は十分充足していた。子ども劇場の役員の人々、市民劇場の会員にも感想を聞いてみた。そこには、私の感想と共通するものが多かった。

人間が科学を発展させ、その結果、人間だけのために全ての事物が存在する・・・と増長して考えてしまうことへの警鐘として、この芝居は観る者の胸に届いたようだった。子どもたちに観せてやりたかつたという、母親の感想もあった。ブンナと仲間たち、蛇やねずみ、すずめや百舌との

対立・交流が、それぞれ強弱はありながらも、受けとめられていた。原作者の想いや、こじか座の意図が、十分客席に伝わったことの表れであろう。

松山は渇水による断水の真只中だった。そうした状況の中にあって、「ブンナ・・」は思い上がった人間(私たち)に、もっと謙虚になろうよ!と語りかけていた。その意味で、中学生たちの演技に「もつと!」という要求は持ちながらも、私の期待は裏切られなかったのだ。

地方都市の松山にも、ここ数年、数多のアマ劇団が登場してきている。中には、派手さで目を引く劇団もあるが、観てみると内容は極めてお粗末というものが多い。

今回、こじか座が「ブンナ・・」を演った意味も、そうした状況であるからこそ、貴重で大きいといえよう。人間を本当の意味で愛し、尊ぶ真面目さが、こじか座の中に脈々と生きているという感じなのだ。

ともすれば、プロの演劇創造すらも、大きな商品経済の渦の中に巻きこまれ、ニーズに応えるという形で軽佻浮薄なもの、一夜の楽しみだけのものになりかねない。が、そうした傾向の中で、真に人間を見つめ、その向上を願う芝居が、こじか座の手によって上演されたことは、観る側の私をも勇気づけてくれた。それは、私の周囲の人にも共通した想いであつた。

三七年の蓄積の上に立つて土台を揺るがせないこじか座

の存在は、新しい地元の劇団にとつても、燈台の灯のような存在となつていゝものと思える。

この「ブンナ・・」も今回限りにせず、より練りあげてこじか座の財産として欲しいものだと思つてゐる。四十年は目の前である。より一層、努力を重ね未来を照らす灯となるよう、祈ること切である。

(松山市民劇場運営委員長)

今だから

ブレヒトがおもしろい

「劇団どろ」の『ガリレイの生涯』

栗原 省

・人類は科学というもの、つまり罰せられるべき要素をもっているものなしには生き続けることは出来ない。

しかしやはり『科学』というものの中には罰せられる要素があるのだ」ということも忘れてはいけない。

『朝永振一郎著作集第四巻科学と人間』(みすず書房)

《ブレヒトの時代と現代》

ブレヒトが『ガリレイの生涯』を書いた時代は、
／不正のみ行なわれ、反抗は影を没していた／

と彼自身がうたう「暗黒」の時代だった。ナチスにドイツ市民権を奪われたブレヒトは、転々とした亡命生活の中でこの作品を書いた(初稿は一九三九年)。それから半世紀、劇団「どろ」が『ガリレイの生涯』を公演し、私がそを観た現代は「繁栄と飽食・自由」の時代である。

「トレンディドラマ」とは、素材が身辺的、風俗的、日常的、都会的で、作風は感覚的、心情的な、遊び心や適当にセクシーな色合いを散りばめたドラマを指すという。

ドラマにとって世界観とか政治性、思想性とか世界の変革とかは、今や「死語」に等しいという風潮さえある。

『ガリレイの生涯』は「重厚長大」な作品で、一見非常に理屈っぽく難しい、およそ流行には程遠い作品である。

だが、今日という時代は本当に繁栄や自由の時代なのだろうか? 「不正のみ行なわれ、反抗は影を没していた」とブレヒトが歌った時代とどんな違いがあるのだろうか?

《作品紹介》 全十五場。上演時間は大方三時間半。一六〇九年(ガリレイ四六歳)から一六三七年までをほぼ年代記風に、といつても内面の苦闘をだが、描いた作品。

ヴェネツィアのバドヴァ大学で数学を教えていたガリレイは、ミルコ代にも事欠く暮しの中で次々に研究成果を積み上げ、オランダの望遠鏡を改造して木星の衛星を発見し、遂にコペルニクスの「地動説」の証明に成功する。ブルー

ノが火炙りになったのが十年前だけに、友人はガリレイの身を案じる。(一―三場)彼はフィレンツァ宮廷付き数学者になったが、この学会は僧侶の権力が強く、望遠鏡によるガリレイの諸発見を信じようとはしない。(四場)ガリレイはベストの猖獗する中でも研究を続け(「劇団どろ」の舞台はこの五場をカット)一六一六年に漸くローマ法王庁の研究機関から研究の正さを認められ(六場)その直後、宗教裁判所がコペルニクス学説を禁止しガリレイにも自説の放棄を決定する。(七場)下級の僧侶が「地動説は神を信じるほか救いのない貧しい農民や不幸な人々の魂の平和をみだすことになる」とガリレイに撤回を求めるが、ガリレイに科学技術こそが農民の苦しみを救うのだと説得され、逆に彼の弟子になる。(八場)

八年間の沈黙の後、科学者であるウルバン八世が法王に就任するという報せに勇気付けられ、ガリレイは再び地動説証明のため太陽黒点の観察を再開する。ガリレイが単なる「有名学者」でいてはしい娘の婚約者ルドヴィコは失望し、婚約を破棄する。(九場)町ではガリレイの噂が大評判。カーニバルに「聖書の破壊者ガリレイ」という人形のパレードまで出る始末。(十場)身に危険を感じたガリレイ親子が逃亡を考えた矢先、遂に宗教裁判所から呼び出しをうける。(十一場)法王はなんとか処分を避けたいと思うが、ガリレイをかばうことが自分の権威を危うくすると

計算し、許可する。(十二場)弟子たちはガリレイが地動説撤回を拒否し真理に殉じて死刑になる期待に興奮し、娘のヴィルジニアは助命を祈る中で「ガリレイは地動説を取り消した」という声。教会の鐘が高々と鳴る。(十三場)それから十年。オランダに行くといふかつての愛弟子アンドレアにガリレイはひそかに書き上げた「新科学対話」を託し秘密出版を依頼する。アンドレアはガリレイの「偽装転向」を見抜けなかったことを恥じるが、ガリレイは権力に屈伏し科学を裏切った自分を責める。(十四場)アンドレアは無事「新科学対話」を国外へ持ち出す。(十五場・この最後の場は今回カット。)

△「劇団どろ」の舞台から▽

■場と場の間はブレヒト独特の短いソングによってつながれている。(舞台下手前にピアノを据え、ナマの伴奏で歌われる。作曲は林光。私は新しく作曲した方がよかったのではないかと思う。)この場面転換のソングは、なにしろ作品が、一場面一場面実にドラマチックで、それが積み重なってボクシングの各ラウンドのようにぐいぐいと観客の緊張度を高めていく作劇だけに、次第に悲劇に引き込まれていくガリレイに観客がつい同情し思わず叫び出したくなるのを押し止め、事態を観察検証するようにと「観客席」へ引き戻してくれる役割を担ってくれている。(ただこな

れていない日本語のせいか歌詞が良く聞き取れず、そのため却って疲れることがあった。)

■スライドが上手袖に場面のタイトルを写しコーラスがソングを歌うと、舞台が明るくなる。舞台は土間全体が開帳場(斜面)。黒幕で囲まれている。(舞台装置は岡島茂夫)わずかな机、椅子、天球儀、地球儀、望遠鏡などが道具に使われる。照明はまわりから開帳場舞台を明るくするだけのシンプルなあかり設計。(柳原常夫)この照明はほとんど会話だけの三時間二十分の舞台に観客の視線を「強制的に」集中させる役割を果たしていた。だが、私にはこの照明に一番疑問が残った。まずは非常に疲れること、それにガリレイの内面世界を照明が表現する演出があつていいのではないか、と思えたからである。芝居の大詰、ガリレイ「夜はどんなだい?」娘のヴィルジニア「とても明るうございます。」と窓から夜空を見る。その時、取ってつけたように「目つぶし」のあかりがギラッと光ったのにはびっくりした。大切な幕切れだけに、私には照明プランの大きなミスに思われた。(また私が見た限りでは各場面の幕切れの照明転換が一呼吸つつ早いため、観客が最後の大事なセリフの意味を考える間もなく、ただ時間を急いでいるとしか思えぬオベで、これも大変気になった。)

■さて、この芝居は「セリフ」の芝居である。それも恐ろしく長いセリフや、「真理・理性・神・教令の奥にひそ

む英知 e t c」といった類いの抽象名詞や「アリストテレス・コペルニクス・ブルーノ e t c」など歴史上の人名もたくさん出てくる。その上翻訳が恐ろしく生硬で、普通の日本語感覚ではとうてい理解できぬ「こなれていない」セリフの大洪水である。しかも、それがちよつとしたセリフでもきっちり観客に伝わらないことには、劇全体が分からなくなるほどに大事なセリフばかりだから、これは役者にとつて本当に大変な芝居だと思った。(私はもつと思ひ切ったテキストトレジャーが必要だと思ふ。上演テキストは千田・岩淵訳)もう一つ。「真理」とか「理性」といった抽象名詞が肉体の言葉として(書かれたセリフの暗唱ではなく)自然に観客に伝わるためには、まず役者に「真理」や「理性」に関わる内面的な何かの蓄積が欲しいし、観客にもそれが違和感なく受けとめられる受容力が欲しい。単にアクト、抑揚、強調、呼吸法、口跡(アーテスキュレーション)などの「セリフ術」の基礎がきっちり訓練されているだけでなく、ヨーロッパ近代が作り上げた思想的遺産を日本人としてどれだけ身につけて演じられるか、ということだろう。

ガリレイ役の山室一貫さんは恵まれた声質音量と抑制したセリフまわしで、あの大きな舞台を身じろぎもせず演じ切った。たいした力量である。問題があるとすればそれはすべて演出の責任というべきだろう。ただ、脇を固めなけ

ればならぬ人たちに主観的な意味不明のセリフまわしが目立った。ベラルミン、バルベリニ、クラヴィウス、年をとった柘機卿、事務局長、怪しい男、サグレド、宗教裁判主事などそれぞれ神戸演劇界の古手ベテランで固め、安心して見られたのは（やりすぎの人もあったが）流石だった。

■ 帰りのエレベーターに乗り合わせ婦人が「よかったですねえ、本当に良かったわ。」と感想をのべ、私にも同調を求められた時に私も心から「良かったなあ」と思ったものである。「ガリレイ」はまず成功だったと言える。

△「劇団どろ」とプレヒト劇▽

これは「劇団どろ創立三十周年記念」として上演された舞台であった。しかし、六十人近いスタッフ・キャストの中で「どろ」のメンバーは十数人だった。結局、在阪神の一集団にフリーの方も加え四十人余りの助け人を得ての「合同公演」ともいえる取り組みになった。創立以来「どろ」がその多様な公演作品の、パンフの嶋田邦雄さんの言葉を借りれば「それらの舞台を縫い合わす糸のようにプレヒトの戯曲を」上演し続けてきた真摯な姿勢への共感がこうした大きな共同作業を実現させ、「暴挙」とも見える「ガリレイ」公演を成功させたものだろう。

演出の合田幸平さんは「本当にやりたい芝居をやろう。そのことで劇団がつぶれるのなら潰れても仕方がない。現

状をなんとか切り開きたい。我々が一番やりたかった『ガリレイ』をやることで我々も変わることができるとはなにか」と語っていた。「演じることで今日の状況の変革に挑み、演じることで自己変革を果たす」演劇こそまさにプレヒトが目指したものであった。合田さんの捨身とも思える姿勢こそプレヒト劇の本質そのものだったと思う。今日の演劇状況を考えるとき「どろ」の「ガリレイの生涯」上演は一人「劇団どろ」だけでなく、この公演に参加された各劇団の皆さんにとっても、演劇状況全体にとっても大きなインパクトだったと思う。日本の科学と倫理の問題もこの劇「十四場」でのガリレイの自己断罪の時点からの再出発を迫られている。（一九九四年九月二四日夜と二五日程、神戸シーガルホールで所見）

『パソコンによる公演座席予約プログラム奮闘中』

仙台小劇場 高橋直人

現在作成中のプログラムは、「座席予約」「集金管理」「予約名簿作成」「住所ラベル印刷」「チケット発行」の機能をもつ予定です。この夏の公演で試用してみました。が、処理速度が問題になっています。

来年の夏の公演までは一から作りなおして、完全なプログラムに仕上げるつもりです。

桃さんの演劇みて歩き

「第四〇回国鉄演劇祭」雑感

萩 坂 桃 彦

西会議の加盟で岡山職場演劇集団というのがある。代表は岩木敬氏である。岩木さんは国鉄のOBで、全国鉄演劇サークル協議会の代表でもあることは、文通で知っていた。その国鉄演劇協結成四〇周年記念の演劇祭にどういうわけかぼくが招かれたのである。

国鉄の演劇サークルに就てはぼくは全くの無知と言っている。

僅かに国鉄出自の作家、鈴木元一、石岡三郎、須田輪太郎、浅野良二、小島康夫、島源三といった人たちに、その折々のその人たちの作品、若しくは面識などで、おおよその経過は辿れる、その程度の知識である。亡き八田元夫さんからは直接、国鉄演劇協の華やかな頃の話は聞いたことがある。演劇祭の講師が八田元夫氏から大橋喜一氏に襲がれたことも知っていた。

最近では、岩木さんから送られてくる演劇協のニュース「早飛脚」の紙面などで、新潟の松村隆さんを中心にした新しいサークルが参加してきたなども知っていた。

しかし具体的に演劇協が一堂に会した舞台を見るのは初めてである。

ぼくが岡山ゆきを決めたのは二つのことが叶えられそうな見通しが立ったからである。一つは、遠路の乗物や駅の昇降における足もとの不安、或は宿舎での身の周りの保護などで付き添い（かみさん）が必要で、それには費用が兩名分になるが、それもO・Kになったこと。もう一つはぼく以外の講師に、大橋喜一、乾一雄の両氏の名があり、岡山でその両氏に会えることの愉快、この二つが理由であった。しかし、九月十一日、岡山での当日の実状は、第一の条件は別として、予定された講師席はぼくら夫婦だけであった。これは予期しない困惑であった。

そこで講師は財政的な恩恵を背後に荷なって喋ることになる。無条件にお世辞を並べれば済むことではあったが、そうは言わせぬ実際の舞台にふれたとなると、逆に、好意に甘えて毒舌に転化する。

上演は創作劇三本である。いずれもスケッチ風の短篇、幕間にプログラムには記載されていなかった詩の朗読を二度挟んでも三時間位で済んでしまった。

以下上演順に、簡単なストーリーリイと観劇後の感想の若干を添えて、責を果したいと思う。しかし講師時の悪口を今

は弁疏したい気持ちもあるので歯切れが悪い。

① 「W・J・R ポンボコリン」

作・演出 岩木 敬(岡山劇場演劇集団)

ストーリーをかたるチラシの文字にはこう読める。

「一九九〇年パブルのはじけた年、世をあげてビーヒャラ、ビーヒャラ、パッパ、バラバと、訳の判らない歌が汎濫する中で、此処、ウェスタン・ジュニア・テッドウ(W・J・R社)では一に増収、二に増収、三、四がなくて五が増収と、新任の守口営業所長がハッパをかける。いつ廃線になっても不思議ではない赤字線の津の崎駅、合理化で元の職場から此の駅に飛ばされた素人駅員安田はのんびりとマンガを読んでいます。そこへビーヒャラ、ビーヒャラと唄い乍ら、女子大生庄司が登場。話はここからパッパ、バラバと始まる。安全無視、儲け第一主義のJRを皮肉り続ける岩木敬W・J・Rシリーズ第四作」

この女子大生のもたらした一石二鳥の名案、駅に隣接した空地を自転車置き場に提供しないかということから話は始まる。駅員は、その場所は分割民営化で清算事業社の所有地なので一存では決められぬと、ことわる。女子大生も負けてはいない。赤字駅の副収入になるしそれに通学で乗降駅になれば乗客も増えるじゃないか、でも駐輪料金の一部は大学自治会に還元してよ、とぬかりがない。

② 「複合軌条」

作・本多弘志 演出・松本昌浩

(国鉄鷹取演劇サークル)

ここでもチラシに読めた紹介を借りる。

「そこには一人の男が慣れぬ手付きで懸命に仕事をこなそうとしている姿がある。彼は長年慣れ親しんだ仕事をある日突然に取り上げられ、やり場のない不安、不満の渦に心をかき乱されている。それに加えてそれぞれに思惑を持つ男たちがさらにその波紋を拡げ、彼の骨格を揺さぶるのである。サークル員の共通の職場である鉄道車輛工場を舞台に取り上げたオリジナル作品。」

登場人物は三人。戯曲を読んだときに三人の立場の具体性がちょっとつかめず、何を言いたいのだろうともどかしかったのだが、舞台ではそれがよくわかった。しかしそれはあくまでも作意であって、会話の密度と動きの具象性の兼ね合いが今ひとつ、それと役役のシチュエーションの不備が、折角の作品を未消化にしている。もちろん戯曲そのものに負うべき部分はあるが。

最初に、作業をしながらモノログで見せる人物牧村は、四十五、六歳で元来は溶接工であるが配転された部所、不馴れな配線作業で職場では障害になっている。国労組合員である。

津の崎駅のたったひとりの駅員安田が、女子大生からオジサン、オジサンと小突き回されたり、増収の点数をかせぐために守口所長との交渉の珍ブレイ、どの会話も一対一式の明解さ、持道具小道具も必要最少限度だけ用意されて簡便この上ないのであるが、ぼくが当惑したのは、この駅での、この駅員の作業状況、ビーヒャラ、パッパと囁き乍らマンガ本をめくっている生活の非リアリティと電車の上り下りの停車、発車の状況があり乍ら、その作業は一人の女の乗客が改札口にあらわれたときの一度だけ、つまり全部がわかつていることなのでトバされるのである。

一番の混乱は、ぼくがこの「ビーヒャラ・パッパ」の歌曲を知らないことにあったのだが、あとで隣席の家人にきくと「アレハ、チビマルコの主題歌」ということであつた。

作品の趣向はわかつたし、たしかに終りの方で、自転車が三十三台バンクさせられていたり、ホームで人が倒れるなどのパニックは効いてはいるが、それでも、この程度の諷刺揶揄では分割民営の大本企業JRにとっては痛くも痒くもないにちがいない。そして、ストーリーを追うだけの初心者の演技が熱心であるだけに弱ったのである。追いつめれば駅員の役(峰線朗)に味が出そうであつたし、女子大生のグループにあらわれた新鮮な一懸念など、別なこととして大切に育てたいと思つたが、もはやぼくの口を咏れるところではない。

若い山部は同じ職場で、彼も元は旋盤工だが、人活センタリにまわされ、そこから配転で今では職装屋である。仕事は牧村と同系列になっているらしく、牧村の作業の遅滞にいらいらしている。これも国労組合員。

しかし山部は心底では牧村を援けたいのだ。牧村はいわば不当労働行為の犠牲になっているので、彼を立ち上げさせて偕にたたかいたいのだが、頑迷固陋に牧村ははねつけている。

手帳に何かを書き込み乍ら登場する最後の一人堀田は、助役と呼ばれる上役で、彼の専ら任務は国労潰しである。牧村を旧の職に戻してやるのを餌に、国労脱退をすすめている。

以上の三人は同一職場であり乍ら融け合えぬ確執の根っこに、それぞれのエゴイズムを忍ばせているのもうなづけたし、その表現、牧村(坂井優)、山部(本多弘志)、堀田(酒井敏夫)、いづれも手堅い。中でも山部の言動にフレッキシビリティを感じたが、あとでその俳優が作者とわかつて成程と思つた。

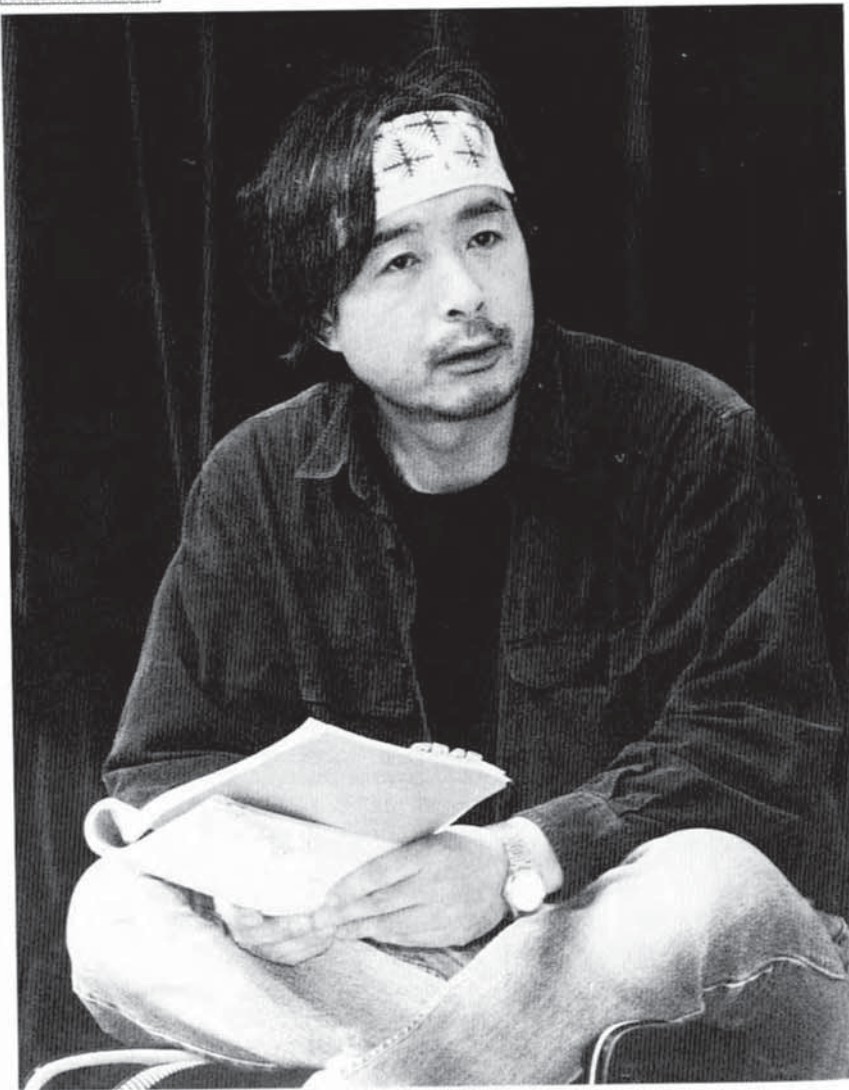
最後に登場人物にもう一人、立浪(中垣和彦)の名がプログラムにあるが、場面の、いつ、どこにあらわれたか思ひ出せないのは弱つた。といって問合せるほどのことではない。

顔

書かせる演出家

中野 健

北野 英(劇団未来半島)



③「問題者」

作・松村 隆 演出・橋 重広
(新潟演劇サークル「みぞれ座」)

あらずじ。

「ある民営鉄道会社の施設管理部の事務所。主任である木場の仕事は、職場の秩序を乱す組合活動家(問題者)の動向を逐一会社に報告することである。(課の職員は皆木場にへいこらしている。)この木場に日頃目をつけられている吉松は、定年間近の陽気な社員、何かにつけて木場は吉松を「問題者」として苛めている。会社の人べらしにより請負会社社員の人身事故が発生する。妻から離婚を迫られていた木場は、この事故を理由に職場から家庭から孤立してゆく」

「問題者」と目される吉松(小山哲夫)は定年間近の五十四歳で保線作業の現場から上って来た男。この、パソコン、コンピュータ相手の管理事務所では役立たずだが、主任の木場(服部正史)には、それにもまして目障りである。吉松は第一組合員だ。

冒頭、吉松の後姿がスポットをあてられてあらわれるが、その背中には「赤 バカヤロウ ウスノロ」など書かれて貼紙してある。

しかし、この吉松の出でくる場面は、鈍重なセリフと定時の五時にはさっさと鞆をたたんで「オカアチャン待ってる、カエロ」といった不忠勤ぶりを暗示的に見せるだけである。もう一つ事故発生の子言をボツリ言ったりするが、劇の中心になっているのは会社の命令に窮窮如、第一組合員に会社のスパイとなつて立身出世の奴隷、ビエロ木

場の顔末である。

この短い一幕物の中で、茫洋として暗示的な存在の「問題者」吉松と奈落の淵に転落する木場という切れ者を対置させ、中間に社員A、Bの無自覚、怯懦ぶりを混ぜ、女子社員C子(近藤由美)のチャッカリしたOL氣質を散らして見せるなど、いかにも頭脳的才筆である。事実この作品は、第33回国労文芸年度賞戯曲部門での受賞作品である。

(選者・大橋喜一)

作者松村隆氏の才腕を称えることは易かつたが、ぼくは逆に、そこにこだわった。作者の巧者な分だけ人物がつくられすぎて、舞台が乾くのである。役づくりも相互の交流、葛藤からは生まれず、チャンス盗んで俳優個々の見せ場になっている。口と腹とは別々の、典型的俗物社員A(今井旭)などおどろくほどどうまい。あとで解ったがこの役も作者が演じていた。

以上が講評の概要であるが、「問題者」と「ボンボコリン」の批評にはぼくは硬軟二股をかけている。しかし、それは作品の出来、不出来の対比ではなく「複合軌条」もふくめて、国鉄演劇が期せずしてぼくに見せたのは或る種の「危惧」であり、或る種の「姑息」である。

国鉄労組のたたかいた実状にはぼくは全く無知である。だからそのことでは何も言えない。しかし演劇祭の上演にあらわれたテーマの象徴性(諷刺や戯画化)、労働者の種々相、劇作の姿勢、舞台創造の内面、表面に感じられた或る種の「無風状態」、歴史がながく続いていることだけでそれらを坐視するにしのびなかった。

(九四・九・十一 岡山・綜合文化ホール)

私にとって芝居だけの話で一晩中もつ、泥酔の名残の翌朝も尚、芝居の話をし続けることができるのは、中野さんがナンバーワン。

二年ほど前に仕事を辞めたとき聞いた時には、驚いたが、青森の芝居環境には非常によいことであった。もともと、青森市の文化会館に芸術監督を雇う度量があれば地元第一の人になるだろうから、もう少し家計も楽になるのだが。拙作『スタンド・バイ』を中野演出で札幌上演していた。だいて以来のお付き合いで、彼は「書かせる名人」である。お世辞も言わずに書かせる、という技は、彼の演劇に対する情熱と、常に新しいものを創造していく、その姿勢ゆえである。「ほくはもう使い古しの芝居はやりたくないんだ」と何度も聞かされるたびに、私も何か新しいものを、と書

くのだが、最近なかなかOKして貰えない。要求は厳しい。彼の演出も、そういう姿勢で貰かれています、手法、思想とも革新的・前衛的といっているだろう。拙作『祭の夜の夢』や一連の川村光夫作品では、青森の演劇ファンに彼の真骨頂を見せてくれた。まだ磨きがかかるだろう。プロの域に達しつつある劇団支木の創造的牽引者であると同時に、県内劇団のリーダー的存在である。

昨年私の劇団の演出で、数週間出張してくれた。随分と酷使してしまい、持病「通風」の原因になったのではないかと気がでないのだが、彼にはそういう仕事に似つかない。各劇団が彼の才能をフルに利用できる日が早くくればいいと思うのは私だけではない。

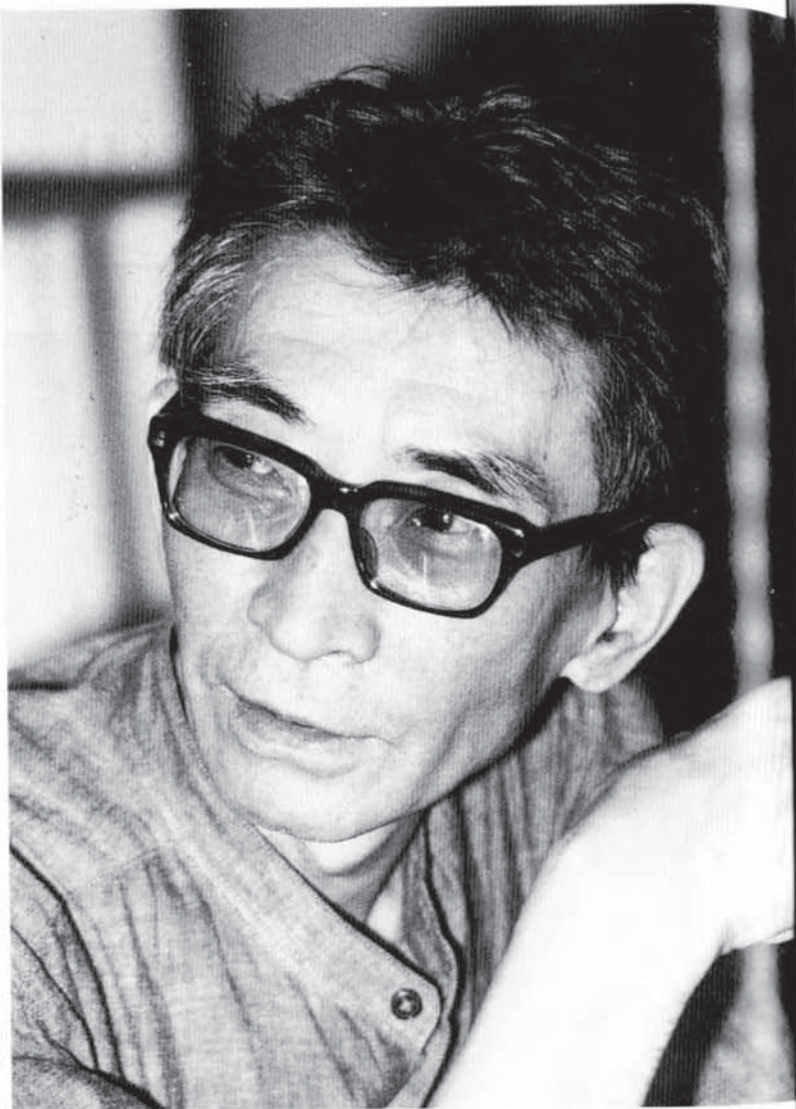
優にして柔、大胆にして緻密・早川さん

根食 藤子(京浜協同劇団)

萩坂桃彦さんからバトンタッチ、「演劇会議」新編集長の仕事に就かれた早川さん、誠にありがとうございます。

編集の仕事は根気に尽きる——そんな気がしますが、優にして柔、大胆にして緻密な早川さんであってこそ、この難職を引き請けて頂いたと思います。

さて、早川さんとの出会いは六年前の秋、初の関東プロック合同公演『西風に起つ』上演に向けて、台本執筆メンバーの一員として参加した時でした。旧稽古場二階の一室(当時、迎賓館ならぬ下品館と呼ばれていた)で、山と積まれた資料を前に原稿をうめていく



仕事が始ったのですが、次第に三宅島のおばちゃんたちがイメージの中で動き、語りはじめていったのでした。早川さんとの何げない会話(実はそうではなかった)の中から引き出され、書き上げられたものは私たち五人の第一稿と

のは早川さんであり、関東プロックの仲間でした。

幾度も切腹(手術)されたという早川さん、健康にだけは気をつけて下さいね。萩坂さんの労をねぎらいながら。

なった。一方、山あり、谷ありの波乱に満ちた展開に「勉強させてもらうまたとないチャンス」位の軽いノリで参加したことを後に悔いたりもしたものです。でもやっぱり一番得をしたのは私だったように思います。暮も正月もなく一途に芝居のことばかり思い暮したあの時期を、とても懐しく思うと共に筆を折ってはならぬと戒める私です。

時移り、昨秋「郡上の立百姓」上演を前に主役クラスの俳優が倒れ頭をかかえた時も我がことのように力を貸してくれた

顔

継続は力なり

園山土筆



一年間に46回というロングランを続けている劇団あしづえがその作品『ゼロ弾きのゴースト』を持って六月に開催された第二回アメリカ国際地域演劇祭に参加し、見事第一位を受賞した。また八月から念願の「一〇〇人劇場」が地元八雲村での建設がはじまりました。これらの素晴らしい運動を引っ張り続けている劇団代表園山土筆さんに編集部がインタビューをし、その演劇人生について語ってもらいました。

大へんなご活躍ですが園山さんの歩いてこられた道をお聞かせ下さい。

園山 私、喋らない子で小学校の五年生の頃から難しい本を読んでいた、島根県立図書館の児童書はすべて読んでました。昭和三十三年頃児童劇の本を借りて図書館を出たたん象のバスが目飛び込んできた。人形劇団ブーッだったんですね、川尻さんに手紙を書いたら必ず返事をくれた。それで小学校六年で男五人女五人集めて人形劇をはじめたんです。高校三年の夏までずっと続けました。早稲田の演劇科に行きたかったが、親が反対だったので自分でお金を貯めて行くつもりで大阪へ出て二年間ガムシヤラに働いたが、病気になるって挫折したんです。松江に帰ってサラリーマンをやると同時に劇団つくったんです。それが「あしづえ」です。23才で結婚し、25才から夫の転勤のため、山口、

広島、尾道、倉敷と転々としながら稽古場に通い、今年24年振りに松江に帰ってきました。これから夫と二人で音楽会等に行こうと思ってます。

一つの芝居を何年も続けるというのはあしづえの特長ですが、そのエネルギーはどこから出ているのですか。

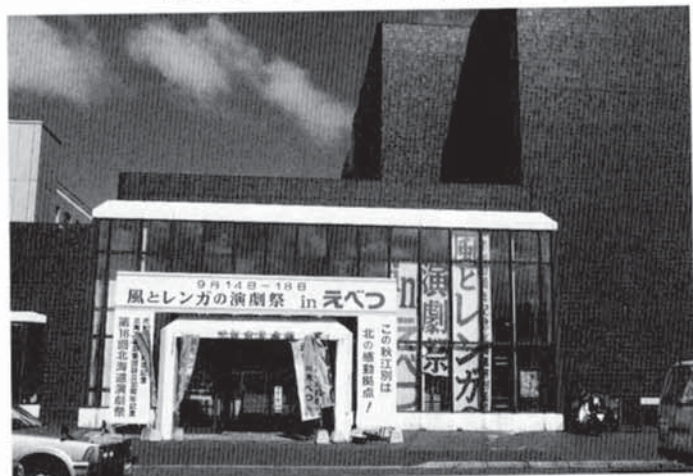
園山 一年に46回やってお客さんを集めないと赤字になるという採算点を先に出してそれをクリアーしてゆくんです。松江は人口十四万の町で産業は無く観光地なんです。労働組合もないし、優秀な人は有名大学行ってみんな都会に出てゆく、田舎の町に残っているのはどういう人か……。うちはこれがやりたい—と言って入ってくる人はいない、何かやりたい—言うて入ってくるんですね、この人達を惹付けてゆき五年十年十五年と続ける中で、自分の問題だけではなく取巻く社会問題として考え、何かをやらなければと思うようになる。転動になって金沢や京都に行く、それで続けられなくなると考えないで、そこからお客さん呼んでこようと思えるんです。二カ月に一回位集中的にその人の稽古をして次の月には舞台に立つ、それが出来るのはロングランをやっているからです。劇団員は広島にも三人居ます、片道三時間位かかりますがうちのお客さんの二割位は広島から来る。だから全国からお客さんを呼ぼう、いや世界からお客さんと呼んでやろうと思ってます。

— 今建設されている「一〇〇人劇場」は八雲村が村

第16回
北海道演劇祭

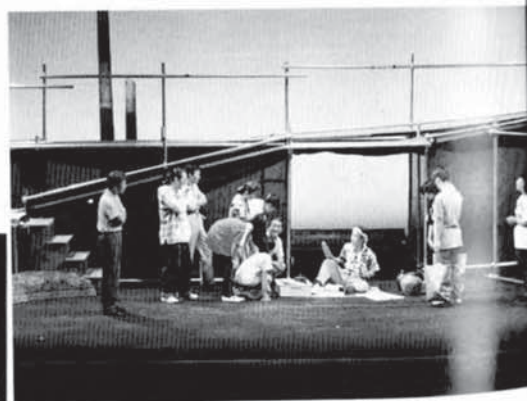
地域を築く骨太さ

風とレンガの演劇祭 in えべつ



中野 建
(劇団支木)

◇札幌ろうあ劇団「舞夢」(札幌)
『白百合の雫』アイヌネノ・マン・アイヌ
作・菅原順子 演出・高橋浄、五十嵐正雄



◇劇団川(江別)『幻の街』
作・岸郷夫 演出・春日基

をあげて協力されていますが、その規模と夢について如何ですか。

園山 土地二、〇〇〇坪の中に進入路と駐車場(七〇台)と劇場部分と劇団員二世帯分の住居があります。劇場部分には事務所、稽古場、舞台、楽屋、交流室、客席、ロビーがあります。木造二階建のこじんまりした建物です。夢はみんなが演劇を観る生活、家族で文化に接する、そこで感動があれば感情が動くはず、感情が動くということは世の中を変えるエネルギーになるはず……だから一〇〇人に観てもらったら七〇人は感動する芝居をつくることですね、やってみると楽しくなければいけないし、若い人達に夢を現実に見せつけていくことが必要ですね。

——その「二〇〇人劇場」でいつか世界演劇祭を開き



第2回アメリカ地域演劇祭 (1994. 6. 25)
(ウイスコンシン州・ラシーン)
劇団あしづえ 第1位、演出賞、舞台美術賞
各受賞

たいと思われているようですが、様々な夢を実現してゆく力は何んですか。

園山 私も含めて出雲人の粘り強さはどこにも負けないと思ってるんですよ。十年前に三年で一千万円貯めようと言ったんです。その当時、劇団員十五人だったから毎月二万円貯めたらいいける、一千万貯めたらそれをもって三千万借りてやる、三千万あったら劇場でも何でも出来る——言うたんですけど、平均月収八万円位だったので無理だった、そこで二千万だったら「えーい持ってけ！」と言えるので団費以外に二千万の「持ってけ貯金」になった、それが九年間続けて五百万超えた。始める時、何に使うかは貯めながら考えよう言うたんです。人間は日に日に成長するからある日、こんなことがやりたいなと思った時、お金が無ければ実現出来ない、五百万は貧乏劇団にとっては大きな勇気です。運営してリーダーは誰よりも勉強しないとイケないし、リーダーの喋ること書くことが劇団員を魅きつけていかないとイケないんです。海外公演も何年も前から考えていました。アメリカで一位になって帰ってきたら地元の見る目が変わりましたね。ニュースも年二〜三回キチンと出して各市町村や学校、大きな企業や仲間の会等四百部配布しますが、この力は大きい。キチンとニュースが出る劇団、それだけで信用あるんです。演劇をやる時、十年計画二十年計画でやればいいと思ってます。(文責・赤松)



◇劇団さっぽろ（札幌）『なら梨とり』
作・松谷みよ子 演出・飯田信之



◇劇団ベルリナ（札幌）『思い出のブライトン・ビーチ』
作・ニール・サイモン 演出・秋元博行



◇劇団にれ（札幌）『奇跡の人』
作・ウィリアム・ギブソン 演出・関口英一



◇劇団新劇場（札幌）『亜也子』
作・岡部耕大 演出・多海本泰男



◇劇団シアターⅡ（札幌）『あがりー丁』
作・演出・渋谷健一



◇劇団河童（北見）『ホスピス』
作・立原りゅう 演出・布施 茂



◇劇団風の子北海道（札幌）『天幕がなる』
作・岸邸夫 演出・鳴海輝雅



◇劇団風の子北海道（札幌）『天幕がなる』
作・岸邸夫 演出・鳴海輝雅

第十六回北海道演劇祭（九月十四日～十八日江別市）に演劇会議編集長の早川昭二さんと劇団弘演の宮崎秀世さんの三人で参加。分担しあって全作品を観劇。江別市制四十周年・北海道演劇集団設立三十周年を記念してのこの演劇祭は、歴史の厚さと北海道衆のしたたかな創造への執念を感じさせるものであった。過去最大規模の十四集団の参加で、それぞれが持てる力のありったけを舞台に織りこみ立ち上げてくれた。オリジナルが九作品、さすが創作の北海道である。

劇団川「幻の街」。大地を掘りおこせば、そこには数えきれぬ人間たちの呪詛が聞こえてくる筈だ。かつてエネルギー産業の花形であった石炭産業。初老の元炭坑労働者で組合の書記長であった三橋丈二（高部康一）の深い傷をさぐりながら過去と現在を交錯させてゆく。一冊の手帳に隠された真実とは。衝撃的な結末、三橋の自殺へと舞台は急転回してゆく。作者の岸邸夫氏は北海道を舞台とした作品を数多く生みだしている方。構成員はさすがと感ずつつも「エピソードとしての過去」という括り方には疑問が残った。多くの炭坑労働者の無惨な犠牲の上に成り立ってきた日本の近・現代とは一体なんであったのかという視点を欠いていたこと。なによりも事故で家族を失った人々の記憶は、まだ生々しくある。「幻」ではない痛切な記憶とどのように向きあうかが問われる。三橋役の高部康一さんは

劇団歴六ヶ月と聞き驚いた。牛島ふじ役の若山澄恵さん、主人公の「痛み」をつつみこむ優しさを自然に演じていたのが強く印象に残った。

劇団さっぽろ「なら梨とり」。道内の多くの子供たちとの出会いの中で鍛えられ、みがかれた見事な舞台形象を見せてくれた。布切れのドロップがホリに幻想的で美しい山脈を映し、淀みなく転換がすすむ。笹の葉、風、川の流れをクロスたちがからだにいっぱい演じ、観客の想像力をかき立ててくれた。

劇団にれ「奇跡の人」。サリバン役の渡辺真利さん、ケラー役の西村知津子さんの二人がドラマを引っばってゆく。そのエネルギーには圧倒された。ジェイムス（山田英明）が解らない。関係が見えてこない。俳優の技量の問題だけではないようだ。演出の眼が、ケラーとサリバン中心に注がれて、全体のアンサンブルを創りだすための細部の詰めの甘さがあったと観た。

劇団ベルリナ「思い出のブライトン・ビーチ」。「最低の状況における自己の尊厳」というテーマは確かに重い。戦雲たれこめる一九三七年、経済不況は容赦なくジェローム家におそいかかる。舞台は兄弟姉妹、親子の交情を描くことには成功しているが、少年ユージンのパニックのときに生まれ出てくるユーモアが湧出していたといえるか。ペーソスは示し得たがユーモアが欠如していた感はまだぬがれない

かった。ひとりひとりの俳優の力量は確かなものであった。それだけにミザンスの工夫がもうひと押し欲しい。食卓が舞台の中心を占め、立体的なセットが為に平板にみえたこと。俳優の動線に奥行きが感じられなかったことなど。達者な俳優たちが、自分の居所がつかめていなかった印象である。それにしても少年ユージン役は適役であった。

劇団海鳴り「椰子の実の歌が聞こえる」。忘れてはならない過去の「事件」を掘りおこすことで現代を鋭く突く感情制御で気づく不覚にも涙が止まらなかった。観終ってロビーで飯田信之さんからティッシュをもらい涙をかむが、息苦しさはおさまらない。推理劇仕立てである。後半にたまたまこまれる事件の解明に演出の力点がおかれ、前半の仕掛けが吟味されていたとは見えなかった。息苦しさの原因は、自分がこの作品を演出するとしたら、どうやれたかという思いがあったからだ。オリジナリティとは何か？作家の創りだした劇構造に寄りかかっていただけではないけない。自戒をこめてそう考えた。

劇団ドラマシアターども「遠く呼ぶのは誰の声」トド山第三分教場パートⅡ。「誰か故郷を思わざる」の唄が流れます。会場は満席である。分教場の片桐先生と十二人の生徒たちは昭和から平成のときを一気に駆けぬける。時代と折り合いがつかないままドロップアウトする者、ふみとどまる者、苛立ちを叫ぶ者。変容していく時代に置きざりに

された魂に遠くから呼ぶ声がする。安念グラフィティともいべきか。劇中に流れる「誰か故郷を思わざる」の古賀メロディーは、国を奪われた朝鮮民族の望郷歌と、その朝鮮に流されてきて故郷を偲ぶ貧しい日本人の望郷の念が背中あわせになってできた望郷歌の典型である。昭和十五年発売。翌年には破滅の道、太平洋戦争に突入する。状況が酷似している。翼賛政治体制であり、PKO、不況だ。作者の安念氏は、不安が充満する平成のいまを憤り、昭和を憎悪する。だからこそ「北海道にこだわり、生きる可能性をこの地を陣地」として、「大衆演劇で撃つ」心意気がうかがえてうれしかった。

劇団風の子北海道「天幕がなる」、劇団河童「ホスピス」、劇団舞夢「白百合の雪」の三作品も観たが紙数がないのでふれられない。レパートリーの多様さ、演技陣の層の厚さ豊かさ、それを支えるスタッフの連帯した働き。総出演者三〇〇名、実行委員数八〇名、観客目標六六〇〇名である北海道演劇集団の三十年の歴史は骨太くたくましい。樹は根つき、広いすそ野の街々に葉を茂らせ、風をうけて立っている。次代の北海道演劇の展望を語るにふさわしい充実した祭であった。次回は釧路で開催されることが決っている。参加して本当に良かった。かかえきれない収獲と刺激をうけた四日間であった。北海道の仲間たちに感謝をこめて。

さよなら柘植さん…ありがとう

文化の業績を偲ぶ

栗木 英章

劇団名芸Ⅱ名古屋市天白区Ⅱの代表柘植洋さん^{つげひろし}が八月十八日午後六時五十六分、くも膜下出血のため、死去。享年六十四歳。劇団名芸創立メンバーの一人。シェイクスピアを中心とした古典劇、現代を直視した創作劇の上演活動など、地域に根ざしたリアリズム劇の活動をつねにリードした中心的存在でした。

同氏の死去をいたみ、劇団創立以来、柘植さんとともに劇団活動を支えてきた栗木英章さんに、柘植さんへの追悼文を寄せてもらいました。

柘植さんは一九三〇年、豊橋に生まれ、名古屋大学を卒業後、みずから望んで名古屋市南区の労働者街へ新任教師として飛び込んできました。歌ありフォークダンスありの型破りな教育はたちまち生徒の心をとらえ、その時演出された「夕鶴」や「三年寝太郎」の劇との出会いが、当時、

生徒だった私たちの生き方をも方向づけたのでした。やがて教え子たちは高校卒業後、働いたり、大学で学生運動をはじめたり、それぞれの道を進みますが、友達のような柘植先生を中心とした楽しさが忘れられず、ついに六十二年、「でくのぼうの会」という演劇グループを結成。柘植さんは旗揚げ公演、チェーホフの劇「熊」を演出し、以降、シェイクスピア劇や私のつたない創作劇など精力的に演出されたのでした。

当時の「一人が十歩前進するよりは十人が一歩」というスローガンは、柘植さんの姿勢として劇団名芸のみならず転任された沢上中、南光中、桜山中の教え子たちにも伝承され、「会」も劇団名芸へと発展。八十一年には、天白区平針へ小劇場も完成させることができました。

地元演劇、文化運動の一翼を担うように成長した劇団の核に、いつも謙虚で誠実な柘植さんがいました。

突然の計報に、通夜と告別式に延べ千人を超える方々が参列して、別れを惜しんでくださいました。演劇以外にも、地元の地域住民運動や、新聞「赤旗」の配達を続けられた柘植さんへ、日本共産党の宮本議長をはじめ、たくさんの方の忌電も寄せていただきました。

悲しみと寂しさは尽きませんが……、柘植さん、本当にありがとうございました。私たちが微力ですが、遺志を継ぎ、活動していくことを誓って……お別れします。

劇団銅鑼の海外公演に寄せて

アンナさんのこと

演劇評論家 大笹吉雄

劇団銅鑼のリトアニア公演に同行して、八月末から約二週間、首府のビリニウスと第二の都市、カウナスを訪れた。この二つの都市の国立劇場で、銅鑼が九二年に東京で初演した『センボ・スギハハラ』（平石耕一作、平石・山田昭一演出）を上演する旅だった。

朝日新聞に書いたように、この公演自体は大成功で、なかなか、舞台のタイトルになっている第二次世界大戦の初期、ナチス・ドイツに追われてポーランドなどからこの国に逃げて来たユダヤ人約六千人に、本国の命に背いて日本への通過ビザを発給したリトアニアの領事代理、杉原千畝が、その事務を執ったカウナスの劇場関係者の歓迎は熱烈で、早速、銅鑼との間に来年からの交流の話がもちあがったほどだ。

ところで、リトアニア滞在中の二週間は、ちょうどオフ・シーズンにあたっていて、見るものは何もないだろうとあらかじめ聞かされていた。となればちょっと時間をもて

あますから、ほかの国を回ろうかなと思っていた時、早川昭二氏がアウシュビッツへ行こうとしていることを知って、便乗させてもらった。三泊四日のポーランドへの旅だった。

ワルシャワ、古都のクラカウ、ポーランド語でオシフィエンチムという市にあるアウシュビッツとビルケナウの二つの収容所を訪ねたが、正直に言えば、収容所そのものからはさほどの印象は受けなかった。行った日がいきたところ、タンボポに似た黄色い花が咲き乱れている小春日和だった上に、博物館としてきれいに整備されていたから、何だかショーケースに収まった建物を見るようだった。映画やテレビを介して知っていて、その意味での驚きが少なかったということもある。というよりも、ビリニウスの秘密警察の博物館を訪ねた時の印象が、あまりに強烈だったからだといった方がいいかも知れない。

繁華街の公演の前にある石造りのその建物は、以前は全体が秘密警察だったという。今はその地下だけが博物館として無料公開されている。のみならず、見学者は当時のままだというどの部屋にも入れるし、器物に触ることもできる。わけでもゾツとしたのは拷問室で、まるで放送局のア



岩波剛、大笹吉雄、早川昭二の諸氏とアンナさん

ナウナス・ルームのごとき防音装置が施されているその部屋の壁には、点々と血の跡が残っていた。

「歴史」を剥き出しにしたような建物だったが、こういうものが残っていると知らなかっただけに、印象が強かった。が、また違った意味で、アウシュビッツのことも忘

れられない。

アンナという名の中年のポーランド女性が旅の案内人だったが、アンナさんはまるで、ポーランドのレジスタンスの精神を凝縮したような人物だった。

かなり達者な日本語を使うアンナさんだが、アウシュビッツのある場所に来ると、突如として言葉を乱し、「ここで……わたしの伯父さんが……殺されました」といったきり、顔をひきつらせて唇をわななと震わせた。そこは戸外の、処刑場の跡だった。

アウシュビッツといえば、われわれはすぐにユダヤ人のことを連想するが、ゲシュタポによって最初に連行されて来たのはポーランド人の「政治犯」で、以後、多くのポーランド人やジプシー、ソ連軍の捕虜などもナチスの犠牲になった。アンナさんの伯父さんも、その一人だったのである。

さらに話を聞けば、アンナさんの祖父は「ワルシャワ蜂起」に関係していた。こういうことからアンナさんは、民族としてのドイツ人やロシア人はともかくとして、ナチスやソビエトに対して非常な嫌悪感をあらわにした。ほとんど生理的な反発だったが、そこにわたしは改めて、歴史のヒダを痛感せざるを得なかった。五十年という時間は、まだまだ生な身体感覚の範囲にある。それをつきつけられた旅でもあった。

リトアニアの二つの劇

演劇評論家 岩波 剛

劇団銅鑼の『センボ・スギハアラ』海外公演に同行して、バルト三国の一つリトアニアに行った。この国については、セゾン美術館が招いた「チュルリョーニス展」で世紀末の幻想的な画家、音楽家を知ったくらいで、ほとんど未知だったが、森と湖の国の美しい風物に接することができたと同時に、海で囲まれた日本と違って、陸つづきで大国にはさまれた少数民族の辛い運命の傷跡にも出会うことになった。が、ここでは演劇にかかわって、見たまま、聞いたままを報告したい。

二つの都市で二つの劇を観た。二週間たらずの間に何ほどのことを知るわけでもないが、この二つがリトアニア演劇界の現状を映す鏡かもしれない。

首都ヴィルニウスのアカデミー・ドラマ劇場小ホールで観たのはダニエル・ハルムス作『老婆』。結論を先にいえば、ぼくはそれがどんなプロットをもつのか分からなかった。いわゆるプロットなどないのかもしれない。メロディのある音楽や装置はなし。椅子や棺などいくつかの小道具だけの舞台で、ぼくにはパフォーマンスの不連続なつながり

りとしが見えなかった。セリフが分からないのだから、何も断言できないけれど、俳優たちの訓練されている度合は相当なものだ。特に中心になるエグレ嬢の身体的表現の精妙さにはびっくりした。ムチのようにしなない、揺れ、全身の細胞に随時指令を与えているような動きは、それがエクスタシーなのか恐怖なのか、文脈の分からないようにとって、気味わるいほどであった。

しかし、訓練された身体の動きを見ることには快感がある。そしてぼくはこの劇を奇異とは思わなかった。日本もそのような劇の時期を通過したことがあるし、いまでもあるからだ。

「そのような劇」といったのは、リトアニア演劇界の流れについて複数の人から教えられたことだ。

リトアニアは独立して三年目。五十年をこえるソ連併合の時代がつづいたが、その間、文化政策として、リアリズムを基調に、社会主義実現にそわないものを禁ずるという建前を押しつけて来た。理念としてより体制保持のためである。それを民衆教育として強制もした。演劇人も観客もあきあきした。だから、独立後に反動がきた。イヨネスコ、ベケット、ロルカ、あるいは日本の安部公房、三島由紀夫といった、あえていえば不条理劇系のものが主流であるという。「私たちが創造しているものを、シュール・ポストモダン、抽象劇だという批評に私は同意しない」というハ



岩波剛、早川昭二、1人おいて大笹吉雄の諸氏

この『老婆』を上演したオスカルス君と立話をした。これが皮肉だった。この前衛的パフォーマンスの若い演出家は『センボ・スギハアラ』に非常に感動したという。「登場人物の感情とか、場面ごとの緊張感がじつによく出ていた。リアルな劇はいいな。ぼくも現実起きた事件を劇にしたいと強く思います。でも、いまこの国ではつくれない。いつかは必ずつくりたい」。演劇への情熱にもえても、国家補助の削減、観客の劇場はなれ、それにやっつてることとやりたいものに引き裂かれて悩んでいる様子だった。

カウナス市ではソートン・ワイルダーの『長いクリスマス・ディナー』を観た。食器や燭台の置かれたテーブルを目の前にして、観客は晩餐に招かれた客のようだ。劇は日常そのままに始まる。細部はごく写實的に、全体は流れるようなテンポで、親から子へ、死から生へと回帰して、九十年つづくディナーはみごとに一幕となった。皿にナイフが当る音がシンコペイションとなり、人物の感情が激すれば顔面紅潮し、フォークをにぎる手の静脈が浮き出る。それらを不自然にしないアンサンブルがあった。

出演者は国立劇場の主要メンバー、老練の俳優であった。若者たちが時代の流れに乗って超現実、非具象の方向に走ろうとするとき、あえて鍛えぬいた写実演技で伝統を守ろうとする意思を見せているようにぼくには見えた。

ルムスの言葉は、逆に、いまの流れのありようを明らかにしていないだろうか。
ここで起ったのが人々の劇場はなれた。目下、一番の問題だという。

海外公演便り

出 発

午後十二時のアエロ・フロート機にて、先発隊を除く公演班三名、ツアー参加者二十九名がモスクワに向け飛び立つ。公演班は飛行機を乗り継ぎ、リトアニアの首都、ビリニウスへ。

それにしても皆、荷物の多いこと。私物以外にも、特大のスーツケース数個に、工具類・衣裳・はきものを詰め込み、小道具のタンス・日本人形の大きなケースから、お土産の酒・炊飯器に至るまで、皆で手分けしても手に余る程。日本を出発して約十六時間後、日本時間では日付けが變って午前四時をまわった筈だが、こちらは午後十時過ぎ。白夜のこの国では日暮れを迎えたばかり。ビリニウス劇場の方々の出迎えを受ける。

それにしても何て美しい国。中世のたたずまいをそのまま残す、静かで重みのある街。こんな歴史ある街で私達の芝居が受け入れられるのだろうか。

仕込み

現地劇場スタッフと銅鑼との共同での舞台設営。皆、や

る気満々、好意的な人ばかり。父親が舞台監督で、母親が小道具係、息子が照明担当、なんていう一家がいたりもする。

しかし、言葉が通じない。この国の母国語はリトアニア語。それ以外にロシア語、ドイツ語も話す。だが、そこは芝居者同士、仕込みは、英語、日本語の五ヶ国語が飛び交い、結局、身ぶり手ぶりで「ツー」といえばカーとひびいて進行する。

本 番

『センボ・スギハアラ』の舞台そのものであるこのリトアニアでの公演を迎え、緊張してない者はいない。私自身、どうにも落ち着くことができず、座ってられない。開演二十分前から舞台をフラフラ歩き廻る。スタッフも同じ。緊張感が極限に達しそうな頃、幕が開いた。やはりブレッシャーの為かいつもより芝居がかたい様。しかしそれ以上の意気込みと熱意がほとばしっている様に感じる。

カーテンコール。拍手が段々と高まり大きな手拍子へ。花束が続々と贈られる。そして二日目以降からは連日スタンディング・オベーション、つまり、立ち上がっての拍手喝采を贈られることとなった。もちろん初めての経験、大感激。これは最終日まで続いた。

(劇団銅鑼・井上祐子)

—〈ロシア演劇レポート 1〉— やはり チェーホフ『桜の園』から 桜井 郁子 —付、日本とロシア演劇 I—

△モスクワ・レポート▽が15になったところで、本誌の衣がえとなり、この稿から改めて△ロシア演劇レポート▽を始めることになった。まず手始めに、「何故いまだきロシアなのか」ロシア演劇に馴染みの薄い読者に答えなさいというのが編集長のご注文。そもそも日本の新劇は草創の頃から、ロシア演劇と深い関わりがある。その辺のことを少し……。

「築地小劇場」と、その創始者で演出家の小山内薫や土方与志の二人を抜きにしては語れないだろう。

関東大震災の焼跡に、我国初の有形劇場「築地小劇場」が生まれたのが一九二四年。前世紀の八〇年代ヨーロッパに始まった演劇運動の、当時頂点に立った「モスクワ芸術座」が創設されたのが一八九八年、これに遅れること二十六年、近代的設備と機構を持ち、建物と同時に劇団組織も整備した「研究劇場」の誕生である。小山内が急逝し、劇団組織が分裂するまでの四年半、定評ある外国戯曲の翻訳劇

上演を主として、84回の公演と演目合計一一七を数えた。

ここから発せられたメッセージが我国の演劇界、文化人に与えた影響はとても大きい。然もここで育ち、その後も活躍した俳優、演出家、舞台芸術家を、例えば千田是也、滝沢修、杉村春子、亡くなった山本安英等々とかぞえるならば、この劇場の現在までに果たした役割の大きさは肯ける。さて資質も経歴も大いに異なる二人の創始者が、ともにロシア演劇に関わりを持ち、それが「築地小劇場」の活動にひいてはその後の新劇に大きく反映された事実を少し……

小山内薫(おさない・かおる、一八八一—一九二八)は二度の海外旅行をしている。第一次(一九一二年十二月から翌年八月まで)はロシアからスカンジナビア諸国、オーストリア、フランス、英国を巡ったが、最も感銘を受けたのはドイツのマックス・ラインハルトの演劇運動と、ロシアの「モスクワ芸術座」だった。モスクワでの滞在の日々、スタニスラフスキを始めとする演劇人との交流の一端は彼の「ロシアの年越し」(小山内薫全集所収)他の文章で読

むことができる。

帰国した後の『夜の宿』（ゴリキ作『どん底』、歌舞伎役者たちにより「自由劇場」で初演）再演の舞台は一新したそうだ。この旅でとった詳細なノートが、築地小劇場のレパートリーにも演出作品にも活かされた。山本安英の次のような証言がある。

「僕は、皆に一番間違いない、正しい技術を教えるにどうしたらいいか色々考えたが、自分が実際に親しく見て来た外国の非常にすぐれた芝居を、集めておいた写真や、細かくノートして来たプランを参考としてそのまま演出するのが、将来の君等の技術的な基礎を作る為に、一番誤りの少ない教え方だと思う。だから勿論僕の教えた事だけに止まらずに、僕はただみんなのほんの土台を作るだけなんだから、それを君等が足場にして、自由に、どこまでも、正しく伸びて行ってくれなくちゃいかね。／＼これが、先生の口壁の様に言う意見でした。／＼だから先生の演出されたものは、チェエホフ、イブセン、トルストイ、ハウプトマン、シエクスピア等のものが多く、そして、モスクワの芸術座の演出プランによったものが大多数を占めていたようです。／＼舞台装置、小道具、衣裳、俳優の舞台上の位置、動きの順序までが、先生の驚く程精密に記入されたノートによって決められていました。／＼たまたまモスクワの芸術座の公演を実際に見て来た人が、あまりに何から何まで似

人のお客として贅沢な三時間、演出家ドージンのテーブルを横に見ながら坐っていた。

斯界の第一人者コチエルギンの装置がおもしろい。前舞台を半円形にのこして、これを囲む急な斜面が後へ立ち上っている。斜面上、舞台いっぱい十数枚の細く背の高い衝立がならぶ。プラスチックの窓の背後に木の枝がとり付けられ、照明で桜の花盛りも現出する。衝立の頂上や枝には家具調の彫刻が施されているが、園の崩壊に従って、枝はもとより枠も壊れ、多数が運び去られる。前舞台の中央には池があり、いろいろな役に立つ。不幸なエビホードクが自殺のふりをして、ピストルをとり落とし、ワリーヤは悲しみに自分の顔を映して見る。園の売却で泣き伏すラネフスカヤの上にシャンデリアが下りて来て、遂に水中に没する。ロバーヒンのオーバーシューズが投げこまれ、ガリーエフ愛用のドロップの缶も最後に捨てられる……という具合に。

舞台は小鳥の囀り、汽笛、遠くのピアノの音で幕が開くが、叙情を漂わせながら、感傷は排除されている。ラネフスカヤの乱れ髪、時には荒々しいまでに声を高め感情の起伏を見せる。我がまままで気まぐれで、それでいて誇り高い一個の女。兄のガリーエフは育ちがいいが世間知らずのお坊ちゃま。マトリョーシカ人形そっくりのふっくらしたドゥニャーシヤは初めてみるタイプだ。ポリシヨイ・ドラマ

ているので、これは——と驚いた程でした。」

この最後のくだりで思い出す、モスクワ芸術座の第一次来日公演（一九五八）の『桜の園』を見たとき、俳優座の舞台が演技は別にして装置から俳優の位置まで、そっくりなコピーであると思ひ知らされた。築地からの伝統が、功罪ともに我国新劇にもたらされた例というべきか。

「築地小劇場」は土方与志（ひじかた・よし、一八九八一—一九五九）がベルリン滞在中、関東大震災の報に接し急ぎ帰国した後、私財を投じ小山内を誘って建設したものが、土方もこの旅の最後に滞在したモスクワで「その後の私の半生を規定する幾多の諸事実に遭遇」（「なすの夜はなし」所収）する。然も小山内とは全く違うメイエルホリド演劇との出会いで……（以下は次号）

築地小劇場で興行としてあつたのは『夜の宿』（『どん底』）と『桜の園』で、ともに繰り返し上演された。

劇団「銅鑼」のリトアニア公演にツーリストとして同行した今回の私の旅もチェエホフに会ってしまった。

たった一日のベテルブルグ滞在を、私はマールイ・ドラマ劇場で過した。三日後のドイツ公演旅行を控え、『桜の園』の通しをやるといふ。四月末にパリで幕を開け、ロンドンとグラスゴーを含めて12回公演し、ロシアは未だ、九月十一日に初演予定と聞いた。何という幸運、私はただ一

劇場から客演のレーベジェフが老僕フィリスを演じ、皆がいなくなると、シャルロッタの手品をそと真似してみる。彼の来演で舞台が厚くなった。

レーベジェフは実は自分の劇場でも、今フィリスを演じている。「でもあちらの芝居は退屈」とさりと云っている。どうしてこの劇場に出演するのか、前に『楡の木陰で』のとき聞いた挨拶が耳に残っている。「大きな鐘は音が割れるし、鳴らない事もある（クレムリンの「鐘の王様」は地面に坐ったまま、鳴った事がない）。しかし小さい鐘は必ず良い音を立てる。自分は演技を腐らせないためにここへ来た」お分りのようにポリシヨイは「大」、マールイは「小」を意味するロシア語だ。

テキストは変らないのに、こんなに意外性に充ちた『桜の園』は初めて見た。

『センボ・スギハアラ』のリトアニア公演は大成功、誠にめでたい。これを上演した二つのアカデミー劇場のことは、早川さんが書いているが、私はもう一つ訪れたい所があった。ヴィリニウスの青年劇場、その演出家ネクロンウスの名は度々聞かされ、『ピロスマニ』や『ワニヤ伯父さん』など名舞台の噂は知っている。都心の横町でたずねあてた劇場は小さくかあいしなかったが、シーズン・オフ、おまけに演出家は交替してしまっていた。十一月ウクライナの演劇祭には現われるらしいから、今後の出会いを期



マル・イ・ドラマ劇場 チェーホフ『桜の園』舞台より

そう。

モスクワへ帰って友人の俳優ユルスキイに電話したら、明日からイヨネスコの『椅子』を演りにリトアニアに発つと言う。ヴィリニウスから帰ったところと言うと、彼も驚いていた。

「ニーヤ伯父さん」ブーム（既に七つを数える）といえ、作者チェーホフにも拒否されたこの作品、何故上演するのかと半信半疑で客席に着いたが、結果から言えばほとんど納得させられた。

この装置は前舞台にもせり出した夏のテラス。垣の横棒が私たちの視界を邪魔するが、おかまいなし。舞台上の人物たちも観客を無視するように朝食の卓に着き、おしゃべりをし食べる。この舞台の特徴の第一はオプチミズムの凱歌、第二は中心人物がいないこと。主人公は後の『ワーニヤ伯父さん』のアーストロフにあたる「森の精」でもなければ、ワーニヤにあたるジョルジュでもない。登場人物表の末尾にある「ワッフル」こと、ジャージンが大きい。好人物だが馬鹿でもない、何にも感動して赤ん坊のように喜び喜び両手をふりまわす。この役をバタローフが好演。

ジョルジュの自殺は忘れ去られ、エレナも最後には中途半端な妥協にけろりとして、幸福な二組のカップルが結ばれるが、さて明日はどうなるか。一貫した雰囲気、完璧なアンサンブルの中で、作者も与えなかったように演出家も謎ときしない。「これが人生」と言わんばかりの、これが第三の特徴か。

「銅鑼」の皆さんは見られなかったが、十月からは主要な劇場がそれぞれの大作を用意しているのを確認して去ったモスクワだった。（一九九四・一〇）

モスクワでは幸い、今一番人気のジェノヴァチが演出した『森の精』を見ることができた。前日にはアルブーゾフの『僕のすてきな人』初演を見た。この戯曲は感動するものではないが、現代的なアルブーゾフ解釈だった。さて『森の精』、『ワーニヤ伯父さん』の原形で、『ワ

北から 南から 劇団通信

劇団しゅう

来春まで公演の予定がなく、この期間勉強をしようと、劇団大阪の稽古見学、古典戯曲の見直し、又、藤沢薫さんを招いての俳優教室、そして、劇作家清水巖氏の令息清水光彦氏（氏はオーストリア国立音楽大学に留学され、現在関西二期会会員）を招いてヴォイストレーニング等を行っています。大好評で、豊中市民参加演劇の方にも、市に依頼して、来て頂いて目下訓練中です。その市民参加演劇も六年目に入り、今年は、R・ブラッドベリ作「華氏四五一度」でスタート、演出は六年間続いて又川邦義が担当。今年も約70人程の市民参加があり（例年通り圧倒的に女性ですが）毎年のことながらキャストの選定に悩んでいます。公演は十一月二十六日（土）二十七日（日）の両日で計四ステージです。幸い今年は

大阪新劇フェスと重っておらず、専門家筋にも観て載れるかと期待しているのですが……。
（M記）
池田市井口堂三ー一六ー三〇六
（563）
又川邦義方
TEL 〇七二七（六一）九六四一
東京芸術座

八月の「いなさ」総会以降の劇団活動について報告いたします。

歴史的「猛暑」の中で取り組んだ「あわて幕やぶけ芝居ー東京空襲三・一〇ー」（大橋喜一・作／杉本孝司・演出）は、初日を九月二日にヘルネこだいら〜で開け、三日へ前進座劇場〜五日へ江東区文化センター〜と移動公演。七日〜十一日は最近常打ちにしている新宿のヘシアターサンモール〜、計一〇回公演。今秋のアトリエ公演は、朗読劇「絵のあるお話」ーあひろとアンデルセンー（さく・アンデルセン／え・いわさきちひろ／ぶん・かつやましゅんすけ）をいんなみさだとが演出します。大人の童話として新しい朗読劇を追求します。年が開けるといよいよ終戦五〇周年企画の「花」（原作・田宮虎彦／脚色・平石耕一／演出・印南貞人）を四月に、「私は貝になりたい」（遺書原作・題名「狂

える戦犯死刑囚」加藤哲太郎／脚本・橋本忍「私は貝になりたい」より／劇化・乾一雄／演出・山口みる）を九月にそれぞれ東京公演を行います。旅公演は「十二人の怒れる男たち」「赤ひげ」が十二月まで。一月からは「冒険者たち」「ピート」、銅鑼との共同制作「橙色の嘘」が全国巡演へ。
（177）東京都練馬区下石神井

四一十九一十一
〇三一九九七四三四一

劇団名芸

名芸は去る八月十八日、代表の柘植が急逝し、茫然自失となりましたが、直後の中部プロクゼミでのモデル上演「ごんぎつね」、引続く南子供劇場「大どろぼうホッテンブロッツ」上演を通して、一同前に向かって進みつつあります。その節は葬儀への参列や弔電などたくさんいただきありがとうございました。

さて、この原稿締切り間近には、名芸として、作・制作等で関わっている「反核舞台人の集い」「チェルノブイリを見ている」の公演（九月二九・三〇）と、外部からの依頼特演（九月二九・三〇）と、別公演、「異説・明治オッペケベ」（十月一日、明治村、呉服座。作／栗木、演出／谷辺

康弘)を何とか終える頃です。そのあとは、やっと落ち着いて秋の本公演に集中できる予定です。

●柘植洋追悼・第41回公演

「この街に生きて」(作/栗木 演出/片野耕治) 12月2・3・4 平針小劇場
地域の地道な活動にこだわり、愛し続けた故・柘植の遺志を受け継いで、心こもった舞台に仕上げたいと思います。多くの方々の観劇をお願いします。その他の活動としては、稽古場のある天白区に「文化ふおらむ」が設立され、十一月六日に「文化祭」を開催するので、地元他団体と共に成功へ尽力していきます。

来年の計画はこれからですが、秋には若尾・柘植追憶の名劇協合同公演を行うべく、準備を始めました。では又――

〒468 名古屋市天白区平針一の一八〇八

TEL 〇五二一八〇三二九二二

尚、急ぎの連絡や小包み類は左記へよろしく。

(457) 名古屋市南区汐田町十一一八栗木方

〇五二一八二一三六九一

劇団すがお

春の公演は、劇団の若者が自ら書いて、演出小劇場公演で成功のうちに終了し、若者の

自信となりました。高校生が受験態勢に突入したため、一部歯抜けとなりましたが態勢を整え来年3月の公演に向けて準備中。近日中に作品決定の予定。

次回公演 国民文化祭三重94「演劇祭」で

地元四日市と桑名市の8劇団の合同公演に向けて集中しています。

作品は 多川春海・こばやしひろし/作

ことばやしひろし/演出

創作劇「裏の畑でボチがなく」

十月三十日(日) 午後四時四十分

四日市文化会館

春の公演/ななわ小劇場

村田拓哉・村田あゆみ/作

南口奈々絵/演出

創作劇「ティーンエイジャー」

六月十八日(土)・十九日(日)

劇団すがお稽古場 3回公演 二七〇人

韓国の劇団を招待公演

私たちと交流のある韓国・馬山市から劇団

馬山を迎えて公演・交流しました。

李載賢/作 文鐘根/演出 「梅花伝」

六月十日(金) 桑名コミュニティプラザ

六月十一日(日) 市民会館 延二二〇〇名

(51) 三重県桑名市睦美ヶ丘一〇五八

〇五九四一三一四二二〇

劇団大阪

雨も降らず暑い日が続いています。大阪の貯水タンク琵琶湖も干上がり、大阪の真夏日は70日を超えたそうです。九月四日には日本初めての24時間空港「関西国際空港」が開港し、連日のお祭り騒ぎです。

祭り騒ぎを他所に我が劇団は十月公演の「日本の面影」の稽古、装置作りに汗だくの毎日です。

さて、萩坂さん永い間本当に御苦勞様でした。萩坂さんなくしてこれまでの「演劇会議」はなかったと思います。そのご努力にただただ頭が下がるばかりです。新編集部の皆さん、新しい「編集会議」に大いに期待しています。

第42回公演
「日本の面影」 作・山田太一
演出・熊本 一

十月十四日(金) 十五日(土) 十六日(日)

於・近鉄小劇場

(542) 大阪市中央区谷町七一一三九

新谷町第二ビル一〇三号

〇六一七六八一八九五七

演劇サークル麦の会

暑く暑く暑かった夏もようやく終え、涼風

ただよう秋になってはっとしています。全リ演の皆様、御元気に御活躍のことと思います

私達も、暑い夏の盛りを、稽古稽古に明け暮れ頑張ってきました。十月十四・十五日

小山祐士作「泰山木の下で」を六本木区

民センターで上演します。永年この芝居をや

ろうと思いつつなかなか実現に至らずようや

く上演の運びになり、公演日にむけて張切っ

ています。恐らく、「劇団通信」が出る頃には

公演は終えて居ると思いますが、心にしみる

芝居にしたいと、そして二日間の公演を満

杯にと意気こんで居ります。よろしくおねが

います。

(133) 江戸川区北小岩七一三二二〇

〇三一三六五九一八七〇四

劇団埼玉

今、私達は稽古場移転で頭をかかえています。

創造の拠点を確保しようと奔走しています。

二ヶ所ほど候補地はあるのですが、沢山の問

題と条件をクリアしなければならず、とても

厳しい状況です。そんな中十二月の公演の

稽古は続けています。

「武洲鼻緒騒動」 二幕十一場

原作・川元 祥一

脚本・澤田 照夫

演出・川村 武夫
日時 十二月二十五日(日)

越谷コミュニティホール

※脚本の澤田照夫は劇団員であり数本の創

作戯曲作品があり、埼玉では実質的にこれが

デビュー作となります。もっとも成長し

てもらいたいと願いをこめて、川村武夫演出

を中心に厳しく、そして楽しく稽古を進めて

います。

(330) 埼玉県大宮市染谷一七七一の四

〇四八八六八四一三〇八二

関西芸術座

関西芸術座は、秋のシーズンを迎え、田辺

聖子作品「姥ざかり」が四国方面の市民劇場

に約10日移動公演。中学・高校生対象の「薫

ing」を、9月16・17日近鉄小劇場で上演。

中・高校合せて約一七〇校の担当教師が観劇

全体で3ステージ、一〇〇〇名の観客。

新稽古場建設も工事は順調に進み、11月末

竣工の予定で、12月中旬には移転開始となる。

劇団としては「文の里さよなら公演」と銘

打って、3月9日・13日関芸スタジオで、「泰

山木の下で」芝本正演出を上演している。

なお、劇団内の自主企画として「アデュー文

の里」の公演を、和田憲明作「クローズ・ユ

ア・アイズ」松本昇三演出。10月27・30日。

サテライト作「人生逆転」を道井直次演出。

11月17・20日、各々関芸スタジオで開催。

12月3日には、友の会との共催で、「文の

里さよならパーティ」1月下旬、竣工祝賀会

(2・3日間)など行事が続く、4月上旬に、

こけら落しが予定されている。

床面積(約93坪) スタジオ(約53坪、2・

3F吹きぬけ) 客席(パイプ椅子二〇〇以上)

の新稽古場は、新たな地域住民との出会いを

楽しみに、今、懸命に寄付集め(101万円)

に奔走中である。

(545) 大阪市阿倍野区文の里四丁目

一八ノ六

〇六一六二二二二二二

劇団だいこん座

九月十七日に鶴岡市中央公民館ホールにて、

小池倫代作、高橋寛演出「恋歌がきこえる」

(二幕)を上演しました。

だいこん座としてはめずらしく完成度の高い

舞台となり、特に若い女性には好評でした。

ドラマのおもしろさをいかに創り出すかに苦

心しました。新人が二人出演したのも、うれ

しいことでした。逆に旧人はだんだんくたび

れてくるようで、エネルギーを補強する必要があります。これから春の公演作品選定に入ります。

(997) 山形県鶴岡市青柳町四二一三二

〇二三五一二四一六八八

劇団あしぶえ

あしぶえのロングラン公演を代表する作品の一つである「ゼロ弾きのゴーシュ」が、アメリカで大きな花を咲かせました。

去る六月にアメリカウイスコンシン州で開催された、第二回アメリカ国際地域演劇祭。

コンテストでは、世界各国から十一のアマチュア劇団が参加して競い合いました。ゲネプロでは通し稽古ができず、本番直前で大幅な音響プランの変更を強いられるといった、最悪の条件での上演となりましたが、「ゴーシュ」が見事第一位を獲得。そして、個人では園山土筆が演出賞を、長見好高が舞台美術賞を受賞しました。

初めての海外公演のまさかの結果に、劇団員をはじめ、あしぶえを応援してくださいと多くの方々が喜んでくださいました。

また、あしぶえの長年の夢であった「一〇〇人劇場」の建設が、島根県八雲村で始まりました。遠くに大山を望み、豊かな自然に恵

まれたところで、あしぶえの新しい活動拠点となります。来春には完成し、入居は六月ごろ。柿落しは来秋の予定です。日本全国から、また世界からお客様を迎え入れたいと思っています。

(小岩崎浩一)

(690) 松江市砂子町二〇九一三

〇八五二二七三〇五〇

劇団やませ

七月末に奥羽ブロックのゼミナールが青森でありました。しばらくぶりのゼミということで、楽しいひとときを過ごすことができました。講師の一人城谷さんの話は、制作面でも刺激になりました。

劇団代表の榎谷が、例の一人芝居「海村」で、六月二日(木)・五日(日)・九日(日)・一二(日)の二週間に渡る八日間二ステイジに挑戦しました。鑑賞団体八戸市民劇場の本例会に取り上げられ、千四百人の方々に観てもらったことができました。お客さんの反応も概ね好評でした。尚、演出は栗谷川洋さんが担当して下さいました。

現在、一月一日(金)・一二(土)の第四十六回公演、下斗米謹一追悼公演「榎谷伸夫作/加藤健太郎演出「アメリカに夢を馳せた男」弓人は翔んだ」の稽古に入っています。

青森県五戸町出身の櫛引弓人の生涯を描いたものです。明治大正時代にアメリカで博覧会王と称され、あの川上一座をアメリカに招き、大正になると、大正になると、日本に曲芸飛行士を次々と招聘した人物です。面白い人物です。外人さんも三人程出演予定で、字幕スパーも考えています。どうなるか分かりませんが、必死にやるしかありません。

(大塚)

(031) 八戸市大字鮫町字下松苗場

一四一八三 榎谷方

劇団演集(名古屋演劇集団)

前回公演、木谷茂夫作、狩野恭光/浦はじめ演出 若尾正也追悼公演「広い黄色い土地」/「太鼓」(2本立て)を終えてホット一息の劇団演集です。

この公演は合同公演「夢はうつろい散りぬれど」と並行して稽古が進められ、実質的な稽古が合同公演終了後よりとなっていました。劇団として少々準備不足だった点がありましたが、公演の方は好評のうちに終えることができました。

次回公演は北原雅子演出 名古屋市青少年のための芸術劇場「アノネの日記」を来年3

月18・19日、4ステージの予定です。

この公演に備えるため秋の公演予定をキャンセルし9月から稽古に入りました。これだけ長い稽古期間を用意しても一部ではまだまだ足りないとの声もあり、作品としての難しさを感じます。劇団として力が試される公演になりそうなので、劇団一同総力を尽くして取り組みます。宜しく。(大八木克樹)

(451) 名古屋市中区庄内通り四一六一三

〇五二二五二四一五九七五

劇団仙台小劇場

平成六年八月二〇日(土)、二一日(日) 夏休み親と子の劇場No.13 第五六回公演「ピーターパン」(原作) ジェームスバリー、(脚色) こばやしひろし、(演出) 石垣政裕、(音楽) 小波秀雄、仙台市民会館小ホールにて4回公演。

この夏休み芝居も十三年目となり、今回は歌と踊りに力を入れて、他劇団から客演をお願いしながら、なんとか無事終了しました。残念ながら観客数が思ったより伸びなかったものの、若手を活用したキャストイングと、音楽を中心とした芝居の出来は久しぶりに手応えがありました。今後長期的な制作活動が重要課題となります。

平成七年四月には、今年の六月に再演した地元の女流歌人「原阿佐緒」の生涯とその真実の姿を描いた「生きのさやぎを」―原阿佐緒・石原純との本心―(作・飯泉寿美子、演出・石垣政裕)の再々演を阿佐緒の出身地である宮城県大和町にて、同町の新築ホールでのこけら落としとして、公演の予定です。

その他、他劇団地元芝居の手伝い等、頑張っております。

(980) 仙台市青葉区五橋一五一一三

平和友好会館2F

〇二二二六四一二三四〇

火・木・土の夜間

演劇集団 あり

鳥取県演劇連盟結成二十周年記念公演を、五月末と六月初め鳥取市と米子市の二会場で、県下の加盟三集団で行ないました。

ありは、清水邦夫作・前田あきら演出「案屋」と、み群杏子作・添谷泰一演出「ボボリンの降る街」の二本を上演しました。

演劇連盟20周年記念誌も発行し、結成当時全県下四市で六集団の参加が、現在二市三集団の現実を見つめ、今後共連帯を強め地域演劇を固めて行くことを話し合っています。今後秋へむけてのありの活動は、夏以来仲

間も増え、六月の県演劇連盟公演に続き、十月九日鳥取市での、県主催第一回県民芸術文化祭への出演を、北村想作・添谷泰一演出で「寿歌」を上演します。そして、十一月二十三日の定期公演はジェームス・三木作・前田あきら演出で「愛さずにはいられない」と今年の公演は続きます。

九四年の活動は、春の演劇講座に始まり、四公演を行なうこととなります。少し人員が増えたとはいえ、中心部の負担は大変であり反省しながらも、何故か自転車操業的活動を続けています。

(683) 米子市昭和町二三 宮倉方

〇八五九一三三一九三〇二

劇団からっかぜ

みなさんこんにちは。第二十六回公演「モモ」―少女と時間どろぼうたち―を上演します。原作・ミヒヤエル エンデ、脚本・栗木英章、演出・布施佑一郎でおこないます。

日時、十二月三日(土) 開演十八時三十分、場所は浜松市福祉文化会館ホールです。この公演は浜松市芸術祭参加作品で、他に浜松放送劇団三方ヶ原保養園物語「ただ一筋にこそ」とROH EN(朗演)エトピリカ「赤い斜線」他二題の上演となっています。

今回の「モモ」の上演にあたりケイコ場の
ある篠原町などに宣伝をかけ、三家族十一名
の参加、高校生、他集団の応援、新人の入団
で、なんと二十八名の活動者になりました。
山静ブロックゼミナールが九月三・四日に
ありました。からつかぜの参加者の感想を少
しのせたいと思います。今回から新しい集団
が参加した「火の鳥」の泉地さんのバイタリ
ティにおどろいた人、他集団の若い人と色々
と話をして今の自分にとって非常に役立っ
た事が沢山あったという感想、各集団の若さ
がよく伝わってきていいゼミでした。などが
感想と上りました。

あと二ヶ月で公演です。心のこもった芝居
にしよう全員で丸となっている所です。

(431-02 浜松市篠原町二一五〇五
〇五三一四四九一〇九三三)

劇団支木

去る7月15・16日に小池倫代作、堅倉憲演
出による「恋歌がきこえる」の3ステージを
無事終了。その2週間後に奥羽ブロックゼミ
を開催し、盛会に終わりました。

また10月16日には、岩手県湯田町で行なわ
れる演劇祭に参加する事となり「恋歌」を
上演します。そして11月26・27日には、青

森県民文化祭に参加し、川村光夫作・堅倉憲
演出の「がんとり」を再演します。若干のキ
ャスト・スタッフの変更と、新人2名を加え
ての再演です。三重県でのフェスティバル以
上のものを作るべく、舞台のビデオを見たり
しながら、台本を読み直しています。

今年は例年になく公演回数が多く、芝居づ
くめでした。しかし、観客数が伸び悩み、ど
のようにしかけていくかを、ブロックゼミや
集会での制作会議を通して学びあったり意見
を交換しあったりしながら模索しています。

支木の存在を知らない青森市民のなんと多い
事か。劇団の宣伝もさることながら、数名の
チケットを大量にさばく人にたよっている現
在の体質を変えない事には、せつかくの芝居
が、さびしい結果となっている現状が変りま
せん。芝居が好評なだけに、今、団員の意識
改革が本当に必要なようになって来ました。奥羽ブ
ロックゼミは、その意味でも大きな収穫のあ
ったゼミでした。

(030 青森市長島四丁目二一三
〇一七七一七七四六七七)

世に下乃一座

九月九日から十月十一日まで「太平洋ベル
トライン」で四日市・中津川・名古屋・奈良

・徳山・尾道・高知・徳島と公演いたします。
「太平洋ベルトライン」の公演回数もこの旅
公演で三百回を超えます。

旅公演の後は、十一月十九日(土)からの
俳優座劇場での公演、岡安伸治作・演出の
「ダスト・シュート」のけい古に入ります。
今回の作品「ダスト・シュート」は新作で現
代劇です。

(168 東京都杉並区方南町二二四一五
第二広栄ビル〇三三三三六九四九六)
劇団河童

劇団河童

皆様、お元気ですか？
北海道は「ハッカの町」北見から劇団河童の
近況報告です。

九月十五・十八日「風とレンガの演劇際in
えべつ」にホスピス(立原りゅう作/布施茂
演出)で作品参加しました。地元実行委員会
の心温まる歓迎の中、また劇団さっぽろを中
心とした舞台監督グループに大変お世話にな
り、無事幕を降ろすことができました。この
場を借りてお礼申し上げます。

最終日には、早川昭二さん(劇団銅鑼)、
中野健さん(劇団支木)を迎え、合評会が行
われ今後へ向けての辛口の批評を頂きました。
改めて創造の難しさに思い悩んでしまします。

また、九作品の劇評を二時間足らずという
のは無理があり、もつと論議したかったのだ
ですが、仕方ありません。

十一月十二・十三日の地元公演に向けて最
後の調整に入っています。

(090 北見市幸町八丁目三一四
二四一三三五七)

劇団弘演

昨年の冷夏とはうって変わるほどの暑い夏
がすぎ九月中旬だというのに朝夕肌寒い日が
続いています。幸い稲作は平年よりやや良と
いった様子です。七月末の奥羽ブロックゼ
ミ、八月中旬の東会議総会に参加と刺激の多
い集まりが続き、エネルギー充填といった状
況です。

現在、十一月二十七日 公演予定の「恋歌
(ラブソング)が聞こえる」(小池倫代 作
/秋本博子 演出)の稽古の真最中です。

この作品はこの七月には青森市の劇団「支
木」で上演されたばかりで、偶然とはいえ競
作といった形になり後追い上演は有利か不利
かなど上演を前に考えています。

三十一年目を迎える劇団ですが、いかに地
域に根ざしていくかが問われているような
気がしています。

今回の公演で「一〇〇〇名の観客と一〇〇
名の後援会員で」をスローガンに奮闘しよう
と運営員会で話し合い取り組んでいます。

朗報がお届けできるようがんばります。
追伸 北海道演劇集団主催の第十六回演劇フ
ェスティバル(江別市にて開催)に個人で参
加、四日間八本の芝居を満喫。どの作品も熱
気むんむん、北海道は燃えていた！

(036 弘前市品川町一 喫茶ブラジル内
〇一七二一三五一四六七〇)

劇団海鳴り
江別演劇祭へは、遠いところ全リ演より派
遣をいただき、貴重な提言をいただきました。
ありがとうございます。また、遠く三百キ
ロ離れた公演に二百五十人もの観客を集めて
くれた実行委員会、そしてなによりも足を運
んでくれた皆様にお礼を申し上げます。地元
紋別での定期公演まであと一ヵ月、再度練り
直しの稽古に入っております。団員一同、一
読と同時に「これが演りたい」と声が上がっ
た、瓜生正美作「椰子の実の歌がきこえる」
です。戦争を知らない団員ばかりで作るこの
作品が、どこまで若い観客に受け入れられる
か？またあの時代を生き抜いた、父母たちに

嘘じゃない舞台を届けられるか？口開けの舞
台を終えたとは言え、また一行ごとのチエツ
クを重ねています。劇団結成から二十八年、
創立当初の劇団員も数人復帰し、ますます三
十年に向けて市民に喜ばれる舞台を作りたい
と決意の毎日です。人口三万人の我が街、動
員千五百人を目標に今日も夜遅くまで稽古で
す。(我孫子正好)

(094 北海道紋別市渚滑町四丁目
〇一五八二一三三三三八)

劇団上野市民劇場
国民文化祭が、今年は三重県で開催されま
す。また、今年は松尾芭蕉生誕三五〇周年記
念として上野市ではさまざまな行事が計画さ
れています。この二つの事業がタイアップし
て十月三十日(日)に芭蕉フェスティバルが
上野市文化会館を中心に開催されます。

この中で、演劇「蝶の宴」夢は枯野を廻り
終え」が公演されます。この作品は全国から
募集した芭蕉に関する演劇台本のうちの最優
秀作品で、島田九輔氏の原作です。演出にふ
じたあさや先生を迎えています。

国民文化祭ということで、県下の多くのア
マチュア劇団が力を合わせて公演することに

なっています。劇団津演(津)、名張おきつも劇場(名張)、ミュージカルランドじやめびゆ(上野)、劇団座名張少女(さ・なばりおとめ)(名張)、劇団すがお(桑名)、そして上野市民劇場など、総勢三七七名が参加します。練習は、週三回、上野市、津市、その中間の関町と場所をかえながら行われていました。残り期間も後一カ月となり練習もますます熱を帯びてきました。(秋田 麦)

(518) 三重県上野市丸ノ内共同ビル3階
〇五九五一二二二五二二

劇団名古屋

① 花入りの氷柱を立て、うちわとかちわりと冷いジュースの心ばかりのサービスの中で、九月三・四日、27期研佐所生が稽古場にて卒業公演を行った。(「ブンナよ、木からおりてこい」) 出演者達の黒いTシャツがアチラコチラ白く汚れていたのは、汗の塩がふきだしたことであった。戦後史上記録的な猛暑の中、クーラーもない稽古場での汗まみれの若者達の出発は、すがすがしかった、と思う。七名の内、四名が入団した。

② 強い夕立ちが降ったと思ったら、稽古場のトタン屋根が一枚ぬけ落ちた。そこから垣間見える夜空と、縁の下から聞こえる虫の音

色、なんとも風情ある稽古場で、左記の公演に向けて稽古を積んでいる。賛否がはっきり分かれた台本であった。「分らない国」だと、苦渋も含めながらこつけいに差し出すことの出来る作者の若さを感じる。求心力の強い本を選び上演してきた我が劇団にとっては正直冒険である。だからこそ、楽しみなのでもある。

加作品として、岡山土筆作「落ちこぼれの神様」を山口市市民会館大ホールで上演し、今年七月二日には、柴田多美子作「犬の瞳」を山口県教育会館ホールにて上演しました。さらに、九月二日には、山口市教育委員会の主催により、中学生の授業の一環として、「落ちこぼれの神様」を山口南総合センターホールにて再演し、二校・約五〇〇名の生徒の鑑賞を受けました、引き続き、夜の一般公演では二六一名の観客を動員し、数年前の「雪と鬼んべ」で受けた観客動員数、数十名の雪辱を果たしたところです。

③ 劇団四日市の森賢郎さん、劇団名芸の植洋さん、そして名劇協議長、劇団名俳の岡部雅郎さんと、大切な先輩をアツという間に失ってしまった。創造活動途中で旅立たれたそれぞれの方々のかけがえのない仕事の大きさを思う。深々と淋しい秋である。

ところで、この間「トラム」では、昨年十一月現在十五名のサークル員が、今年九月現在二一名となり、現在加入のサークル員のほとんどが体験したことのない規模にまで発展してまいりました。今後他の劇団の運営を参考にしながらサークル活動を運営していきたいところです。

〈次回公演〉「分らない国」
原田宗典/作・久保田明/演出
〈時〉 11月25日(金) 26日(土)
〈所〉 西文化小劇場

(456) 名古屋熱田区新尾頭二二一九

演劇サークル「トラム」
〇五二二六八二一〇一四

何だか、久しぶりの劇団通信のような気がします。さて、演劇サークル「トラム」では、昨年十一月六日に、山口市市民文化祭演劇部門の参

加作品として、岡山土筆作「落ちこぼれの神様」を山口市市民会館大ホールで上演し、今年七月二日には、柴田多美子作「犬の瞳」を山口県教育会館ホールにて上演しました。

さらに、九月二日には、山口市教育委員会の主催により、中学生の授業の一環として、「落ちこぼれの神様」を山口南総合センターホールにて再演し、二校・約五〇〇名の生徒の鑑賞を受けました、引き続き、夜の一般公演では二六一名の観客を動員し、数年前の「雪と鬼んべ」で受けた観客動員数、数十名の雪辱を果たしたところです。

事務所TEL 〇八三九二二〇二八三五
事務局長 〇八三九二二〇三九三
FAX(松永) 〇八三九二二〇七二一

劇団はぐるま

なつやすみファミリー劇場の「オズの魔法つかい」は、岐阜市民会館で7ステージ(うち貸し切り2ステージ)、移動公演で2ステージをこなし、トータルで一万八千人のお客さんに見てもらったことが出来ました。その「オズの魔法つかい」が終わってホッとする間もなく、「ブッダ」の稽古が始まっています。一年ぶりの再演、役者はほとんど同じですが、それでも一部に変更がありますし、スードラ(奴隷)や沙門の群衆シーンに新人が加わったことで、新たな緊張感をもって、稽古に取り組んでいます。当然のことながら、前回見てももらったお客さんにも、より大きな感動を与えられる舞台を作り上げ、初演を越えるものにしなければ、再演する意味がありません。歌、ダンス、芝居……ベテランも新人も、キャストもスタッフも、より良い舞台を目指して、ただ今奮闘中です。

この「ブッダ」、現在数カ所から移動公演の要請が来ています。今年の冬から来年の春にかけてですが、劇団員の仕事の都合もあり、

いくつ受けられるか、今のところはまだはっきりしていません。できれば、全部受けたいんですけど……

(500) 岐阜市西野町一丁目

劇団静芸 〇五八二一六五一八五二

劇団静芸

◇六月四日 第二〇回市民文化祭、静芸公演、井上ひさし作「きらめく星座」上演、やればやる程、井上作品の魅力が深まった公演、舞台も多くの感動を与えて幕を下ろした。

◇九月三・四日 全日演出山静プロクゼミナールを劇団「火の鳥」と共同主催で開催、四劇団、三十余名で盛り上げた、特に全日演出、新事務局長、城谷氏の参加を得て、「普及」の問題に新鮮かつ、大胆な提言に山静プロク

◇十月九・十六日、十一月十二・二十日の四回公演、「しずおか、東西南北こども小劇場」として、劇団初の児童の脚色劇を上演する。オストフリート、プロイスラー原作「小さい魔女」より小原輝夫脚色、伊藤幸夫演出で「ちびっこ魔女のぼうけん」。出演者に多くの友情参加を得て、十名近い魔女集団の「魔女のおどり」が見もの。

◇通信、昨年の三重で行われた全日演藝会で

の文化財団等からの援助金獲得の作戦が成功し、静岡文化財団より奨励費、東洋信託文化財団より助成金をいただきました、ありがとうございます。

(420) 静岡市昭府町一〇一三七

劇団湖(うみ) 〇五四二七三〇六〇四

劇団湖(うみ)

現代の三笠を舞台に、ふるさとへの思いを描いた市内のアマチュア劇団「湖(うみ)」の第二十九回公演「冬の提灯」が七月二・三の両日、三笠市民会館で行われ、多くの市民が熱演に感動の拍手を送った。

「冬の提灯」は「湖」の代表加藤元さんが、札幌の劇作家渋谷健一さんに執筆を依頼したオリジナル作品。架空の居酒屋「桂」を舞台に、ふるさと三笠に強い思いを寄せる主人公の元教師牧田先生と、居酒屋の主人とその仲間たち、しばらくぶりに三笠に帰ってきた教え子らが展開する人間模様。行方不明者十三人を残して坑内注水が行われた一九七五年の幌内炭鉱ガス爆発事故もエピソードの一つとして採り入れられている。出演者、スタッフは総勢二十四人。子役オーディションで選ばれた小・中学生八人が出演したほか、札幌や江別の劇団から四人が応援に駆けつけた。

「忘年会はみんな岩見沢に流れてしまう」というスナックのママの嘆きなど、時おり交じるユーモラスなせりふや動作に、笑いが起こるなど反応は上々。牧田先生が引き合わせた教え子と、その元恋人が結ばれるエンディングでは、感動のすすり泣きも。観客の一人は「笑われたり、泣かされたり。出演者の思いが伝わってきた」と感想を述べていた。

(94・7・4北海道新聞より)

(68・1・21 三笠市本郷町五七八一丸)

加藤方

〇二六七一三〇四四

劇団群馬中芸

御無沙汰しております。

標高五百メートル近くにあるここ「あかぎ・未来スタジオ」も、この夏は平地同様の暑い日々が続きました。今はもう秋草が草花の上に吹きわたっております。

夏休みの間に、新作、第33回こども劇場

「モカシンと魔法の羽根」―脚色・中村欽一演出・ふじたあさや―を仕込みました。

原作はフォレスト・カーター著・和田寛男訳

「リトル・トリー」(めるくまーる刊)で、北アメリカ先住民族の一つ、チェロキー族の血を引く少年の物語です。

昨年の国際先住民年に続いて、12月から始まる「国際先住民の10年への始まりの年」にあたって製作、先住民族について共に考える機会にしていきたいと思っています。

九月九日から十五日までの一週間、「あかぎ・未来スタジオ」での公演後、今は学校巡演が始まっております。

引き続き「あかぎ・未来スタジオ」の公演予定としては、これから来春五月に向かって、地域合同公演、「草原の奔馬」―ガダ・メイリンの稽古に入ります。合唱隊を含めて総出演者七十人に及ぶ、モンゴルの無名の英雄を描いた作品です、詳細は次号で。

(秋山としひと)

(371-01 群馬県勢多郡富士見村赤城山

六二六四九八

TEL 〇二七二一八八二七〇〇

FAX 〇二七二一八八二七九二

劇団どろ

約一年がかりでとり組んだ劇団どろ三十周年記念公演「ガリレイの生涯」を九月二十三日・二十五日に上演。多くの劇団からの賛助出演、かつてない観客に支えられて成功裡に終える事が出来ました。劇団にとってはすべてを投げうっての公演でしたので今は祭のあ

との放心状態といった感じで次の計画がまだ立っていません。「ガリレイ」公演を観て感激して劇団に入団したいと申し出てくれた人が二人程います。これからはその人達を中心にもっと劇団の輪を広げて、新しい劇団の歴史を切りひらいてゆかねばと思っています。

今回の公演に御協力いただいた劇団や個人、遠くから観に来て下さった全演の仲間、誌上を借りて厚く御礼申し上げます。(合田)

(652 神戸市兵庫区大開通七四一七

〇七八一五七六四八八)

劇団きづがわ

本当にご無沙汰、何年ぶりの通信です。

劇団通信ばかりは「便りのないのは元氣な」とはいかないようです。

私も劇団きづがわも昨年、南大阪演劇研究会として発足以来三十年を迎えてしまいました。いたずらに年を重ねるばかりで誠に恥ずかしい次第でしたが、「恥をさらすことも必要」と、昨年は創立三十周年記念公演として春には「ウメコがふたり」を、年の暮には「列車が空から降ってきた」を上演、一応の成果を見ることができました。

今春には初めて芳地隆介さんの作品、「公園物語」を若手・中堅で上演させて頂きました。

劇団未来

93年春は、井上ひさし作「泣き虫なまいき石川啄木」(寺下保演出)を大阪府立青少年会館プラットホールにおいて五月十九日・二日の3ステージ上演。(観客五六四人)その内容については、劇団京芸の藤沢薫さんが「演劇会議誌84号」に書いて下さっています。

93年秋は、山田太一「早春スケッチブック」(寺下保演出)を、十一月二十日・二三日、二六日・二八日の8ステージ、劇団未来ワークスタジオにおいて上演(観客数四三人)。

若い人にも、人生に疲れの見える始めた人にも、共感をもって受けとめていただきました。

94年春の公演、井上ひさし作「きらめく星座」の演出は、元関西芸術座の中心俳優のひとり、最近2年間連続して当劇団の舞台に立っていただいている吉田滋氏にお願いしました。五年二八日・三十日の4ステージ、大阪府立青少年会館プラネットホール(観客数七〇四人)で、劇団と登場人物を丸ごと握らえ、自分との接点を大切にして喜劇性に迫ることによって、大人の観賞に十分耐えられる舞台になったと、お客さんの反応は上々です。

たが、無謀な試みにもかかわらず、芳地さんには遠方よりご来場賜り何かと励ましの言葉を賜ったとのこと、後で聞いて冷や汗ものですが、誌上をお借りしお礼申し上げます。

今、私たちは、亡き土屋清さんの「河」を来年二月の上演で全国でブームになっています。「河」の上演が全国でブームになってから二十年が過ぎ、時代も状況も随分と変わりました。その間は、私共にとっても様々な雨風に打たれた歳月でもありました。きつと厚い創造の壁にハネ返され打ち砕かれるのです。うが、何故かきづがわは今「河」なのです。

「河」(作・土屋 清/演出・林田時夫)

二月十一日(土)・十二日(日)

近鉄小劇場(大阪・上六)

(551 大阪市大正区泉尾四二二七

〇六一五五一三三八一

五五三三七九九)

京浜協同劇団

★新稽古場の建設事業はやはり大変な事業でした。一億六千万円をかけて鉄筋コンクリート三階建ての稽古場を造るのですが、十月初旬の今、建物はでき上がり、内装にかかっているところで、十一月中旬には完成の予定です。十二月中旬に落成式を行うことになり

ます。資金のうち四千万円をカンパに頼ることになりましたが、ようやく二千五百万円までいき、あと一千五百万円というところまで来ました。今が一番苦しいところです。なんとか達成しないことには工費を払えないので必死です。全出演の皆さんにも物心両面のご支援をいただいておりますが、ぜひご期待にに応えたいと思います。

★秋の公演は、「稽古場建設推進公演」と銘うって、「旅人たちの祭り」を上演します。安達元彦と地域劇団の音楽的試みという副題をつけたように、「劇的コンサート」とでもいいたしうか、三十五年の歩みとこれから先を見つめるために創作したものです。

これまで劇団の音楽に携わってくれた専門家十人をゲストブレイヤーに招き、私たちも数多くの創作曲をつくり演奏します。演出は細田寿郎。産みの苦しみをさんさん味わいましたが、冒険と実験の舞台になると思います。十月二十二、二十三日が川崎市幸文化センター、十二月七日(水)が横浜・県立青少年センターです。

(211 川崎市幸区古市場二一〇九

TEL 〇四四一五一四九五

FAX 〇四四一五三三六六九四)

した。またベテラン（波田久夫・植田耕作・久能淑子等）と若い演技者（牧 達郎・大城 朋子等）が丁々発止と渡りあって良かったとの評も多くいただきました。

さて只今劇団は、きたる十一月十三日（日）の2ステージ、劇団未来ワークスタジオで上演する劇団未来演劇教室15期卒業公演、和田葉子作「川向う」（波田久夫演出）のバックアップをしているところです。

劇団公演としては、きたる一九九五年二月十四日（火）/十六日（木）大阪本町テイジンホールと二月十八日（土）に八尾ブリズムホールにおいて、清水邦夫作「咲笑——智恵子・ゼームス坂病院にて——」（寺下 保）と取りくむ予定です。

(536) 大阪市城東区成育一丁目四一・二五
〇六・九三九一五七七七

青年劇場

青年劇場は、おかげさまで今年創立三〇周年を迎えました。この記念の公演第一弾として「村井家の人々」——日本の言論一九九四——（作・ふじたあさや、演出、千田是也）を上演致しました。（九月十四日/三〇日、十七st）

この作品は戦前の横浜事件を題材に、その被害者の一人である村井氏一家三代代の人間像を今日のマスコミのあり方を通して描いています。今回はいつもの公演にプラスして地域公演も四ヶ所（浅草・市川・太田・府中）取りくみました。多くのご協力を得て目標の九千名に近いお客様にみていただきました。

横浜事件は戦争中の言論弾圧の嵐の中で起きた全くのデッチあげで、六〇数人のジャーナリスト・言論人を逮捕、拷問のあげく五人の死者まで出した事件です。公演中にNHK七時のニュースでこの作品が紹介され、その中でTVMediaが自らの言論の自由をどう扱うのか、今日のマスコミの問題として投げかけていました。又、若い人達の中にもこの舞台ではじめてこの事件を知ったという感想も聞かれ反響を呼びました。

さて、この公演が終り次第、秋の地方公演に向けて三班の稽古がはじまりました。「翼をください」（関東他）「すみれさんが行く」（九州・近畿）「キッスだけでいいわ」（北海道他）。それぞれの地での皆様との出会いを楽しみにしています。

95年は戦後五〇年を迎える年でもありますので次の作品を上演予定しております。

。二月「もう一人のヒト」（作・飯沢匡）
三〇周年記念公演第二弾。
。五月「未定」創立三〇周年記念創作戯曲応募作品入選作品より予定。
。九月「青春の啓」（再演）（原作・大谷 直人・脚本・瓜生正美）
片桐千津子

(160) 東京都新宿区新宿二一九一・二〇
間川ビル六F

〇三・三三五二一七〇五四

劇団銅鑼

遂に実現しました。「センボ・スギハアラ」リトアニア公演。これも一重に全国から御支援して下さいの方々、全日本リズム演劇会議をはじめ、友好劇団の皆様のおかげと感謝しております。本当にありがとうございます。

現地では、通訳の方々をはじめ、劇場スタッフ、俳優の皆さん、劇場に入り入るおばさんに致るまで、熱烈に歓迎して頂いて幕が降り、感動的な舞台となりました。新聞にてもこの上ない賛辞の言葉を頂きました。滞在中、杉原千畝氏の記念プレート除幕式に出席でき、元KGB本部、ユダヤ博物館、ナインスフォート（捕虜収容所）等見学しまし

た。一人の人を殺すのはたやすく、一人の人生を失くすことが困難な時代を経て、独立の旗を掲げ、前進していくリトアニアの人と、センボ・スギハアラのヒューマニズムを通して、ほんの少し、交流できたように思います。カウナス最後の夜、ウォッカ、日本酒、シャンパンと乱れる中、次第に輪が出来て、踊り、歌い合った愛しき人達に心より、アーチュー（ありがとう）といって、帰国の途につきました。

尚、帰国公演として、「センボ・スギハアラ」十一月五日（土）、午後二時、七時、六日（日）、午後二時、アクトホール（板橋区成増）にて上演します。又、「橙色の嘘」は十二月六日から九日まで長野公演、十一日昼、前進座劇場にて上演致します。

見逃した方、更に大きくなった銅〇を観た方、是非観て下さい。（山下智寿子）
(175) 板橋区成増五一一二 米丸ビル
〇三・五九九七九四六二

演劇集団「石るつ」

第三十七回公演「都電通りの日の出屋食堂」原作/みふみ・ふみじ、脚本/演出/境野修次、協力演出/矢野喬/十月七・八日の公演は東洋信託文化財団助成公演であり、江

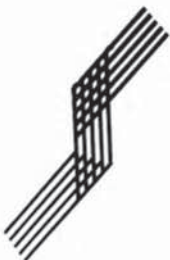
東区教育委員会の後援もとりました。現在、一九九五年一月に始まる第五回東地域劇団演劇祭に取りくんではいます。

第三十八回公演として演劇祭に参加。
『天体症候群II』稲垣足穂原作より。笠置リエ脚本、境野修次・笠置リエ演出。

ドラマ、ピアノ、ギター等の音楽とおどり、月と星を材に、不思議な世界を繰りひろげます。多くの人々の力をかりて……。

(135) 江東区森下五十一一八 荒川ビル
吉川複写工業内・境野修次方

TEL 〇三・五六〇〇一〇二七〇
FAX 〇三・五六〇〇一〇二七二



読者のページ

「肯定」

戸嶋博光（演劇サークル「トラム」）

僕は、大学で演劇をしていました。就職して今、山口の演劇サークル「トラム」に所属しています。やっと一年半です。僕は、地方から演劇を始めたかったので、今の自分や、自分をとりまく環境に満足しています。

ただ、地方で演劇を始めるに当たって、次の不安がありました。僕たちが今、どこへ進もうとしているか僕たちに見えるのか。僕たちの持つであろう悩みは、誰とも分かちあえないのか。僕たちは、何者とも連帯できず、地方のムーブメントとして孤高のふりをしながら、小さくまとまって行くのではないか。実は、こういったことは、地方で演劇をする人に共通の悩みであるはずですが。

そんな僕は「演劇会議」を読んで、焦り、うらやみ、悩み、喜び、そして勇気づけられます。そして僕は、今の自分や、自分を取りまく環境を、にっこりはえんで「肯定」できるのです。

「演劇会議」で出会う、まだ見ぬお仲間へ。僕たちは遠くから皆さんを見つめています。

舞台装置の空間

佐藤 隆三

1 物

舞台装置という物には型と色があります。そして表情があります。舞台装置という「物」がどのように抽象化されても、物には型と色、そして表情があります。

この、舞台装置という物をもつ型と色そして表情から、舞台装置を考える人間は逃れることができません。どのように無意味な型を考えても、舞台では意味をもってしまう。

それならば、なにもないのいい——と考えます。舞台の上になにもない状態を考えます。すばらしい発想です……ところが、「なにもない」といっても、舞台には床もあり袖幕もあり、照明の器材もあり……そこにも型と色、そして表情があります。舞台——というのはナガイ歴史をつみ重ねた空間のようです。

2 空間

舞台——という型と色、そして表情をもった空間からのがれて、なにもない処へ行ってみたいと考えるのですが、現実にはなにもない空間というものは見つかりません。

空間、というとなにもないように考えてしまいますが……現実の空間は物によって構成されています。

舞台空間は近年、劇場空間として論じられるようになり、劇場空間は劇空間として日常の街のなか、生活のなかへ広がっていきます。劇空間・プロ野球はスポーツ新聞がつくったようです。木と緑とオフィスという環境空間は建築業界の造語でしょうか。野外美術館は箱のなかに物をとどめるのではなく、より広くより多面的な「天と地の間」に物を配置することで空間を型づくっています。

空間は物によって型づけられ、意味を人々と共有します。舞台空間といふ劇場空間といふ、すべての劇空間は、その空間性によって人々とつながっていく。人と人の関連、人と物との関連がつくりだす空間が、劇空間と呼ばれるようです。

3 質感

空間のなかにひとつの物があり、その物によって空間が型づけられ、空間のなかの物には型と色と表情があります。物の型と色——そして表情にいたる感性に対応するのが質感です。型と色は土台として重要ですが、その質感は大きく表情を決めています。

ひとつの椅子が必要で、舞台空間を型づくると仮定します。その椅子の型と色は劇の台本によって決まってくるでしょう。そして、質感は、鉄であるのか木であるのかガラスであるのか——は台本によって決まる場合もあり、劇の主題と（その演出によって）決まってくる場合があります。その質感は、木であるのか鉄であるのかの方向をまず考え、紙であるのかガラスであるのかなどと考え……それらのどれでもない質感が、舞台では役者によって創りだされていきます。

4 例題・木

'93年に「木の三連作」という経験をしました。三連作といっても私が考えて三連作になったわけではなく、いばらき・竜ヶ崎の創作オペラ「女化物語」（安達元彦音楽・細

田寿郎演出）ではけやきの枝を吊りました。青森の劇団支木「がんとり」（川村光夫作・堅倉憲演出）では丸太を組みはせば風にしました。この舞台は全日本演劇フェスティバルin大安・三重県大安町でも上演されました。京浜協同劇団の「郡上の立百姓」（こばやしひろし作・早川昭二、中澤研郎演出）では丸太、バタ板で山路をつくりました。

この三者の舞台は関連があったわけではありません。それぞれ地域で発想し、企画され上演されたものでした。木といっても共通性もありますが、ねらいは別々の個性です。

この時の木はすべて本物の木です。別のものでつくって木にみせるという手法ではありません。女化物語のけやきの枝は「細い枝の感触」で、しなやかでやわらかい情感をねらい、がんとりは人の肉を喰ってしま……うという恐い話なので、はせばは「丸太を使いながら」マックロにしてみたいました。

郡上の立百姓は、郡上の現地調査にいき、ひのきにこだわっていました。ひのきでも杉でもいいではないかと仲間にいわれながら。ひのきの葉のイメージは吊となっていました。——個々の舞台と舞台装置の発想についてかく紙面がありません。舞台写真をのせてもいますので——今回は。



郡上の立百姓「京浜協同劇団」(神奈川)



竜ヶ崎創作オペラ「女化物語」(茨城)

がんとり「劇団支木」(青森)



5 街のなかで

前項の例題は鉄もありカベ土もありますが、こうした舞台装置——道具づくりで感動するのは地域の人々の発想と英知と力です。舞台装置をつくるのに「街のなかに美術工房がある」——いいえ、工房があるのではなく、街の人々が舞台美術工房をつくっていくのです。工場の片隅だった

り、建築会社の大きな広場だったり、そして必要な車はなんでもそろうという——「舞台づくり」の過程はさわやかです。今、京浜協同劇団は新稽古場建設中で「旅人たちの祭り」——安達元彦と地域劇団の音楽的試み——では舞台装置なしでいこうとしています。が、ドラム缶三本組み重ねたミニチュメントもまた新しい太陽になってくれることでしょう。

(京浜協同劇団、日本舞台・テレビ美術家協会々員)

稽古場建設

「地域に創造文化の 砦を」を合言葉に!

「京浜協同劇団新稽古場建設を支える
仲間と市民の二〇〇人委員会」のこと——

「二〇〇人委員会」事務局長 笹岡 敏紀

昨年の夏の初め頃、京浜協同劇団の仲間から「いよいよ稽古場を建て直すことにした。ついでに力を貸して欲しい」と言われ、日頃の付き合いから集まった。自称「京浜協同劇団応援団」のメンバー——〇数人は、具体的計画を聞くに及んで、顔を見合わせた。なにしろ、「総工費一億六千万円。そのうち四千万円をみなさんの力を借りながら、広くカンパを集めたい。」というのだから。

一億六千万円という数字はもちろん、四千万円という数字も日頃我々には縁のない数字である。本当にできるか?と誰しも多くの危惧を持ったことは否定できない。しかし、「京浜協同劇団は俺たちの劇団。この地、この時、この人びとと」を合言葉に地域の仲間と共に歩んできた道筋はみんなが認める所。なんとかしよう!——という思いで一同知

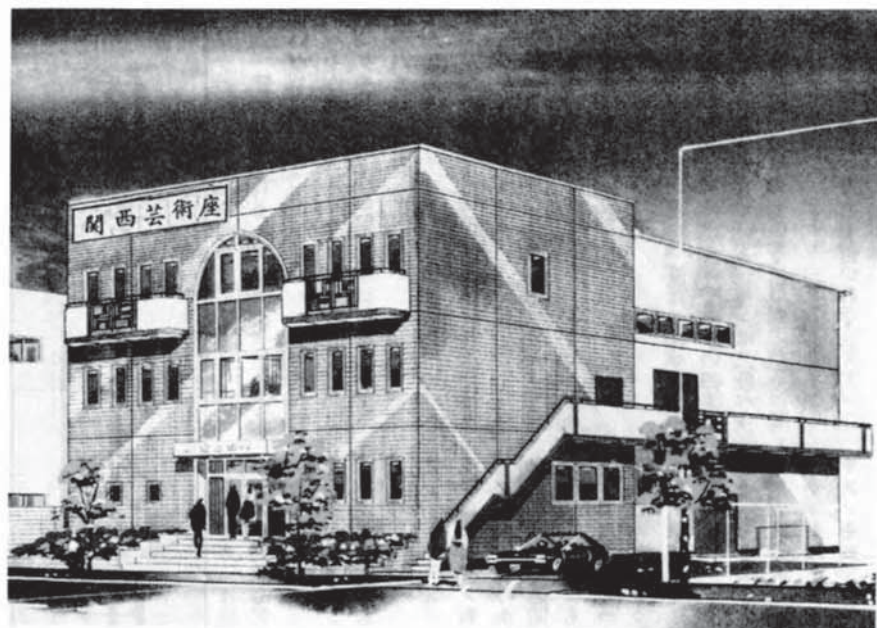
恵をしぼってできたのが、「新稽古場建設を支える仲間と市民の二〇〇人委員会」という組織。その発足総会が開かれたのは昨年十月十五日のことである。

そして一年。劇団員一人ひとりの仲間の頑張りはもちろんのこと、この「二〇〇人委員会」の仲間の広がりの中で、九月末現在で二五〇〇万円のカンパが寄せられた。「十月末までに三〇〇〇万円を。目標は近い。年内に四〇〇〇万円を達成しよう!」とその取り組みは急ピッチである。そして、額の大小は問わず、カンパを寄せてくれた仲間はすでに一五〇〇人を超す。

「二〇〇人委員会」の仲間たちは、地域の仲間や労働組合の仲間、カンパを呼びかけることはもちろん、「建設ニュース」を発行したり、節々に特別企画を考え、稽古場建設に向けて劇団員と地域の仲間の心を一つにする場を作ってきた。

いったいこの「二〇〇人委員会」なる組織を動かす力は何だろうか。自分の稽古場でもないのに……。

「二〇〇人委員会」の世話人のメンバーたちは、この問いを会議のたびに自分たちと劇団員の仲間に問いかけてきた。その結論は簡単に出るべくもないが、一人ひとりの心の底には、「俺たちの住む川崎の地に創造文化の砦を造りたい」という共通の願いと存在している。そして、「みんなで作った稽古場から生まれる創造活動は俺たちの



文化を創り出すものになるだろう」という信頼と期待が、活動のエネルギーになっていくことは間違いないであろう。同時に、この新稽古場づくりの過程そのものが、地域の文化を創る大きな仕事となっているのであろう。応援団はもはや応援団ではなく、ともに創造する仲間へと変身しつつある。



完成を1カ月後に控えた京浜協同劇団の新稽古場 ('94. 11. 7)

地域文化のセンター的役割を！ 劇団の活力のバネに――

新稽古場建設委員長 仲 武司
(関西芸術座)

劇団の稽古場及び倉庫(全敷地百坪)が、阪神高速公団による泉北線側道用地として収用になり、止むなく移転。新稽古場建設にふみ切るようになりました。

現稽古場は、劇団創立二十周年の事業として、当時木造一階のかなり荒廃した建物を、鉄筋三階に新築するため、劇団員の乏しい収入から毎月5%の天引きを基本資金に、借入れと寄付によって完成。以来十数年を経ましたが、その時の感激は今も忘れられません。

今回、数年前から道路公団と断続的な交渉があり、劇団としては、当然、代替地を要求し、一時は暗礁にのりあげた感もありましたが、公団と大阪市の協議を経て、約一六〇坪の土地を確保。建築会社五社の入札によって、総工費約一億五千万円の予算で、本年五月より工事開始。十一月末竣工。十二月中旬には移転の運びとなりました。

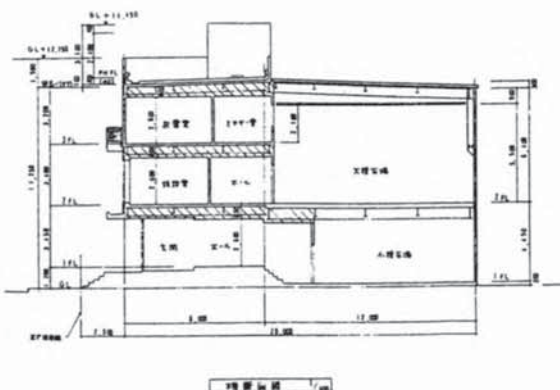
ただ、従来の土地百坪に対し、約六〇%も拡大され、その購入費用や、内装、設備品、法的諸手続きの経費を加え

ると、道路公団よりの補償に対し、約八千万円不足となり、借入金の止むなきに至っています。

現在、劇団による月額収入二%の醸金をはじめ、広く一口、一万円。一千万円の募金をお願いしています。

新稽古場は、一五m道路に面し、環境もよく、大稽古場(二、三階吹抜け、客席椅子二百名以上)は、かなりのスタジオ公演が可能になります。

特に、地域住民とのふれあいを大切にしながら、地域の文化センター的役割を果たし、劇団の新たな活動スタイルをつくり出す上でも、この新稽古場建設が、劇団の活力のバネになるよう努力していきたいと考えています。



俺たちの甲子園 石原哲也

登場人物

ゲン

シゲル

タモ

ハコ

ヤス

ゲンの母

シゲルの父

夕子

先生 A (男性)

先生 B (女性)

ゲンとシゲルの部屋。夏なのにコタツがある。ゲン、タモ、ヤス、夕子の四人がマージャンをしている。ハコは二段ベツトに寝ころがっている。

夕子 シゲル君、今日も遅いね。

ハコ ゲンちゃん、シゲはベンチへ入れんのかな。夕子 えっ、そんな、ひどーい！

ゲン ……さあ、どうかな。

タモ 大会近いもんなあ。そろそろ決まるんだらう。

ゲン ……

夕子 ね、ゲンちゃん、ベンチ入りって、いつ発表するのかな。試合の前の日？

ゲン ……一週間ぐらい前じゃねえか。

夕子 じゃあ、もうすぐなんだ。

ハコ 三年間やって、ベンチ入りもできねえんじゃあ、やってらんねえよなあ。

タモ 縁起悪いことを言うなあ。大丈夫だよ、シゲは。

夕子 そうよ、大丈夫よ。

ヤス 大丈夫じゃないよ。

夕子 えっ？

ヤス それ、あたり。

ヤス タイシじゃなくてサイシじゃないか。少年よ、サイシを抱け。

タモ なんだよ、そのサイシってのは。

ヤス 妻子だよ、妻や子。

タモ なるほど。少年よ妻子を抱けか。

ハコ どういう意味だよ、それ。

ヤス だから、つまり、早く結婚して、妻や子を大切にしろと。

ハコ ウソだらう。タイシだよ、タイシ、なあゲンちゃん。

ゲン うーん、どっちかつつうと、サイシじゃねえかな。夕子、どう思う？

夕子 バカみたい。

四人とも変な顔をしている。シゲルが上手から入ってくる。

シゲル ただいまあー！

ハコ おう、お帰り！

シゲル お、やってるな。今日は俺もやるぞ。昨日は眠っちゃったからな。

夕子 シゲル君、それよりご飯食べてきなさいよ。今日はカレーよ。

シゲル うん、そうする。

夕子の母 (声のみ) ゲンちゃん、お母さん

暗転。同時に下手に明かりが入って、小さな稲荷神社の赤い鳥居が見える。

シゲル、下手から登場。大きなスポーツバッグとバットを持っている。神社になにか小さな物を供えたいらしい。

シゲル (拍手を打って拜んで) 稲荷大明神様、こんばんわ。あのー、いつものスーパ―が今日は閉まっていたのでしょうがないので、そのコンビニに行ったら、油揚げがなく、サツマ揚げしかなくて、それで今日はサツマ揚げにしました。玉葱入りと牛蒡入りがあったので牛蒡入りにしました。キツネとゴボウなんてね、ハハハ……。失礼しました。えーと、いつも同じですが、今日も僕の二つのお願いを聞いて下さい。(周

が来たよ。

一瞬の間の後、全員であっという間に勉強している状態をつくる。

ゲンの母 こんばんわ。(上手から登場)

ゲン どうしたんだよ、母ちゃん。明日って言うてたのに。

ゲンの母 うん、急に気が変わってよ、夕方の電車に乗ってしまった。まあ、それにしてもなんだつべ、真夏にコタツかけでえ。

足さカビ生えつと。(コタツ布団をめくろうとする。)

全員 ああ！

ゲン 母ちゃん、そこ触んな！

ゲンの母 なんて？

ゲン なんて？……水虫、水虫だよ、水虫。ヤスの水虫はすごいんだよ。触るとうつるぞ母ちゃん。

ゲンの母 水虫ぐらいなんでもね、父ちゃん

全員 ああ！

ゲン 母ちゃん、いいから、あとで俺がやつから。

ゲンの母 なんて？

ゲン なんて？……水虫、水虫だよ、水虫。ヤスの水虫はすごいんだよ。触るとうつるぞ母ちゃん。

ゲンの母 水虫ぐらいなんでもね、父ちゃん

全員 ああ！

ゲン 母ちゃん、いいから、あとで俺がやつから。

ゲンの母 なんて？

ゲン なんて？……水虫、水虫だよ、水虫。ヤスの水虫はすごいんだよ。触るとうつるぞ母ちゃん。

ゲンの母 水虫ぐらいなんでもね、父ちゃん

全員 ああ！

ゲン 母ちゃん、いいから、あとで俺がやつから。

ゲンの母 なんて？

ゲン なんて？……水虫、水虫だよ、水虫。ヤスの水虫はすごいんだよ。触るとうつるぞ母ちゃん。

ゲンの母 水虫ぐらいなんでもね、父ちゃん

全員 ああ！

ゲン 母ちゃん、いいから、あとで俺がやつから。

の水虫で慣れでっから。

ゲン あ、んでも、ヤスの水虫はふつうじゃねえんだよ。すごいんだよ、な、ヤス。

ヤス あ？ ああ、そう、俺の水虫はあ、結核性ですか。

ゲンの母 ……そうがい、結核性の水虫じゃあ、たいへんだない。

夕子 おばさん、あとで私が片付けますから。ゲンの母 おや、夕子ちゃん、またきれいに

なったない。夕子 やだあ、おばさんたら。そんな、ほん

とのこと言わないでよ。ゲンの母 シゲル君も大人っぽくなったこと

ない。そんなに日に焼けてえ、野球の練習大変なんだっべ。りっぱだない。夕子ちゃん

もたいした成績いいそうだしな。ゲン (苦笑して) 母ちゃん、何が言いたい

んだよ。いやみだな、まったく。ゲン母 おや、わがっけ、あたし、いやみ言

いにきたんだわ、電車に乗って。ゲン いいから、俺たち勉強中だから、もう

下へ行っておばさんと話せよ、姉妹仲良しさ。シゲル おばさん、俺、こちらのおばさんに

は、とても親切にしてもらって、感謝して

ます。

ゲンの母 あら、立派だない。ゲン、おまえ、こういうこと言えっけ。まあ、無理だわな。

ゲン いいから下へ行けよ、母ちゃん。シゲル 点数かせぐなよ、おまえも。

ゲンの母 夕子ちゃんにも、すっかり世話になつてねえ。シゲル君は大丈夫だけんちよ

ゲンみたいなのを三年間も預かってもらつて、えらい迷惑だつてない。

夕子 そんなあ、うちは男がいらないから、用心棒が二人も居て助かるって、いつもお母

ちゃんと言ってますよ。タモ あのー、ゲンちゃん、僕たち、そろそろ失礼するよ。

ゲン おい、まだいいよ。ゲンの母 あ、わたしなら、すぐ下さ下りる

から、気使わないで。ハコ あ、いいんです。僕たちもあまり遅く

なると母に叱られますからね、ハハハ。ヤス 僕なんか、九時から英語のラジオ講座

を聴かなくちゃなりませんから。ハコ 僕なんか、十時からドイツ語のラジオ

講座を聴かなくちゃならないんですよ。ハハハ。タモ じゃあねゲンちゃん、明日もまた勉強

に来るから。

ゲン そうか、わるいな。ゲンの母 ほんとに悪かったない、マージヤ

ンの邪魔しちゃってます。

ずっけながら三人、下手へ去る。

夕子 シゲル君もご飯にしたら。

ゲンの母 おや、これから晩ご飯かい。

夕子 いつも今頃よね。ゲンの母 大変だない。

シゲル (ゲンに) じゃメシ食ってくるよ。ゲン ああ。

シゲルと夕子、上手に去る。静かになる。

ゲン 先生から、また電話あったらどう。

ゲンの母 このままだと、卒業できないってさ。

ゲン 親父、怒ってるだろうな。

ゲンの母 もう好きにさせろ、俺は知らんって、いつもの通りさ。……どうして行かないのよ、学校へ。

ゲン 行ってるよ。大丈夫だよ、卒業はでき

るよ。ちゃんと計算して休んでんだから。

ゲンの母 そういう狡いことはしてはしくねえな。

ゲン 狡くなんかねえよ。授業時間の二割までは、休んでも卒業できるんだから。有効

に休んでるだけだよ。ゲンの母 休んでなにしてんだ。

ゲン だいたい寝てる。寝る子は育つて言うじゃない。ハハハ……。

ゲンの母 ……叔母さんだって迷惑してるんだよ。

ゲン うん、それだけは悪いと思ってるよ。叔母さん、なんにも言わないから……。母

ちゃん、妹とは思えねえよ。ゲンの母 どういう意味だそれ。

ゲン 母ちゃんより無口だったことさ。……あ、だけど、母ちゃんの方が美人だよ、う

ん。ゲンの母 冗談言ってる場合じゃなかつて……。

……。「ため息」

なんでそんなに休むんだ。先生、電話で言つてたど。ほんとにもうメリットまで来

てるって。ゲン ……あのさ、メリットじゃなくて、リ

ミットって言ったんじゃねえか、母ちゃん。

ゲンの母 そんなのたいした違いねえべ。

ゲン 違うよ、全然。メリットとリミットじゃあ、土方と浴衣ぐらい違うよ、母ちゃん。

ゲンの母 土方が浴衣着たつていいべよ。ゲンの母 ……あのさ、母ちゃんね、メリットつ

ていうのはさ……。ゲンの母 いいんだよ、そんなことは。細

かいこと言つてんじやないよ、男のくせに。第一それどころじゃねえべ。まったく、明

日の三者会談は気が重いなや。ゲン 母ちゃんね、三者会談じゃなくて、三

者面談だよ。ゲンの母 どちらでもえがっけ、そんなこと

！

ゲン……。(首をすくめる)

ホリゾントが青空に変わり、セミの声が聞こえはじめる。

先生A おーい相沢、ちょっと手伝ってくれ。(下手から声。机を持って出てくる。)

ゲン はい。(二人で面談の会場をつくる。)

先生A じゃあお母さん、こちらへどうぞ。ゲンの母 どうも、いつもゲンがお世話にな

りまして。

先生A いやいや、どうも。どうぞおかけ下さい。

(親子並んで座る)

先生A 相沢ゲン、出席番号は一番なんですけどねえ。ハハハ……。

ゲンの母 ……(セミの声がうるさい。母がアドリブでセミの声をとめる。おどろくゲンと先生)

先生A オホン、実はですねえ、お母さん。ゲン君の場合はですねえ、一学期で既に三

十二日欠席です。年間四十日ぐらいが限度ですから、このままいきますと、まず卒業

は無理なんですすよねえ。ゲンの母 はい、それは、電話でお聞きしま

したから知ってます。

先生A あ、そうでしたねえ、ハハハ(少しむっとして)しかし、お母さん冷静ですねえ、ハハハ……。

しかし、こういうことは担任だけが心配してもどうなることでもありませんからねえ。

ゲン そうだよな、先生。

先生A バカヤロー、おまえのことだぞ。ゲンの母 すみません。ほんとに馬鹿なんだ

からおまえは！先生、私も、もうどうしたらいいんだか、わからなくて……（涙を拭く）

ゲン なにやっつてんだよ母ちゃん。

ゲンの母 ……なにして、泣いてんだっべ、この。

ゲン ……

先生A ゲン、おまえ、成績のほうは……良くないが……赤点は無いんだから、休まずに学校にさえ来れば卒業できるんだぞ。お父さんお母さんの身にもなってみろよ、少しは。

ゲン 大丈夫だよ先生。適当に来るよ学校には。

先生A 適当に話してあるか。な、ゲン、なんでそんなに休んだ。え、野球部を辞めたことをまだ気にしてんのか。

ゲン ……

先生A それだったら、何回も言ってるように、気にする必要ないんだぞ。スポーツ推薦で入ったからと言って必ずしも……

ゲン 先生、俺そんなこと気にしてねえよ。

先生A だけど、おまえ……

ゲン 先生、その話はやめてさ、進路の話にししよう。

先生A ……そうか。よし、じゃあ進路の話にするか。どうするんだ進路は。

ゲン はい、未定です。

ゲンの母 ゲン！

先生A 未定はわかってるよ。誰だって進路は未定だ。決まったら三者面談なんていらねえべ。決まってるから未定だ。それをどうするか聞いてんだっべこの！（思わず、次第に激しくなる。）

ゲン 興奮しないでよ、先生。

先生A ……興奮なんかしてねえよ。（気を静めて）お母さんは、どう思っているかしらるのかな。

ゲンの母 ……できれば……どっかの大学に入ってくれたらと思っではいるんですけど……

先生A 大学ねえ……

セミの声が入り、ホリだけ残して暗くなり、人物はシルエツトになる。シルエツト状態でゲンとシゲルの面談が入れ替わる。その後、灯りが戻る。

先生B 大学ねえ……遠藤君、大学へいつて何をやりたいのかな。

先生B そうなんです。オリンピックだってメダルが全てですからね。どんなにがんばったって、メダルが獲れなきゃあ、四位や五位なんてへみたいなんです。

シゲルの父 ……

先生B あらやだ、あたしったら。ごめんなさい。おならですよ。

シゲルの父 ……？

先生B いえ、あの、あたしはですね、そういう結果ばかりを重視する傾向に腹が立つて言いたんですよ。そうでしょう、お父さん。

シゲルの父 ……資料ねえ。

先生B ええ、たとえば、入賞した時の賞状とか、新聞記事のコピー、エントリー表なんかも必要なんです。ですから、野球部の場合、試合に出て活躍するか、少なくともエントリーされていなければ資料にならないんですよ。

シゲルの父 エントリーというのは、つまり、ベンチ入りのことですか。

先生B そう……だと思えます。そうでしょう、遠藤君。

シゲル はい、そうです。

先生B 遠藤君、今度の大会はレギュラーに

なれそうかなあ。

シゲル レギュラーは無理だけど、……ベンチ入りはできるかもしれません。

先生B そう、先生も必ず応援に行くからね。がんばってね。ですからね、お父さん、スポーツ推薦というのなかなか狭き門なんですよねえ。甲子園に出て、レギュラーなんてことになればまた別ですけどねえ。

シゲルの父 （なにか言いかけるが）……

先生B まあ、専門学校という手もありますし、浪人覚悟で大学をめざすか、まだ少し時間がありますから、夏休みが終わるまでじっくりご検討なさって下さい。ただねえ、遠藤君、これは先生の個人的な意見なんだけど、野球は趣味として楽しくやった方がいいんじゃないかなあ。あ、それとね、もう少し勉強してほしいなあ。野球で疲れているんだと思うけど、今の成績じゃあ、どっちに進むにしても、ちよつとどうしようもないからね。ごめんね、ひどいこと言っ

て、でも、これが先生の仕事だからね。わかってくれるよね。

シゲル はい。

先生B じゃあお父さん、本当に時間がなくて申し訳ありませんが、次の方が待ってお

シゲル ……やっぱ、野球です。

先生B そう、野球かあ。野球は大学でないとやれないかなあ。

シゲルの父 先生、ぜいたくは言いません。どんな大学でもいいんです。なんとかならないでしょうか。

先生B はい……あのね、遠藤君、この際だから、お父さんの前ではっきり言っちゃうけど、お父さんもお聞き下さい、今説明したように、この成績では、……一般入試は無理だと思ふのよね。とすると、あとは、とは推薦入試なんだけど、ほとんどの大学で推薦基準があつて、まあ、最低でも三・〇以上なのよねえ。遠藤君の場合、一、二年の評定が二点台でしょう。ちよつとむずかしいのよねえ。

シゲルの父 先生、スポーツ推薦というのはどうなんでしょう。

先生B そんなんですけど、スポーツ推薦は、それなりの実績と、それを証明する資料が必要なんです。

シゲルの父 資料？

先生B ええ、なにか活躍したという証拠がないとねえ。

シゲルの父 証拠……ですか。

りますので、今日はそういうことで。また、何かありましたらどうぞご遠慮無くお電話なさって下さい。（立ち上がって）どうもご苦勞様でした。

ホリが夕焼け空に変わり、ひぐらしの聲が聞こえる。三人で机を片づけながら上手に去る。

ゲンとゲンの母がバスを待っている。

夕焼け。

ゲン なに怒ってんだよ、母ちゃん。

ゲンの母 なにして、なんかあの先生った

ら、浪人だとか、予備校だとかの話しばかりでよ。最初からおまえが落ちるって決めてかかってんだから、失礼だっべよ。

ゲン シュウがねえよ母ちゃん、本当のことなんだから。俺の成績で大学受けようってのが間違いないんだよ。赤点が無いだけで、体育以外はオール3だよ、はつきり言っ

て。ゲンの母 なにがはつきり言っただよ、他人事みたい。そりゃあ、そうかしんねえけどさ、親の気持ちってほそういうもんじやながつべ。まったく、人をばかにして。

ゲン 先生が悪いわけじゃないよ。けつこう
いい先生なんだよ、あれで。
ゲの母 気持ち悪いなや、最近の若けえもん
は。

ゲン なんだ。

ゲンの母 妙に物分りがよくてさ。先が見
えるっていうか、年寄りみてえでさ。

ゲン 俺が野球やめたこと言ってるのか。
ゲンの母 なんも、そんなこと言ってるねえ
べ。そのことは一年前に終わったことだが
んな。おまえこそ、そんなこと、いつま
でも引きずってるんじゃないか。

ゲン 大丈夫だよ。

ゲンの母 ほんじゃあ、どうして学校休むん
だ。

ゲン 大丈夫、ちゃんと行くよ、学校に。

ゲンの母 大丈夫、大丈夫って、ちっとも大
丈夫じゃねえんだから。

ゲン あ、母ちゃん、バス来たよ。(バスの
音近づく)

ゲンの母 (下手に去りかけて) ゲン、コタ
シの布団早くはずせよ。

ゲン わかってるよ。ほら、バス行っちゃ
よ母ちゃん。(母を押してやる)

ゲンの母 明日は学校休むなよーっ。

見送るゲン。間もなくゲンも下手に去る。
上手からシゲルの父登場。少し遅れてシ
ゲルが来て、カンジューズを父に渡す。
二人で飲む。

シゲル なに怒ってんだよ、父さん。

シゲルの父 なにが三者面談だ。先生一人で
しゃべりまくって。第一なんだ、あの言い
方は。あのね、遠藤君、これは個人的な意
見なんだけど、やっぱり野球は、趣味とし
て楽しくやった方がいいんじゃないかなあ。
腹立たねえのか、おめえは。

シゲル 別に。先生、初めての担任だから一
生懸命なんだよ。それに言い方なんて関係
ねえべよ。父さんのヘンミだよ、それは。

シゲルの父 ヘンミ？ なんだそれ。

シゲル ヘンミだよ、ヘンミ。偏った見方。

シゲルの父 ヘンケンだよ、それは。

シゲル ヘンケン？ あ、そうか、ハハハハ

……ヘンケンだよ、ハハハ。

シゲルの父 シゲル、おまえにとって、野球
は趣味か。その程度なのか。

シゲル いいんだよ、父さん。別に先生に理
解してもらおうなんて思っていないんだから。

シゲルの父 ……。なんか寂しいな、おまえ
たちは。

シゲル ……？

シゲルの父 相沢君とは仲良くやっているよ
うだな。

シゲル うん、仲良くやってる。

シゲルの父 そうか、それはよかった。相沢
君の叔母さんもいい人だしな。

シゲル うん。

シゲルの父 夕子ちゃんて子も、可愛くてい
い子だなあ。

シゲル うん、まあな。

シゲルの父 晩ご飯は遅くなるんだべ。

シゲル うん。どんなに遅く帰っても、ちゃ
んと味噌汁とか暖めてくれるんだ。

シゲルの父 そうか。ありがたいな。

シゲル うん。

シゲルの父 相沢君は、どうして野球やめた
んだべなあ。おまえとバッテリー組んで甲
子園さ出るのが夢だって、よく語ってたの
になあ。

シゲル しかたないよ。高校の野球部は中学
とまるっきり違うから。

シゲルの父 おまえはどうなんだ、今度の大
会。

シゲル わがね。

シゲルの父 三年生だから、補欠でもベンチ
には入れんだべ。

シゲル そうはいかないよ。ベンチ入りは二
十人。三年生だけでも二十八人いるし、二
年生でも確実に入れるのが何人かいるから
ね。

シゲルの父 ……。地元の高校さ入ってれば
レギュラー間違いねがったのになあ。……
いままさ、そんなこと言ってたでしょうが
ねえよな、ハハハ……。

シゲル 父さん、俺、大学落ちたら浪人して
いいかな。

シゲルの父 ……。

シゲル 一回だけでいいんだ。一回浪人して
それで駄目なら諦めるから。そん時は就職
する。だから、な、父さん、一回だけ浪人
さしてくれよ。

シゲルの父 (笑って) まだ、大学受けても
いねえのに。浪人、浪人って、よっぽど自
信ねえんだな、おめえは。

シゲル 自信あるんだ。

シゲルの父 なに？

シゲル 今年に絶対落ちるって自信だよ。

シゲルの父 ……。まだ、野球やりたいのか。

ハコ シゲは。

ゲン 神社でバット振ってるよ。

タモ よくやるよなあ。

ヤス 毎日だろう。雨の日も風の日も。

ゲン 俺たちだって、こうしてやってるじゃ
ねえか、雨の日も風の日も。

ハコ そうだよ、野球部は試験中練習を休む
だろう。俺たちは試験中も休まない。

タモ だから俺たちに明日はない。

ヤス 学校の先生にや信用がない。

ゲン おまえの頭にや脳みそない。

ヤス はい、あたり。

ゲン なんだそりゃあ！

ハコ (ジャラジャラやりながら) シゲ、ベ
ンチ入りできるといいんだけどなあ。

タモ 問題は肩だよ、肩。

ヤス 二年生にも一人いいキャッチャーがい
るそうじゃないか。

タモ バッティングは、けつこういい線いっ
てんだらう、シゲは。

ハコ 中学時代は四番打ってたそうだからな。

ゲン うん。

ハコ ゲンちゃんとシゲがバッテリー組んで、
地区大会でさ、……。

ゲン しゃべってないで早くやれよ、おまえ。

調子狂っちゃうだろうが。

ハコ あ、わりい、わりい。

ゲン まったく、気を散らすなよ、真剣にや
れよ、真剣に。

音楽。マーシャン続く。

マーシャンの周りがサスだけになり、下手にもサスが入り、シゲルがバットを振っている。

間もなく上手、下手同時に暗転。
明るくなると、ゲンが一人でギターを弾いている。上手から夕子。

夕子 入るわよーっ。はい、これ。冷えてるよ。(カンジュースを二本) シゲル君は神社？

ゲン ああ、バット振ってるよ、甲子園めざして、

夕子 ……。

ゲン それ、シゲルに持って行ってやれよ。

夕子 ゲンちゃんが行けばいいでしょう。

ゲン お前の方がいいんだよ。

夕子 どうして。

ゲン ……。

夕子 ね、どうして。どうしてわたしの方がいいのよ。

ゲン いや、どうしてって……俺が行くと、

またなんか嫌味を言いたくなるからさ。

夕子 なんか嫌味言ったの、シゲル君に。

ゲン いや、あいつがあんまり真剣に練習しているのを見ると、なんかこう、頭へくる

っていうか、悲しくなるっていうか、黙っていらねえんだよ。なんかほら、あるだろ、河原で石を積んでるってやつ、積んでも積んでもすぐ崩れてしまってるやつ。俺はシゲルがそれをやってるような気がしてさ……。

夕子 そんな、それはゲンちゃんの……。

ゲン 俺の僻みだっけ言いたいんだろ。(笑って) その辺はもう通りすぎてるよ。

夕子 そう。じゃあ、シゲル君、試合に出られないっていうの！

ゲン ……そう思うよ。

夕子 ベンチにも？

ゲン 多分な。

夕子 そんな……。シゲル君知ってるの。

ゲン 自分のは分からないさ、誰だっけ。

夕子 ……。

ゲン 夕子、おまえ、シゲルのこと、どう思う。

夕子 大好きよ。

ゲン 軽く言うなよ、そういうことを。

夕子 どうして。

ゲン 去年の夏、俺が野球部やめた時、シゲルもぎりぎりまで迷ってたんだぞ。あん時さ、

「シゲル君はユニホーム姿が一番カッコいいわよ」なんて言ったら、おまえ。ああいうこと軽く言うなよおまえ。

夕子 あたしの勝手でしょう、そんなこと。

第一、シゲル君はそんな大事なことを、あたしのことはなんかで決めるわけないわよ。ゲン ああ、シゲルはおまえのこと好きなんだぞ。

夕子 知ってるわよ。

ゲン 知ってる！ どうして知ってたんだよ。

夕子 わかるわよ、それくらい。

ゲン ……ほーん、怖いねえ女は……ほーん……。

それで、夕子はどうなんだ、シゲルのこと。

夕子 さあ、どうかな。でも、ゲンちゃんの生き方よりはシゲル君の生き方の方が好きだな。

ゲン 関係ねえだろう、俺のことは。

夕子 ね、ゲンちゃん、その、ゲンちゃんの生き方のことなんだけどね、それについて

一言私の意見を言ってもいいかな。

ゲン いいよ、言わなくて。

夕子 ……そう。やっぱりね。……。じゃあ、

これ、置いてくるよシゲル君に。

ゲン ああ。

夕子 ふふふ……なんか、変な答えだなあ。

じゃあ、野球は九人でやるからもっと楽しいじゃない。

ミゲル 野球は九人しか出られないからね……。

夕子 ……。

シゲル ようし、今日は俺もマーシャンやるぞ。最近負けるからな。

夕子 シゲル君、ベンチ入りのメンバーって、

いつ発表になるの。

シゲル ……明日。

夕子 そうか、明日かあ。

シゲル ……。

夕子 ようし、じゃあ今夜は前祝いにマーシ

ヤンやろう。わたしも入れてもらおうって

ね、いいでしょう。

シゲル そりゃもちろん。みんな喜ぶよ。

夕子 ウソだあ。みんな私が入ると遅くて調

子狂うって、けなしてるくせに。ちゃんと

知ってたんだから。

シゲル ……夕ちゃん、あのさ……。

夕子 なに？

シゲル 夕ちゃんは、あの……好きな人とか、

つき合ってる人とかいるのかな。

夕子 ……。

シゲル あ、いるよね、もちろんいるよね。

夕子 い、いないわよ、そんなの。なによ突

然、シゲル君たち。

シゲル ほんと、ほんとにいないの。

夕子 いないわよ。

シゲル そうか、ハハハ、いないのか。

夕子 なによ、笑うことないでしょう。

シゲル あ、ごめん、笑ったかな俺、ハハハ

……。

夕子 へんなの。

シゲル ……夕ちゃん、あのさ、俺さ……。

夕子 あ、ごめん！ いる！ やっぱ好き

な人いる！

シゲル ……。

夕子 ごめんね、やっぱりシゲル君にはウソ

つけないもんね。片思いかもしれないけど、

好きな人いるんだ。

シゲル ゲンちゃんか？

夕子 そんなあ！ バカ言わないでよ。ゲン

ちゃんは従兄だよ。第一、目じゃないわよ、

あんなの。

シゲル そうか。そうだな、ハハハ。

夕子 ……。

夕子 ね、早く帰ってマーシャンやろう。

シゲル あ、俺、もう少しだから。先に帰っ

てくれよ。

夕子 そう、じゃあ、行ってるよ。

夕子、上手に去る。シゲル、バットを振り始めるが、間もなくやめて、鳥居に向かう。

シゲル 稲荷大明神さま、お願いが一つになつてしまいました。残りの一つを宜しくお願いします。

再び熱を入れてバットを振るシゲル。音楽が入って、暗転。

(マージャンが一段落したらしい)

夕子 わあい、トップ賞だあ！

ハコ アー、ハコテンだあ。

ゲン おまえら女に甘いんだよ。だから夕子なんか負けるんだよ。しょうがねえな、まったく。

夕子 シゲル君、終わったから替わるよ。

ハコ だめだよ、夕ちゃん、勝ち逃げは。

夕子 だって、もう十一時だもん。下へ行かないきゃ。いくらうちのお母ちゃんでも怒る

からね。

タモ これから勉強するんだろ、夕ちゃん。夕子 しないわよ、勉強なんて。(立って)

シゲル君、替わるよ。シゲルくん！ また眠っちゃった。

ゲン 蹴とばしたって起きないよ。タモ 疲れてるんだよなあ、やつぱり。

ヤス 俺だって疲れてるぞ。

ハコ どうしておまえが疲れるんだよ。ヤス 疲れるんだよ、生きることに。

ハコ ずうっと疲れてるバカ。

ゲン 明日ベンチ入りが決まるってのに、い度胸してるよ、シゲは。

夕子 ゲンちゃん知ってたの。

ゲン みんな知ってるよ。夕子、もう下へ行った方がいいぞ。

夕子 うん、じゃあね。みんなおやすみ！

ハコ、タモ おやすみ！

夕子、下手へ去る。

ゲン よし、じゃあ場所替え無しで、このままいくぞ。

ハコ ようし行くぞ、逆転満塁ホームラン。

タモ あわてる乞食はもらいが少ないと。朝

まで時間はたっぷりあるんだぜ。

ゲン おい、ヤス、どうした。

ヤス……。(寝転ろがったまま)

ハコ こら、安上がり、元気出せ、元気!!

ヤス (急に起き上がった) ゲンちゃん、ハコちゃん、タモちゃん……悪いけど、俺帰るよ。

一瞬、みんな静かになる。

ハコ なに寝ぼけてんだよ、ヤス。まだ子どもの時間だぞ。

ヤス ……毎日……お袋に泣かれてさ……

タモ ……三年生の夏だもんなあ。無理もないよ。

ハコ なんだよ、お袋に泣かれたぐらいで。

俺なんかさあ……

ゲン ヤス、帰れ、今すぐ帰れ。

タモ ゲンちゃん、ヤスはさ……

ゲン ヤス、俺が悪かったよ。もつと早く言えよ、そういうことは。いつからなんだ。

ヤス 五月の連休頃かな。

ゲン バカだなおまえ。すぐ帰れ。そして、

明日からこの部屋に来るなよ。

ヤス ゲンちゃん……わるいな、みんな。俺

うらざり者だよな。

ゲン バカ言うな。くだらないことに気にしないで、早く帰って勉強しろよ、おまえ。

タモ そうだよ、そうしろよ、ヤス。

ヤス ……あのさ、この際だからさ……みんなも、しばらくマージャンやめたらどうか

な。

タモ ヤス、調子に乗るなよ。

ヤス ……？ だって、タモちゃんだって、どうしても薬科大に入らなきゃならない……

タモ ヤス、おまえがやめるのは勝手だけだな、他人のことまで口を出すなよ。大きなお世話だ。

ハコ そこまで言うことねえだらう。

タモ おまえは黙ってろよ。

ハコ なんだよ、その言い方は。

ゲン やめろよ、二人とも！

ヤス ……怒るなよ、タモちゃん……。(泣いてるらしい)

タモ 言い過ぎだよ、ヤスが悪いわけじゃないよ。

ヤス ……俺、帰るよ。(立って、下手へ)

ゲン なにも気にすることねえぞ。

タモ そうだよ、ヤス、またいつかな。

ヤス うん、じゃあな。

ハコ ヤス、しっかりやれよ。

ヤス ああ、ハコちゃんもな。(行きかけて振り返り) ハコちゃん。

ハコ くん？

ヤス 少しはマージャンうまくなれよ。(行つてしまふ)。
ハコ？ うるせえ！ 安上がり！ ヤス！
(返事はない。)

——問——

夕子 (下手から入って来て、) ねえ、ちょっとどうしたの。誰かヤスさんと喧嘩したの。

ゲン どうして。

夕子 だって、ヤスさん泣いてたよ。

ハコ けーっ、かつこうつけやがってあの野郎。

夕子 ねえ、どうしたのよヤスさん。

ゲン なんでもねえよ。

夕子 なんでもないのに泣くわけないでしょう。

ゲン 水虫が痛むんだってよ、結核性の。

夕子 ふんだ、人をばかにして。

タモ なんでもないんだよ、夕ちゃん。心配ないよ。

ゲン ほら、早く下へ行かないとおばさんに怒られるぞ。

夕子 へんなの。人が心配してるのに、なに

よ。(怒って行つてしまふ)。

ゲン あのさ、ヤスが言ったこと、考えてもいいんじゃないかな。いつまでも俺に付き合わせるわけにいかねえよ。

タモ ……ゲンちゃん、俺は、自分で、好きでここへ来るんだ。嫌ならいつでもやめるよ。

ハコ 俺だってそうだよ。マージャンやめたら、俺の高校生活なんにも残らねえしよ。

ゲン わかった。じゃあ、明日からもう一人

メンバー捜そう。

ゲン 大丈夫、俺に心当たりがあるよ。前から、入れてくれて言ってるやつがいるんだ。

ハコ よし、それで決まりだな。ところで、どうする。

ゲン そうか、一人足りねえな。

ハコ シゲを起こそうか。

タモ やめろよ。

ゲン もう一度、夕子を呼んでこようか。

タモ おばさんに悪いよ。

ゲン それもそうだな。

ハコ 三人でやるか。ここにヤスがいるつもりでさ。
タモ うん、それでいこう。
ゲン よっしゃ、根生でいくか。
タモ 朝までたっぶり。
ハコ 少年よサイシを抱けつてか。

ガラガラやっている。音楽。暗転。
再び部屋。

シゲル ただいまあ。あれ、今日はみんなどうしたんだよ。
ゲン うん、一人足りなくてさ、やめたよ。
シゲル なんだ、俺がやるのに。
ゲン おまえは途中で寝ちゃうからダメだよ。
マージャンだってな、本気でやらなきゃつまんねえんだよ。
シゲル 今日のメシなんだ。
ゲン おまえの好きなカニコロッケだよ。夕子がつくったからあまりうまくねえぞ。
シゲル 聞こえろとヤバイぞ。
ゲン 大丈夫だよ。本当のことなんだから。
シゲル それもそうだな。(二人笑う) ベンチ入りダメだったよ。
ゲン ……。

シゲル メシ食って来るよ。
ゲン スタンドで応援か。はじめだよな。
シゲル マージャンやつてるよりいいよ。
ゲン おれならがまんできねえな。
シゲル だからゲンちゃんはやめたんだろう。
ゲン ああ、そうだよ。
シゲル だったらそれでいいじゃないか。(上手に行こうとする)

ゲン (シゲルの背中に) 俺は去年の夏、スタンドで応援している三年生の先輩を見て悲しかったよ。見ていられなかったよ。一年の夏は夢中で気がつかなかったけど二年の夏はよく見えたよ。スタンドには高橋先輩も佐藤先輩もいた。一番練習した人がスタンドに居たんだぞ。
シゲル だから、ゲンちゃんはやめたんだろう。そういう世界がいやだからやめたんだろう。それでいいじゃないか。
ゲン そうじゃねえよ。「そんな世界」なんて立派なものじゃなくて、来年は自分がスタンドに居るんじゃないかと思ったんだ。俺はスタンドで応援するのだけはゴメンだと思っただよ。
シゲル だから、いいじゃないか、それで。
ゲン 俺はシゲにもそういう思いはさせたく

なかったんだよ。

シゲル いいかげんにしろよ、ゲンちゃん。スタンドで応援して何が悪いんだよ。仲間が戦ってるのを応援するのはあたりまえだろう。高橋先輩や佐藤先輩が可愛そうだって思い上がりもいとだよ。それがどれだけ先輩を侮辱しているかわからないのか。途中でやめた人間に何がわかるんだよ。
ゲン ……シゲ、やっと言ったな。シゲが正面から俺を見たのは一年ぶりだな。シゲは俺を可愛そうだと思ってたよな。可愛そうだと思つて気がつかってたな。なそうだろう。
シゲル ……。

ゲン 途中でやめて何が悪いんだ。え、シゲ。俺は途中でやめた。たかが野球じゃねえか、いやになったらやめたっていいじゃねえか。なんで罪人を見るような目で見るんだよ、みんな。
シゲル だから学校休んでマージャンやつてんのか。
ゲン シゲ、俺は自分が負け犬だってことは知ってるよ。だけどシゲ、おまえは本当に納得してるのか。甲子園という言葉に縛られて、考えることをやめちゃってるんじゃないか。

ねえか。

シゲル 甲子園に縛られてるのはゲンちゃんの方じゃないかな。もう一年も過ぎたんだぞ。ちゃんと学校へ行けよ。ちゃんと自分の生活を始めろよ。

ゲン シゲ、おまえ、どうしてそんなに落ち着いていられるんだ。え、今日はどういう日なんだよ。三年生のおまえが、最後の大会で、スタンドで応援なんだぞ。くやしきねえのかよ。

シゲル 俺、バット振ってくるよ。

ゲン 待てよシゲ。二年生のキャッチャーもベンチに入るのか。

シゲル ああ、入るよ。

ゲン おかしいと思わねえのか。おまえは三年間休みなくやってきたんだぞ。二年生には来年があるじゃねえか、おかしくねえのか。そういうこと考えねえのかよ。

シゲル そんなことをゲンちゃんが言うとはな。そんな部員一人ひとりの気持まで考えてたら野球は勝てないよ。勝つために俺たちはやってきたんだ。甲子園に行くためにやってきたんだ。そんな甘っちょろい感情に負けて、そのために試合に負けたらどうするんだ。九十人の部員全員の努力が消え

てしまうんだぞ。

ゲン だから、だから勝つことがすべてなのかってんだよ。

シゲル 月並みなこと言うなよ。

ゲン なんだと。

シゲル ゲンちゃん、中学の時、そんなこと言ったことがあったかな。俺たちは二年生からもうレギュラーだった。あの時だって試合に出られない三年生は何人もいたんだ。あの頃ゲンちゃん、今のようなこと言ってたかな。

ゲン ……。

シゲル やっぱバット振ってくる。すぐ帰るから。

ゲン 立派すぎるよシゲ、それじゃかつこよすぎるよ。かつこつけるなよシゲ、おまえの本当の気持を聞かせろよ、な、シゲ!!

シゲル黙って出て行こうとする。ゲンが止めようとしてもみ合う。シゲルがゲンを引きずり倒す。出て行こうとするシゲルに再びとびかかるゲン。しかし、また倒される。もう一度同じ動作を繰り返して、二人とも床に倒れる。静かになる。

ゲン すごい力だな。

シゲル そっちが弱くなったんだよ。

ゲン そうらしいな。

シゲル 去年までは、俺なんか片手でやられていたんだぞ。

ゲン 子どもの頃、よくシゲを泣かしたよな。シゲル かたき討つんなら今だな。

ゲン ……シゲ、野球ってなんだ。三年間、夏も冬も、春も秋も練習してさ、夜もバット振って、眠れば野球の夢見て、それで最後はスタンドで応援かよ。なあシゲ、練習ってなんだ。練習するのは試合のためにやるんだろう。試合に出ない練習なんてあるのかよ。え、シゲ、野球ってなんだよ。

シゲル ……わからないよ、俺だって。
ゲン シゲ、ひとつだけ正直に答えろよ。ほんととは、野球やりたいんだろう。その辺のものの全部ぶっ壊したいんだろう。

シゲル ……悔しくはないよ。そんなことは覚悟の上だからね。

ゲン けつ、ウツつきがあ。

シゲル ゲンちゃんも、一つだけ正直に答えろよ。ほんととは、野球やりたいんだろう。ゲン ばか言え、野球なんて、もう沢山だよ。

全日本リアリズム演劇会議住所録

東 会 議

B	劇 団 名	住 所	電 話
北海道	劇 団 さ っ ぽ ろ	063 札幌市西区宮の沢3条4丁目14-8	011-663-6251
	劇 団 新 劇 場	065 札幌市東区伏古11条2-396-47	011-784-9908
奥羽ブロック	劇 団 弘 演	036 弘前市品川町1 ブラジル内	0172-35-4670
	劇 団 支 木	030 青森市長島町4丁目21-3	0177-77-4677
	黒石演劇研究会	036-03 黒石市乙徳兵衛町51 加賀谷方	01725-2-4097
	劇 団 東 風(やませ)	031 八戸市鮫町下松苗場14-183 梶谷方	0178-33-1913
	劇 団 未 来 半 島	039-51 むつ市旭町12-22 沼尻渡方	0175-24-1189
東北ブロック	劇 団 山 形	990 山形市東青田町5丁目8-5	0236-32-4105
	劇 団 だ い こ ん 座	997 鶴岡市青柳町42-32 たんぽぽ保育園内	0235-24-1688
	仙 台 小 劇 場	980 仙台市青葉区五橋1丁目5-13 平和友好会館2F	0222-64-2340
関東ブロック	劇 団 群 馬 中 芸	371-01 群馬県勢多郡富士見村大字赤城山大河原 626-498 未来スタジオ	0272-88-2700
	劇 団 埼 芸	330 大宮市染谷1171-4	0486-84-3802
	劇 団 アポストロフィー	359 所沢市山口403-2 平石方	0429-28-5374
	舞 芸 小 劇 場	176 東京都練馬区豊玉上2-3-15 今成方	03-3922-1660
	青 年 劇 場	160 東京都新宿区新宿2-9-20 問川ビル6F	03-3352-6922
	劇 団 銅 鑼	175 東京都板橋区成増5-1-2 米丸ビル	03-5997-9461
	東 京 芸 術 座	177 東京都練馬区下石神井4-19-11	03-3997-4341
	劇 団 展 望	166 東京都杉並区阿佐ヶ谷南3-3-32	03-3393-2739
	世 仁 下 乃 一 座	168 東京都杉並区方南町2-24-5 第二広栄ビル501	03-3316-9496
	演 劇 集 団 石 る つ	135 東京都江東区森下5-11-8 荒川ビル 吉川復写工業管内	03-5600-0270
	京 兵 協 同 劇 団	211 川崎市幸区古市場2-109	044-511-4951
	演 劇 集 団 土 くれ	105 港区虎ノ門1-12-1 虎ノ門第一法規ビル 福田事務所内	03-3508-0104
	劇 団 阿 修 羅	157 東京都世田谷区南烏山2-33-15 川崎方	03-3309-8633
	三 浦 半 島 劇 団 海	230-01 神奈川県三浦市南下浦町菊名56	0468-88-3142

シゲル けつ、ウソつきがあ。

ゲン ……。

シゲル ゲンちゃん。

ゲン うん？

シゲル どっちにしても、俺たちの甲子園は
まもなく終わるよな。

ゲン 俺たち？

シゲル うん。

ゲン ……。

シゲル 酒買つてこようか。

(ゲン、ベットの下のからウイスキーを出して
て見せる)

シゲル お、バーボンだあ。ふんばつしたな
あ。よっしゃ、早いところやつてくるよ。(バ
ットを持つ)

ゲン やめとけよ、今日ぐらい。

シゲル 習慣だよ、習慣。(出て行く)

シゲル おいシゲ、帰りに氷買つて来いよ。

シゲル O・K。

ゲン タ子に見つかるなよ、うるせえから。

シゲル O・K。O・K。

夕子が入ってくる。

夕子 あたし、そんなにうるさいかなあ。

ゲン なんだ、聞いてたのか。

夕子 うん、階段で聞いてた。あんなにどた
ばたやるんだもん。誰だつて見に来るわよ。
ゲン ……。

夕子 シゲル君、かつこいいいよね。

ゲン ああ、かつこよう過ぎるよ。

……。

暗転。神社の前。シゲルが立っている。

シゲル 稲荷大明神様、二つ目のお願ひもダ
メになりました。……あ、もちろん、あな
たのせいではありません。俺の力が足りな
かったんです。今日はショックで油揚げを

作者の紹介
石原哲也(本名 児玉洋次)
昭和16年生まれ。秋田県角館町で中・高
時代を過ごす。福島大学を経て、高校教員
に。30才を過ぎてから、演劇部の顧問にな
り、53才の現在まで、8本の脚本を書く
(まったくの素人で、見よう見まねで)。

現住所 970 福島県いわき市中央台鹿島
再演 平成6年8月末 国立劇場で上演。

三丁目33-19(湯本高校教諭)

※ 「少年よ妻子をいだけ。」という台
詞は、ちばてつや作『俺は鉄兵』(講
談社コミック)より借用しました。

買ってくるのを忘れました。すみません。
そのかわりと言うわけではありませんが、
今日はお願ひがありません。お願ひするこ
とがなくなつてしまいました。……でも……
……またいつか……。

片手にバットを持ったまま、下を向いて
泣いているシゲル。

甲子園の歓声が徐々に高まって……幕。

劇 団 名	住 所	電 話
演劇集団未踏	121 東京都足立区梅島1-9-1	03-3880-0034
蒼 生 樹	241 横浜市旭区川島町1927-9 河住靖一方	045-373-4571
演劇サークル麦の会	133 東京都江戸川区北小岩7-3-20 吉岡方	03-3659-8704
川崎演劇塾	214 川崎市多摩区寺尾台2-8-1 小川雅功方	044-951-9819
劇 団 津 演	514 三重県津市大門31-28 仏教会館内 岸武雄方	0592-26-1089
演劇研究所	420 静岡市秋山町2-1715	054-271-0177
劇 団 は に わ	462 名古屋市北区福德町18A-507 下高原多美子方	

西 会 議

劇 団 名	住 所	電 話
劇 団 京 芸	612 京都市伏見区納所北城堀31-18	075-631-2609
人 間 座	606 京都市左京区下鴨東高木町11	075-721-4763
人形劇団京芸	611 宇治市白川鍋倉山35-20	0774-21-4080
関西芸術座	545 大阪市阿倍野区文の里4-1-14	06-621-2112
劇 団 潮 流	557 大阪市西成区松1丁目6-17 橋モータープール内	06-658-2315
劇 団 未 来	536 大阪市城東区成育1-4-25	06-939-5777
劇 団 き づ が わ	551 大阪市大正区泉尾4-2-7	06-553-7991
劇 団 大 阪	542 大阪市中央区谷町7-1-39-103	06-768-9957
劇 団 コ ー ロ	546 大阪市東住吉区今川8丁目5-9	06-705-2805
人形劇団クラテル	559 大阪市住之江区南加賀屋町3-1-7	06-685-5601
劇 団 息 吹	578 東大阪市中野244-14	0729-64-4441
演劇集団わだち	553 大阪市福島区福島6-12-17 川村ビル4F	06-458-1455
大阪府職劇研	540 大阪市東区大手前元町 大阪府職労第2書記局内	06-941-0351
演劇集団和歌山	641 和歌山市和歌浦南1-1-14	0734-45-4537
劇 団 四 紀 会	650 神戸市中央区元町通2丁目9-1-612	078-392-2421
劇 団 ど ろ	652 神戸市兵庫区大開通7-4-7 谷垣ビル4F	078-576-6488
神 戸 職 演 連	650 神戸市中央区下山手通9-9-7 西藤ビル2F	078-351-6969
劇団市民劇場やぎ	664 伊丹市大鹿5丁目67 貫名俊行方	0727-82-2573
劇 団 か す が い	663 西宮市小松南町1-13-19 樋口伸広方	0798-46-9564
劇 団 月 曜 会	730 広島市中区榎町4-27 岩井方	082-234-9656
劇 団 若 者 座	755 宇部市松山町4-10-24 東洋針灸科内(天羽方)	0836-21-7468
演劇サークル・トラム	753 山口市東山2-9-10 藤原方	0839-22-0393

B	劇 団 名	住 所	電 話
山 ブ ロ ッ ク 静	劇 団 や ま な み	400 甲府市青沼1-8-5 梅津方	0552-33-9556
	劇 団 静 芸	420 静岡市昭府町1丁目10-27	0542-73-0604
	劇 団 から っ か ぜ	431-02 浜松市篠原町21505	0534-49-0937
	劇 団 火 の 鳥	420 静岡市阿部口団地5-38-407 泉地守方	054-296-1297
中 部 ブ ロ ッ ク	岡 崎 演 劇 集 団	444 岡崎市元欠町3-10-3 浅井方	0564-21-2614
	劇 団 名 芸	468 名古屋市天白区平針1丁目1808	052-803-2922
	劇 団 名 古 屋 演 集	451 名古屋市西区庄内通4-16-3	052-524-5975
	劇 団 名 古 屋	456 名古屋市熱田区新尾頭町2-2-19	052-682-6014
	上 野 市 民 劇 場	518 上野市丸の内 共同ビル3F	0595-23-5252
	劇 団 す が お	511 桑名市森忠睦美丘1058	0594-31-4210
	劇 団 夜 明 け	508 中津川市北野丸山	0573-65-4937
	劇 団 は ぐ る ま	500 岐阜市西野町1丁目	0582-65-1852

個 人 加 盟

氏 名	住 所	電 話
萩 坂 桃 彦	214 川崎市多摩区菅2-3-7 マ・メゾンコヤマ402	044-946-3659
桜 井 裕 子	921 金沢市山科3丁目6-10 早川方	0762-44-2802
大 橋 喜 一	210 川崎市幸区小向仲野町3-2-406	044-533-3779
岡 田 和 義	176 東京都練馬区羽沢2-12-8	03-3991-1723
こうじ谷 一朗	924 石川県松任市若宮町2-4	0762-75-2755
大 原 穂 子	215 川崎市麻生区万福寺2-14-5	044-966-8125

友 好 劇 団

劇 団 名	住 所	電 話
アートステージくしろ	085 釧路市貝塚1-6-19 加藤猛春方	0154-42-8009
劇 団 新 芸	047-02 小樽市銭函町3-23-162 鹿角優一方	0134-62-3254
劇 団 河 童	090 北見市幸町8-3-4 扇谷国男方	0157-24-3357
劇 団 湖(うみ)	068-21 三笠市本郷町578-9 加藤元方	01267-2-3044
釧 路 演 集	085 釧路市寿2-5-13 中山知征方	0154-23-5151
劇 団 ベ ル ソ ナ	062 札幌市豊平区4条12丁目8-4 秋元博行方	011-811-9036
函 館 創 芸	040 函館市川原町2-5 長谷川潔方	0138-53-7520
劇 団 海 鳴 り	094 紋別市潮見町2-3-40 我孫子正好方	01582-3-3238

全リ演の新しい役員決まる

全日本リリズム演劇会議は今年八月の東西それぞれの総会で新しい役員を次のように決めました。

議長団

(東) こばやしひろし (劇団はぐるま)

西

仲

武司

西竺

座)

再

猿

公

附

戲場

三

事務局長
事務局次長

編輯長

編輯委員(東)

早川 昭二
萩坂 桃彦
境野 修次
石垣 政裕

(劇団どら)
(演劇集団石るつ)
(仙台小劇場)

新新再 再 再新再再再再新再再再
編集委員住所録——

編輯委員(西)

栗原省

(劇団いっちら)

再

楠本 幸男

（演劇集團和歌山）新

「阿修羅」、「海」の二集団が加盟

昨年の、劇団未来半島（青森県むつ市）、劇団火の鳥（静岡市）に続き、今年も二集団が全リ演に加盟しました。

劇団阿修羅（代表・岡部政明氏）は東京都世田谷区に事

務所を置く、プロ劇団出身の俳優を中心とした八名の劇団で、創立三周年公演「怒れる十二人の男たち」を上演したばかりです。

もう一つの集団は、三浦半島劇団「海」(代表・神田時枝さん)で、一九八六年に結成したアマチュア劇団。神奈川県三浦市で、地域のことをとりあげた創作劇をこの七年間毎年上演しています。

劇 団 名	住 所	電 話
劇 団 演 劇 街	753 山口市巾園街1-3 やの舞台美術内	0839-24-0075
劇 団 あ し ぶ え	690 松江市砂子町209-3	0852-27-3050
劇 団 こ じ か 座	790 松山市木屋町4丁目35-1 酒井方	0899-24-3415
福 岡 現 代 劇 場	810 福岡市中央区薬院1-6-5-410	092-751-7982
劇 団 生 活 舞 台	815 福岡市南区長丘2丁目15-4-401 平原義行方	
劇 団 道 化	818-01 太宰府市太字太宰府2629-10	092-922-9737
テアトル・ハカタ	812 福岡市博多区下川端町9-15 溝口ビル3F	092-271-5090
劇 団 螺 線 館	660 尼崎市杭瀬北新町3-47 尾尻コーポ4F	06-488-9215
岡山職場演劇集団	719-11 総社市富原480-3 岩城方	08669-2-4325
劇 団 阿 波 っ 子	771 徳島市佐古三番町8-17 船越智子方	0886-23-5670
又 川 邦 義	563 池田市井口堂3-1-6 (個人加盟)	0727-61-9641
サ ー ク ル 瞬	602 京都市上京区仁和寺街道千本東入 西陣文化センター (友好劇団)	075-431-3169
演 劇 集 団 あ り	683 米子市昭和町23-2 宮倉方 (友好劇団)	0859-33-9302

議 長 団	所属劇団	住 所	電 話
こばやしひろし 後 藤 陽 吉 中 沢 研 郎 中 野 健 仲 武 司 藤 沢 薫	劇団はぐるま 青 年 劇 場 京浜協同劇団 劇 団 支 木 関 西 芸 術 座 劇 団 京 芸	501-01 岐阜市寺田852 円成寺 184 小金井市貫井南町 5-12-13 211 川崎市幸区古市場 2-109 030 青森市長島 4-21-3 劇団支木内 606 京都市左京区上高野上荒蒔町 1-1 615 京都市西京区榎原内垣外町 25-1 A 403	0582-51-0490 0423-81-1590 044-555-4066 0177-77-4677 075-701-2570 075-391-5039
梶 武 史 猿 渡 公 一	劇団四紀会 福岡現代劇場	673 明石市東野町 1-5-1009 814 福岡市早良区有田 2-10-4	078-911-1513 092-831-1696
事 務 局			
城 谷 護 浅 野 真理子 加 納 美千子 熊 本 一	京浜協同劇団 劇団はぐるま 劇 団 大 阪	211 川崎市幸区東古市場 9-21 事務局長 500 岐阜市西野町 1-11 劇団はぐるま内 542 大阪市中央区谷町 7-1-39-103 (西会談事務局長)	044-544-3737 0582-65-1852 06-768-9957

シンマイ編集長の弁

(劇団銅鑼・演出家) 早川昭二

ハガキ一枚も、書くのは苦手という男がいました。そ奴が、私・早川です。それが、当機関誌の二代目とは——？

結果として、引き受けることになる一番のキツカケは、この正月、萩坂編集長と「京浜協同劇団」の仲間たちの、痛ましい交通事故。そして萩さん辞任の申し入れ。

何しろ「演劇会議」誌のピンからキリまでを、発送から誌代の催促・回収に至るまで、三十数年間も、たった一人で背負い続けてこられた萩さんです。

ガリ版時代からの読者である私が、その萩さんからの大恩に、何か——万分の一でも出来る何かで、報いなければ申し訳がたぬ思いに駆りたてられました。

そこへ、追っかけるみたいに議長団からの打診——「八二代目を」と。正直、困った。私個人も、劇団銅鑼も。

しかし、「編集委員会」の新設、「集団編集体制」への移行、編集長の「実務は免除・関東ブロックで」と说得されて、私は、反論も、断わる術もなく、劇団運営委の承認を経て、今日の破目に相なった次第——。ささやかな当方を

の条件は、「二、三年の間」、その先は「40・30・20才代へ世代交替を」でありました。

ところで、今日、全国各地劇団の活動には、目を見張らせるものがある模様です。最近の調査資料では、東京を除く全国のアマチュア劇団数が、なんと「九百三十」とか。演劇祭も、各地で盛況。その他、サークル的なグループの存在も視野に入れると、恐らく史上最大(?)となるのではないかとすれば、わが全演の歩みと、今後のあり様や役割りは、如何なることになるのだろうか。

私は、ともすれば劇団愛国主義になり勝ちな劇団制という在り方を、少しづつでも外へ開いて、その行動が、劇団(内部)へ揆ねかえって来るような状況を夢みています。目下、新編集部は、86号の最終段階。よろしく、ご批判、ご協力のほどを——。(一九九四年十月)

☆戯曲の掲載経過。昨年末、「俺たちの甲子園」を入手——本命と直感。その後、編集部宛に送られた数作品を拝見、読み較べた。『俺たちの甲子園』に決めたのは、同作者の他の五作品にも目を通し、念のため、記録ビデオで舞台イメージも確認しての結果です。

☆その後、10月31日(本稿、校正の直前)、劇団銅鑼の総会で、来年5月、新人公演(於・成増「アクト・ホール」)の演目と決定。☆同作品の上演希望の方は、上演権が劇団銅鑼に委託されたので、山田昭一・早川昭二まで、ご相談を。

ご意見、お寄せ下さい。

編集後記

▼集団編集体制で新たな出発。編集と実務の仕事は苦勞が多い、萩坂元編集長のご苦勞が身に染みて感じました▼早川編集長を中心に集団体制は各自の努力と協力で作りました▼関東ブロックで初校の校正に十人が集まりました。仕事に入る前に、全演事務局局長城谷護氏から「編集とは」の講義があり、皆、おおいにやる気満々▼編集はバランスとパーソナリティーの統一などと言われますが、計画通り進めるのは難しい▼全演演

加盟外の劇団や人々に読んでいただける内容とも考えました。いかがでしょうか▼そこで各劇団に一部ないし二部を普及用として送りましたので、是非、活用して下さい▼そして加盟外の読者からのご意見・ご感想を編集部に寄して下さい▼巻頭の論文『私の戦争責任』とは、は敗戦五十年を機にみんな「戦争と新劇」を考えたらどうだろう。とこぼやさんの話はその手はじめとして書いてもらいました▼若い人には、文中の南京虐殺、戦争犯罪、五・四運動

聖戦、従軍慰安婦等など、あまりなじみのない単語が出てきます。解説をつけようと思いましたが、やめました▼若い人も古い人も互いに意見を交換し合って、戦争と歴史的背景など、積極的に学習しあうことを熱望します▼最近、戦争とぬきさしならず、多くの作品で関わって来た木下順二さんがテレビでこんな発言をしていました▼「人は未来を急ぎすぎる。あまり多くの未精算の過去

を残したまゝ」▼この言葉の意味を、僕たちはどう受けとめていくか、みんな考えてみたいと思います▼グラビアは基本的には八頁だてでいきます。出来れば一頁に三枚まで写真を入れたいと考えています▼桜井郁子さんの「ロシア演劇レポート 1」は、新たなものとして、出版していただきました▼今までの「モスクワ・レポート」は、多くの人から深い感心が寄せられていました▼是非とも桜井郁子さんに続けていただきたく、早川編集長がお願いし、心よく受けていただきました▼元編集長の萩坂さんをお願いして、萩坂(もも)さんページを連載することになりました▼あの萩坂さん独特の切れ味鋭い劇評が期待されます▼特集では、女性が劇団活動が続けるためには、赤松さん他の人達の努力で掲載出来ました

が、もう一つの特集若い人達の活動や声、などの企画が出来ませんでした。次号には是非実現したいと考えます▼中グラビアの人物紹介ページは西会議の方で、もう一名紹介できず▼東・西各二名計四名は紹介していく方針です▼読者のページは必ず一ページ設けたい、個人の意見・感想も大切にしたい▼連載ものとしては、「スタッフ」の話も続けたいと考えます。いろいろな企画が考えられますが、アイデア、企画など、どしどし編集部にお寄せ下さい。みなさんの力でより良い「演劇会議」にしようではありませんか。編集委員一同、意欲を燃やし努力していきます。

(文責・境野)

演劇会議 86号 1994年11月27日発行

定価 700円(送料240円)

編集委員 早川昭二 萩坂桃彦 境野修次 石垣政裕 栗原省 赤松比洋子 楠本幸男

発行所 演劇会議発行所

〒135 東京都江東区森下5-11-8 荒川ビル 吉川複写工業内(境野修次)

電話 03(5600)0270 FAX 03(5600)0271